

北の今・人・明日

Hoppoken



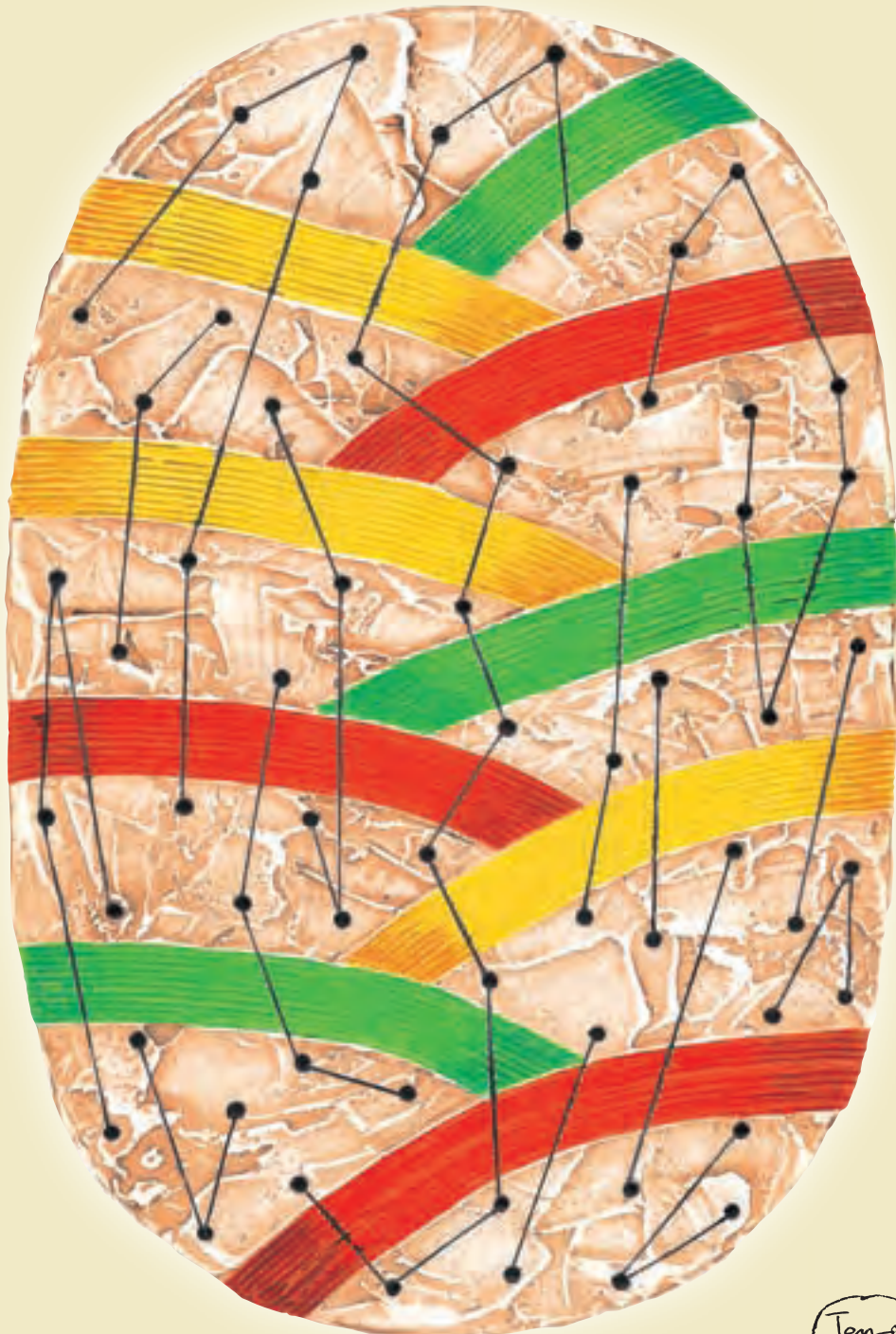
2010
SPRING
Vol.151

季刊 北方圏



Northern Regions Center (NRC)

社団法人 北方圏センター



特集 北欧にはなぜ死刑がないのか？

Ten ei
Aee

知床の四季



水仙花咲く原野と残雪の知床連山

戦後間もない1950年頃、知床五湖と地続きの不毛の大地、岩尾別の原野に20軒ほどの開拓農家が入植していた。雪解け後、その当時の足どりを探し求めて熊笹やイタドリ等の雑草が生い茂る脇道に踏み入った。

嘗ての開拓者の廃屋が草むらに散在していた。厳しい風土や生活に耐えて生きてきた住人の名残であろうか、そこには枯草をもたげて数株の鮮やかな黄色の水仙花が残雪の知床連山を背景に咲き誇っていた。

撮影・文／綿引 幸造

撮影地：知床国立公園 斜里町 ウトロ

ホームレスを 生み出し続ける時代



作家

雨宮 処凛

06年頃から貧困問題にかかわって、常々気になっていることがあ
る。それは、東京などで出会うホ
ムレスの人に北海道出身の人が多
い、ということだ。

これは北海道出身の私にとってシ
ョックだった。現在私は35歳だが、
同世代の北海道出身の人が地元から
遠く離れた東京で路上生活を余儀な
くされているという事態。いや、同
世代だけではない。40代、50代の人
も多い。1年前の年越し派遣村に來
た40代後半くらいの男性は、釧路出
身。出稼ぎに来ていた関東で仕事を
失った彼は、暖房も何もない狭い
「レンタル倉庫」でしばらく暮らし
ていたという。

「北海道は派遣会社の草刈り場」
「北海道に仕事がないから本州へ
働きに出る」。そんな人たちが08年
の「派遣切り」で真っ先に職と住む
場所を同時に失い、地元に戻るお金

もなく途方に暮れ、路上生活が長期
化するのを余儀なくされている。
北見で出会った20代の若者は、「北
海道は派遣会社の草刈り場」と表現
していた。

仕事がないからどんなに低賃金で
も道外の派遣の仕事に飛びついてし
まう。そうして待っているのは知り
合いもなく土地勘もないまったく見
知らぬ地での路上生活だ。そんな人
たちが今、都会の炊き出しに並んで
いる。若者の姿も目立つ。「帰るのが
申し訳ない」「帰っても仕事がない」。
そんな言葉も耳にする。

生活保護受給の壁

昨年未、生活保護申請に同行した
40代の男性もそんな「出稼ぎ」の人
だった。彼の出身は北海道ではなか
ったものの、地元で仕事がないので
上京して働き、家族に結構な額の仕
送りをしていたのだ。子どもも孫も
いるその男性の妻は病気で医療費が

月に20万円ほどかかる。結婚してい
る子どもの収入は月に5〜6万円ほ
ど。そうして東京で働いていたもの
の、仕事がなくなくなってしまふ。職も
住む場所も失ったその男性がその後
どうやって12月の東京で暮らしてき
たのかはわからない。しかし、私が
出会った時は既に無一文で、荷物も
捨ててしまっていた。着替えも何も
持たない男性を前に、私は思った。

「もしかして自殺しようとしていた
のではないだろうか」と。もちろ
ん、家族は何も知らない。
その日、彼と一緒に生活保護申請
に行ったものの、「出稼ぎだから」
という理由で生活保護申請をするこ
とはできなかった。生活保護は世帯
単位なので、出稼ぎの人の場合、保
護義務は出稼ぎ元があり、出稼ぎ先
で受けられないのだという。4時間
粘っても結果は同じ。今現在一円も
持たず、地元に戻る交通費もない人
を「救う」手立てがないのである。

「死ねってことですか?」
男性は、福祉事務所の職員にそう
詰め寄った。私も同じ気もちだっ
た。結局、男性はホームレスの緊急
一時保護施設に入ることになったも
のの、相部屋などの環境に耐えられ
なかったのか、数日出ていってしま
まい、連絡が取れないままだ。こう
して「出稼ぎ」から困窮に至った人
は、最後のセーフティネットからも
漏れてしまっている。

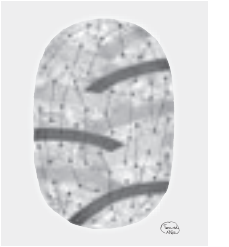
貧困の根は地方にある

都会でない場所に行けば行くほ
ど、「ホームレス問題は東京や大阪
などの大都市の問題」という認識に
出会う。しかし、その内実は正反対
だ。都会でホームレスをしている人
は圧倒的に地方出身者が多く、特に
北海道、沖縄、東北が目立つ。これ
らの地域の失業率を見ればそのから
くりがわかるだろう。

近所で出稼ぎに行っているオジサ
ンやお兄ちゃんがホームレスになっ
ているかもしれない時代。私たち
は、そんな時代を生きている。

あまみや・かりん 1975年北海
道生まれ。反貧困ネットワーク副代
表、「週刊金曜日」編集委員。09年末よ
り厚生労働省ナショナルミニマム研究
会委員。

<表紙説明>
美術家・阿部典英氏制作の
「交差する星の路」



巻頭辞 ホームレスを生み出し続ける時代 作家 雨宮 処凛 3

北欧にはなぜ死刑がないのか？

神ではない国家に人命は奪えない

フィンランド大使館 ヤン・ヴァールバリ公使参事官に聞く

残酷な犯罪者の命にも価値がある

スウェーデン大使館 ステファン・ノレイン大使に聞く

犯罪防止に死刑は意味がない

ノルウェー王国大使館 ドッテ・バッケ一等書記官に聞く

無実の人を処刑するリスクを避ける

デンマーク大使館 フランツ・ミカエル・スキョル・メルビン大使に聞く

〈特別寄稿〉死刑制度について——ヨーロッパの視点から

スウェーデン国立防衛大学・ストックホルム大学名誉教授 オーベ・プリング

死刑とメディア——100年前に死刑を廃止した北欧から考える

ジャーナリスト・同志社大学教授 浅野 健一

治安が良いのに恐怖が煽られる不思議な国ニッポン

ドキュメンタリー作家 森 達也

ロンドンで暮らして⑩ 英国の薬物問題 日系銀行勤務 由紀子アンダーセン 30

ようこそ北方圏センターへ 写真 足立 栄治 文小川 巖 34

北の自然⑩ へ拡大版へ札幌・街なかの野鳥素描 写真 足立 栄治 文小川 巖 36

森の国・スウェーデンの現場主義林業 森林・林業研究者 内田 健一 42

ロシア・サハ共和国の教育と研究 北海道大学大学院文学研究科助教 立澤 史郎 46

朝鮮学校の言語教育① 北方圏センター出版部長 山田 寿彦 50

英語教育を考える——日本における課題と教師の役割 北海道工業大学准教授 坂部 俊行 54

聴覚障害児教育の体制作りをフィリピンで支援——その成果と課題 前環境省国立公園課長 元ボゴール駐在 JICA 専門家 鍛冶 哲郎 60

フィリピン見聞記——「フィリピン耳の里親会」の活動の現場から フィリピン耳の里親会理事長・北海道旭川聾学校教諭 中泉 貢一 62

インドネシア・生物多様性保全事業に携わって 前環境省国立公園課長 元ボゴール駐在 JICA 専門家 鍛冶 哲郎 66

アンゲル② 知床の四季 水仙花咲く原野と残雪の知床連山 撮影・文 綿引 幸造 2

新・北の美 田中 良「バス停のある浜辺」 北のアルプ美術館館長 山崎 猛 38

〈新連載〉「これからのひと」① 写真・文 酒井 広司 41

〈新シリーズ〉名誉領事に聞く① 在札幌フィンランド共和国名誉領事 横山 清さん 写真・文 酒井 広司 58

〈新連載〉アンニョンハセヨ こんにちは NPO法人さっぽろ自由学校「遊」共同代表 林 炳澤 64

「韓国併合」100年目にあたって NPO法人さっぽろ自由学校「遊」共同代表 林 炳澤 64

ルーツで語る北海道の人物 中島みゆきと帯広市の中島公園 苗字研究者 岸本 良信 68

〈新連載〉ターノフ先生の相談コーナー 第1回 チップ (Tipping) 北海道医療大学教授 ハワード・N・ターノフ 69

〈新連載〉北のさかなッニン 美術家 阿部 典英 78

第8回北方圏講座 講師 エレーナ・ディング・シユークルンドさん 65

福祉大国スウェーデンを支える鍵とは？ 講師 エレーナ・ディング・シユークルンドさん 65

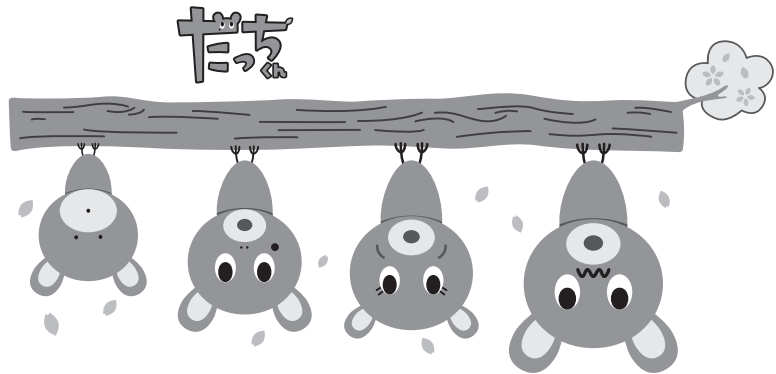
オピニオンのひろば 71

NRCC だより 73 さるーん 75

北方圏センター掲示板 76 編集後記 77

フリーダイヤル よみうり よみうり ハイ どうぞ

購読のお申し込みは  0120-4343-81



もっと、伝えたい。

読売新聞



好評、連載中

月曜から土曜まで毎日、

ポケモンたちとともに200個の熟語を掲載しています。

特集:北欧にはなぜ死刑がないのか？



日本人の85.6%が死刑を容認——。内閣府の世論調査結果を2月7日、新聞各紙は一斉にこう報じた。自分の考えが多数派であることを確認して安心した日本人がいるかもしれない。しかし、国際社会で死刑存置国は圧倒的少数派。世界の3分の1に過ぎない。先進国に限ると日本と米国だけ、とさらに分が悪い。

民主党政権になり、死刑廃止派の千葉景子氏が法務大臣に就任して以来、日本では執行が止まっている。民主党政権が検証される過程で、死刑執行の停止が今後クローズアップされるだろう。裁判員制度の下で裁判員が死刑求刑事件に直面する日も

近い。日本人にとって今年が死刑制度に否応なく向き合う年になるはずだ。

死刑を廃止した国々はどのような歴史を経て死刑廃止に到達したのか。国民はどのような論理で死刑廃止を受け入れたのか。それを知るとは死刑の是非を考える貴重な材料になるに違いない。死刑廃止国の北欧4カ国（フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク）の在日大使館に、死刑廃止に至るまでの歴史と論理をずばり聞いた。犯罪者に対する恐怖と憎悪をおおる日本のメディアの問題を併せて考える。

(インタビューの聞き手は北方圏センター出版部長・山田寿彦)

神ではない国家に人命は奪えない

フィンランド大使館

ヤン・ヴァールバリ公使参事官に聞く

エーデンの一部だったので、スウェーデンの法律に準じて死刑がありました。

1823年以降は死刑の代わりにシベリアへの流刑が宣告されるようになりました。死刑は基本的には法律からは消えませんでした、執行されなくなり、執行は1825年が最後です。

内戦のトラウマ

フィンランドでは、独立した1917年前後にものすごい独立戦争（内戦）がありました。当時の人口300万人のうち、赤衛軍か白衛軍という理由で法的根拠もなく、2万人以上が政治的な理由で処刑されたり、収容所で命を落としました（注1）。

意味もなく多くの人を処刑したことは1920年代以降、フィンランド人のトラウマになりました。当時の状況を描いた映画が最近やっと

作られるようになったほどです。それまではトラウマやロシアとの関係への配慮から映画は作られませんでした。

——1825年の死刑執行は一般的な犯罪ですか。

◆殺人です。遺体は教会から外れた所に埋められ、（死刑囚はさらに）罰金として銀貨24枚を支払わされました。

——それを最後になぜ死刑が執行されなくなったのですか。

◆独立戦争まで死刑の是非は国民的議論にはなりませんでした。1930年代に共産党のリーダーが捕まり、検察が死刑を求刑しました。この事件が国際的にメディアの注目を浴び、このリーダーを処刑すべきか、すべきでないかという賛否の議論が国内で初めて起きました。

1930年代は右派が力を増していたことが、死刑が求刑された背景にあります。

議論は1930年代から

これをきっかけに死刑廃止論が議論されるようになりました。このリーダーは結局、終身刑の判決を受け、第二次大戦後に放免されて戦勝国のソ連に渡りました。

第二次大戦中にあつたソ連との冬戦争（1939年11月～40年3月）と継続戦争41年6月～44年9月の結果、フィンランドでは数百人が死刑となり、処刑されています。大半がソ連人で90%がスパイ容疑。国に対するサボタージュの容疑もありました。1825年の最後の死刑は平時のもので、戦時の死刑としては1944年にソ連人の捕虜3人を処刑したのが最後です。

1949年に平時の死刑が正式に廃止され、1972年に戦時も含めて死刑は完全に廃止されました。1970年代は死刑廃止の動きが北欧全体に起こっていました。第二次大戦が終わり、さまざまなか



——フィンランドではいつ、どのような理由で死刑が廃止されましたか。

最後の執行は1825年

◆完全に廃止されたのは1972年です。1970年代に北欧のほとんどの国で死刑が完全に廃止されました。戦時を除き、最後の死刑が執行されたのは1825年です。フィンランドは1805年までスウ

とを経て始まった動きです。1995年にはフィンランド憲法に死刑廃止が初めてうたわれ、2000年に改正された憲法にも死刑廃止をうたっています。

——その間、国民の間にはどのような賛否の議論がありましたか。

◆この100年間の内乱や第二次大戦の後、政治的理由で法的根拠もなく処刑された人々がいたことについて、フィンランド人の心の中には葛藤がありました。北欧特有の考え方もしませんが、凶悪な犯罪者でも生きる権利と人権があり、国家であろうとも神ではないのだから、それを奪うことはできないという考え方が背景にあると思います。

——EUは死刑制度の廃止は世論の動向ではなく、政治家のリーダーシップで決めるべきだと主張しています。フィンランドでもそのような経過をたどりませんでしたか。

政治的に決めるべき問題

◆そうだと思います。フィンランドもEUと同じ考えです。確かに世論を尊重することもあるかもしれませんが、この問題は政治家がリーダーシップを取り、政治的に決定すべきです。国民感情に左右されるべき

問題ではないとフィンランドも考えています。フランスでも死刑廃止は遅かったが、そういうこと（死刑廃止反対の世論を押し切った）があったと聞いています。政治家がリーダーシップを取り、世論を啓蒙する態度が必要でしょう。もう一つ、（無実の人を死刑にしてしまう）冤罪の可能性についても政府は国民に説明しなければなりません。

——死刑制度の賛否についての世論調査のデータはありますか。

死刑復活賛成は29%

◆2006年の調査結果があります。1262人が対象で、平時の死刑は29%が賛成と答えています。政党支持者別の死刑賛成は左派連合が16%、中道右派が約30%。男女別では男性36%、女性22%です。かつての内乱時の右派・左派の影響が今でも残っていると云えます。

——死刑制度を復活すべきだと主張している政党はありますか。

◆ありません。

刑事罰の最高刑は

◆終身刑です（注2）。

——1年間に発生する殺人事件はどのくらいありますか。

◆2007年が116件、20

08年が119件でした。

——死刑を廃止したことで治安が悪化しましたか。

◆そのような影響はあまりないと思います。平時の最後の死刑執行は200年も前ですから、死刑制度と治安はあまり関係がありません。

フィンランド人は死刑を復活させるべきだとはあまり考えていないと思います。死刑が犯罪防止の役割を果たすとは思えないのだと思います。

——昨年12月31日にヘルシンキのショッピングモールで銃の乱射事件がありました（注3）。自殺した犯人を含め6人が死亡したというのですが、そのような無差別殺人事件があっても世論は死刑を復活すべきだという方向に傾かないのですか。

事件の背景を追求する

◆ほかにショッピングモールに仕掛けられた爆弾が爆発した事件（注4）や、学校での銃乱射事件が2回（注5）ありました。フィンランドでは近年、重大な殺人事件が計4回起きています。だから死刑を復活せよという発想にフィンランド人はなりません。なぜこのような事件が起きたのかを考えます。事件を起こした人間が20代の若者で、社会か

ら孤立していたとしたら、どうしたら事件を防げるか、真似する人が出ないようにできるか、議論はそちらの方向に行っています。死刑復活論には結びついていません。

——身内を殺された家族はどのような気持ちでいるのでしょうか。被害者の家族が「犯人を死刑にしてほしい」と思ったり、メディアでその気持ちを訴えることはありますか。

◆私は日本に来て1年半になります。日本と、フィンランドを含むEU諸国では死刑に対する被害者家族やメディアの受け取り方が違います。日本のメディアは凶悪事件のデテールを追い、家族はこう悲しんでいると詳しく伝えますね。

事件報道に慎重なメディア

フィンランドの新聞やメディアはそうしたことを細かく報道しません。犠牲者の家族は自分たちの経験や感情を他のフィンランド人と共有したいとは思いません。そこが日本とはとても違うところです。フィンランドやヨーロッパでは容疑者の容疑が確定する前に事件を細かく報道することにはとても慎重です。

——被害者の家族に対する公的な救済制度はありますか。

◆精神的、金銭的援助を含めた公的な制度はありません。フィンランドでは地方自治体が大きな役割を果たします。地方自治体の社会保障局がさまざまな援助を提供します。国の法務省のウェブサイトにさまざまな救済を受けられる連絡先が載っています。

—— 犯罪や犯罪者と社会はどのように向き合うべきでしょうか。また、刑罰が果たすべき役割をどのように考えますか。

◆フィンランドでは教育にも言えるのですが、学校で落ちこぼれを作りません。社会においても落ちこぼれを作らない。飛び抜けて優秀な人を学校でも社会でも作らない。みんな平等に、という考え方を持っています。

犯罪の予防を重視する

銃の乱射のような事件を起こす人は社会で孤立していたり、生活で大変な思いをしたりしている人たちがいます。一番いいのは、(そういう人の存在に)早く気づいて予防すること。そのような人たちの社会復帰を図ることです。それがとても必要だとフィンランドの社会は考えています。

死刑や刑罰の役割について、日本

とフィンランドには哲学の違いがあるかもしれませんが。日本を含めアジアでは死刑になるような罪を犯した人間に対し、被害者の家族は自分に代わって国家が復讐してくれと考える。自分は復讐できないけれども、国家による復讐という機能が死刑にはあるような気がします。

その半面、ヨーロッパやフィンランドにはキリスト教的な哲学があるかもしれません。国家は神ではない。凶悪な犯罪人であっても命を奪わない。犯罪の予防や犯罪者のリハビリに力を入れる。そこが刑罰の役割についての認識の違いではないでしょうか。

今、キリスト教の影響と言いましたが、実は北欧の人々はあまり宗教的ではないのです。キリスト教的価値観というよりは、潜在的に人権や命を尊重する気持ちが北欧の人には強いのだと思います。

—— 一般論として国家は税金を集めたり、犯罪者の身柄を拘束したりと、国民に対して一定の強制力を持っている存在です。独裁者がいたり、民主主義的ではない国ほど国家の国民に対する強制力は暴力的になります。自国民のデモ隊に軍隊が発砲したりするのがよい例でしょう。

人間の進歩のために国家の暴力は極力抑制されなければならないという考え方で死刑廃止はつながると考えますか。

◆質問の意図は分かりますし、その意見に賛成です。私は高校生だった1983年に交換留学生としてピノチエツト政権下のチリにいました。ある日の反政府デモで1日に40人が殺されました。そういう経験をしています。

民主的であるほど暴力に反対

その時に思いました。一つの国が民主主義であればあるほど、国民は国家による暴力に反対だと。そこに死刑廃止の考え方が反映されているのだと思います。フィンランドの最後の死刑が200年前だったということにも、それは表れているのではないのでしょうか。

(注1) フィンランドは1809年、スウェーデンからロシアに割譲され、自治権を持つ大公国になった。ロシア革命直後の1917年12月、スヴェインフーブド首相の下で独立を宣言したが、革命による政権奪取を主張する赤衛軍(左派)が政府軍である白衛軍(右派)と翌年1

月に軍事衝突して内戦が勃発。赤衛軍は革命政権を一時樹立したが、約3カ月余りで敗北した。両軍の死者は約3万6000人に達し、この間、特に赤衛軍の捕虜に対し虐殺や拷問が加えられたとされている。

(注2) フィンランドの懲役刑は有期刑が終身刑で、有期刑は最短2週間、最長12年。一定期間服役した後には仮釈放される場合がある。終身刑の仮釈放は大統領の特赦によるのみ認められる。

(注3) 男(46)が銃を乱射し4人が死亡。近くで男の元妻が射殺されているのが見つかり、男も自殺。

(注4) 02年10月、シヨッピングセンターで爆弾が爆発し7人が死亡、約80人が負傷。死亡した化学専攻の大学生の犯行とみられ、自宅パソコンにインターネットで爆弾の製造方法を調べた痕跡があった。

(注5) 07年11月、フィンランド南部の高校で男子生徒(18)が拳銃を発砲し8人が死亡。08年9月には西部の職業訓練学校で男が銃を乱射し10人が死亡、男も自殺。

残虐な犯罪者の命にも価値がある

スウェーデン大使館 ステファアン・ノレーン大使に聞く



——スウェーデンで死刑はいつ、どんな理由で廃止されましたか。

最後の執行は1910年

◆スウェーデンで最後に死刑が執行されたのは1910年です。もう一人、1917年に死刑判決を受けた受刑者がいましたが、収監中に自殺してしまつたため、執行されませんでした。死刑制度が廃止されたのは1921年です。ただし、

これは平時の犯罪が対象で、戦時の死刑制度は存続していました。

しかし、スウェーデンでは戦争がその後なかつたので、戦時の死刑執行もありませんでした。1972年に戦時も含めて全面的に死刑は禁止され、その後、憲法でも死刑が禁止されました。なぜか。死刑は非人道的な刑罰であるからです。死刑の代わりに私たちは終身刑を設けました。人道的な観点から命の価値にかんがみ、いかに残虐な犯罪者であっても、その命を国家が奪うことは許されないと考えました。

死刑は不可逆的な刑罰

もう一つの理由は、死刑は不可逆的な刑罰であり、いったん執行してしまえば取り返しがつきません。司法のシステムは間違いを犯すことがあります。誤審の可能性は否定できません。無実の人が刑を受けた場合、受刑中なら再審のチャンスがあ

りますが、死刑が執行された後に無罪だと分かっても取り返しがつきません。死刑は執行されてしまえば減刑もかなわない。そのような考え方に理解が示されました。

——平和時の死刑廃止、戦時を含む死刑廃止という二つの局面で、国内のコンセンサスをどのように取りましたか。

◆1921年の平時の死刑廃止の時は意見が分かれました。国民の100%が議会の決定に賛成したわけではありません。議会はリベラル派と左派の社民党が多数派でした。正直に言つて、スウェーデンは第一次、第二次大戦ともに参戦しなかつたことが追い風になりました。

当然視された完全廃止

1972年の戦時の廃止の時は誰も驚かなかつたし、大した議論にもなりませんでした。1976年に憲法で死刑が禁止された時も当然

のことと受け止められました。

スウェーデンはヨーロッパで最初の死刑廃止国ではありません。最初に廃止したのはポルトガルで1867年。保守勢力の台頭に対する揺り戻しとしてヨーロッパ全体でリベラル派が席巻しましたが、スウェーデンが死刑廃止に同調する方向に向かつた背景にあります。

死刑復活の動きは皆無

スウェーデンはヨーロッパで死刑を廃止した最初の国でも最後の国でもありませんが、議会では反対もあつたものの、割とすんなり死刑廃止は実現しました。今日の議会では死刑を復活するべきだという声は聞かれません。死刑を復活するべきだという動きは今のスウェーデンにはほとんどないと言えます。

——国民の中に死刑を復活すべきだという声はどのくらいありますか。最近の世論調査などがあれば。

◆最近は何もそういつた疑問を持ちません。議会も死刑廃止に100%賛成なので、そういうデータはありません。ただ、個人的には自分の娘が殺されたら「犯人を死刑に」と思う人はいるかもしれません。

——現在の最高刑の終身刑に仮釈放はありますか。

◆仮釈放はあります。終身刑であっても、受刑中の態度が良ければ早く釈放されます。個別のケースにもよりますが、重大で残虐な殺人罪は大抵終身刑になります（注1）。日本では死刑廃止論者の方々が仮釈放なしの終身刑の制度化を死刑廃止の最初のステップにしようと主張していますが、スウェーデンにはそのような重無期刑はありません。

——日本ではオウム真理教の信者たちによる地下鉄サリン事件とか、若者が秋葉原で通行人を次々とナイフで殺傷するといった無差別殺人事件が近年起きています。スウェーデンではそのような事件が最近起きたことはありますか。

◆スウェーデンでも時々、残虐な犯罪があります。被害者の親族や家族は厳しい被害者感情を当然持ちます。しかし、犯人を死刑にすべきとは誰も言いません。それでも犯罪者

が重い刑罰を受けるのは当然です。

例外を作ってはならない

死刑に反対する以上、どんな場合でも死刑を適用してはいけないと主張しなければなりません。例えば、死刑になったイラクのサダム・フセイン元大統領の場合もそうです。彼は大統領の時に多くの人命を奪ったかもしれませんが、スウェーデンはいかなる人も死刑にすべきではないという立場なので、この時の裁定にも反対しました。

死刑を廃止しても、例外的に残虐な犯罪には死刑を適用してもいいという立場を取れば、そのような残虐な犯罪はいつでも存在するわけですから、例外の連続になってしまします。憎むべき罪を犯した人に重罰を科すのは当然ですが、命を取ることではできません。

——スウェーデンでは身内を殺された家族が犯人を死刑にすべきとは言わないというお話でしたが、たとえばそう思っても言葉にしないのか、そのような家族の気持ちをメディアは報道しないということなのか、どちらなのでしょう。日本では被害者感情が重視されて、犯人を死刑にしてほしいという家族の声がメディア

で紹介されることがあります。

◆日本では死刑制度があり、死刑の宣告が日常的にあるわけですから、スウェーデンとはコンテクスト（文脈）が異なります。死刑制度があれば、息子や娘を殺された家族が犯人の死刑を望むのは当然かもしれません。

「犯人を死刑に」の発想がない

スウェーデンの場合、殺人事件の被害者の家族・親戚は大きな喪失感を持ちますが、犯人の命を奪っても、殺された命は返ってこないと考えられると思います。死刑執行が100年間ないので、人々の考えに死刑がないのです。従って死刑制度がある日本と比較するのは難しいかもしれません。

——被害者の家族に対する国としての精神的・経済的な救済制度はありますか。

◆あります。殺人者には損害賠償の義務が発生しますが、支払えなければ国家が肩代わりします。精神的なサポートもあります。殺人の被害によって収入を失った家族には財政的な支援をしなければならず、そのような社会的支援はあります。殺人者は死刑になって被害者の家族に対

して罪を償うべきだという意見は今のところ全くありません。

——1年間に発生する殺人事件はどのくらいありますか。

◆データが載っているサイトをお教えしましょう（注2）。

（死刑存置国の）米国や日本では、死刑の廃止によって犯罪が増えるのではと考えられると思います。スウェーデンでは死刑の廃止と犯罪の増加との間には全く関連がないと思います。死刑廃止後も殺人事件などの犯罪は増えていません。

飲酒の方が犯罪を誘発

第二次大戦後はやや増えていますが、これはアルコール消費量との関係が大きいのではないかと考えています。飲酒して犯罪に走ることは非常によくあります。我々はアルコールの消費を減らそうと努力しています。犯罪（の抑止）も理由の一つです。日本でも飲酒税を導入した方が死刑を存続させるよりも効果的な犯罪の抑止力になるはずですが。

——スウェーデンでは犯罪や犯罪者、刑罰をどうとらえていますか。

◆刑罰の役割は端的には犯罪の抑止です。刑を受けた人は受刑中に社会復帰に向けた再教育を受けるべき

で、それによって人格・行動が変容するための時間という意味も刑罰にはあります。それが不可能な場合もあるでしょうが、刑罰とは犯罪を抑止し、罪を犯した人の行動を修正し再教育する機会ととらえます。

犯罪抑止効果に証拠なし

国際的な統計をみると、死刑の存置によって殺人率・犯罪率が低下したという証拠はどこにもありません。米国、そして民主主義ではない国で、死刑の存置によって犯罪を減らしたという統計はありません。つまり、死刑存置が犯罪の抑止力になるという統計は存在しないのです。今回はスウェーデンについてのインタビューですが、スウェーデンもメンバーのEU（欧州連合）の加盟国は死刑を廃止する義務がありません。存置していればメンバーになりません。現在の加盟27カ国の中には最近まで死刑制度があった国もありますが、今はすべてが廃止国です。

——大きな歴史の流れとして世界では死刑廃止国が増えています。これは単に命や人権を尊重する価値観が高まっているだけではなく、国家が合法的に行使できる暴力を必要最小限のものにしていくという考え

方が根底にあるのではないですか。

◆それは非常に的を射た考えです。世界の3分の2の国々で現在、死刑が廃止されています。民主主義国で存置しているのは日本と米国だけです。米国も州によっては廃止しています。その他の開発途上国、民主主義ではない国で死刑を存置している国は多い。中国とイランでは多くの死刑が執行されています。

——日本政府の内閣府が5年ごとに行う世論調査で、死刑容認の世論が過去最高の85%に達しました。

◆世論調査の質問の仕方によってかと思う部分があります。「死刑はやむを得ないか」という聞き方は「死刑に賛成か、反対か」という聞き方とはニュアンスが全く違います。

政治家が世論の啓発を

死刑に反対する国会議員が日本にもいます。その考えは選挙区の有権者の意見とは違うかもしれません。しかし、国民の意見をリードする行動を政治家が率先してすることが大事です。政治家が国民の意見をその方向に持っていくのです。韓国では死刑制度は存続していますが、執行が10年以上止まっています。フィリピンでも最近まで死刑制度がありま

したが、国民の意見は別にして、国際社会の潮流に同意すべきだという方向に動いています。死刑廃止は政治家が責任を持って国民をリードすることが大事な問題です。

日本の国会議員に非公開で調査をすれば、死刑制度に賛成する議員は85%に満たないでしょう。国民でも存置を本当に望む声は50〜60%ぐらいではないですか。国会議員が「死刑廃止」という旗を立てて選挙活動をしないうのは、死刑廃止を公約に掲げると当選しないという心配があるからでしょう。しかし、亀井静香大臣（注3）は死刑制度に反対でも11回も当選していますよ。死刑に反対でも政治生命を失わないことを表していませんか。

高まる執行停止の可能性

新しい民主党政権には死刑制度に反対の人が多い。中には国会で表立って死刑反対を唱えていた人もいます。一夜にして日本で死刑を廃止できるとは思っていないませんが、モラトリアム（執行停止）の可能性は今後数年間で高まってくると思います。今の日本は死刑制度を論議する時期です。EU議長国としてスウェーデンも主催者に加わり、昨年12月に

早稲田大学でシンポジウムを開いた理由もそこにあります（注4）。

（注1）近年、日本で報道されたスウェーデンの殺人事件としては、03年9月にあったアンナ・リンド外相（46）刺殺事件がある。犯人のユーゴスラビア系スウェーデン人男性（25）に対し、ストックホルム地方裁判所は04年3月、求刑通り終身刑を言い渡した。

（注2）National Council for Crime Prevention in Sweden このサイトにあるスウェーデンの「犯罪統計2008」によると、08年に殺人罪で有罪判決を受けたのは114人。そのうち90人が懲役刑で、16人が精神鑑定に回された。懲役刑の90人のうち、10人が終身刑、80人が有期刑。有期懲役刑の平均は7年7カ月だった。

（注3）亀井静香・金融・郵政改革担当大臣。亀井氏は衆院広島6区選出で、国民新党代表。01年から「死刑廃止を推進する議員連盟」会長。

（注4）09年12月2日、「いのちの意味を考える―死刑制度に関する欧州とアジアの視点」をテーマにEU―I早稲田・駐日欧州委員会代表部・スウェーデン大使館が共催。

犯罪防止に死刑は意味がない

ノルウェー王国大使館 ドツテ・バツケ一等書記官に聞く



Ⅰは犯罪者の再犯防止、犯罪の予防に重きを置いている傾向があります。犯罪者が正当な罰を受けることも大切です。しかし、より重要なのは、罰を受けている間に適切なケア・教育を受け、社会に戻った時に責任あるメンバーとして暮らせるようにすることです。

ノルウェーのシステムは甘過ぎると思われるかもしれませんが、犯罪に厳罰で臨んでいる国に比べて犯罪率が低くなく、逆に低いのです。罰を厳しくすることが再犯を防ぐことにはならない。再犯防止のためには、どのようなケアをするかが大事だと考えています。

ノルウェーはEU（欧州連合）加盟国ではないが、死刑廃止国です。いつ、どのような理由で廃止を決めたのですか。

◆欧州評議会で「死刑をなくしていこう」という緩やかなルールづくりの流れがあり、（その一環として

て）Convention of Human Rights（欧州人権条約）をノルウェーは批准しています。これを批准している以上、ノルウェーがEUメンバーではなくても、死刑を復活させることは非常に難しいと言えます。

最後の執行は1876年

ノルウェーで最後の死刑執行は1876年で、その後は死刑をやめて終身刑に移行する動きになりました。しかし、軍隊では戦時に限り死刑は存続していました。軍隊も含めて理由にかかわらず、完全に廃止されたのは1979年です。死刑を廃止した一番の理由は人権への配慮です。国が人を殺すことに矛盾があるということ。もう一つ、無実の人を誤って死刑にしてしまう恐れも大きな理由でした。

——1902年に国内世論はどのようにならったのですか。

◆賛否両論がありました。死刑廃止に賛成の人は「生きる権利は人間の基本的権利であり、国家がそれを奪ってもいいのか」と言い、反対の人は「死刑を廃止すると、犯罪を防ぐ力が弱まる」と主張しました。

戦時において死刑を犯罪防止の手段に使うことは意味がありました。が、戦争を離れて日常の世界に戻ると、ノルウェーの殺人事件のほとんどは怨恨から起きており、無差別殺人のような事件はありませんでした。ならば死刑は殺人事件を防ぐ手段としては意味がないと考えられたのです。

——戦時の死刑はどのような罪に適用されたのですか。

◆国家への反逆とか、（敵に内通する）スパイ行為、市民の殺害です。第二次大戦中、ノルウェーはドイツに占領され、傀儡政権が樹立されました。この時、ドイツに協力したクヴィスリング（注2）らに戦

（オスロ大学で法律学修士課程を修了した研修生、トニエ・アイレルトセさんⅡ写真左Ⅱが同席して助言）

——昨年10月にNHKの番組でノルウェーは世界で囚人に最も寛容な国と紹介されました（注1）。

再犯防止を重視

◆番組を見ていないので正確なコメントは差し控えますが、ノルウェー

後、死刑が宣告され、執行されています。このような罪に対して死刑は正当化されました。

——1979年の完全な死刑廃止の時、国内の賛否はどうでしたか。

人権尊重の声の高まり

◆ノルウェーで法改正する時はさまざまな機関やNGOなどからヒアリングを必ずします。1902年の死刑廃止に至るまでの議論がもっと深まるような大きな議論がもちろんであります。基本的人権を認めなければならぬという議論がもっと大きくなり、戦時も含めての廃止が決まりました。反対意見もありました。戦時に限れば死刑は犯罪防止に意味があるのではないかとという声です。しかし、基本的人権を重視すべきだという意見がそれを凌駕しました。

——現時点で死刑復活を望む世論はどのくらいありますか。

◆法務省に問い合わせると、そのようなデータはないということでした。そういった議論が国内のどこかにあるのか、承知していません。死刑復活を望む意見が全くないわけではないのですが、見つけるには相当な努力を要するというところで

す。マニフェストに死刑復活をうたっている政党は一つもありません。

——憲法に死刑廃止をうたっていますか。

◆憲法に死刑に関する規定はありません。従って、死刑を復活するために憲法改正は必要ありません。しかし、国際的な取り決めとしての死刑廃止の条約を批准している以上、死刑復活は非常に難しい。

——刑事罰の最高刑は？

◆懲役21年です。終身刑はありません。

——死刑廃止に代わって終身刑を導入すべきだという意見はなかったのですか。

「終身刑を」の声はない

◆懲役21年は経過する、もっと長くするべきだという議論はありません。30年に引き上げるべきだ、戦時の犯罪の最高刑を懲役30年にすべきだとか。しかし、終身刑を入れるべきだという議論はありません。

有期懲役刑の期間を長くすべきではないかという長い議論が1980年代からあります。このごろ、戦時は30年にしようという気運が高まっています。深刻な性的犯罪も、もう少し刑期を長くすべきだ

という議論が最近聞かれます。

——日本では理由の分からない無差別殺人事件が時々起こりますが、ノルウェーでは全くないのですか。

◆全くないとは言いませんが、年間25〜40件発生する殺人事件を統計的にみると、恨みや嫉妬など、近い人間関係の感情に起因する事件がほとんどです。

——殺人事件の被害者の遺族が犯人を死刑にしてほしいとメディアなどで訴えることが日本ではあります。ノルウェーでそのようなことはありますか。

◆ノルウェーでは犯罪者と被害者・家族を守る二つのシステムが同時に働きます。家族は弁護士を雇い、加害者に補償を請求し、法廷に参加する権利を与えられます。

ジャーナリズムの自主規制

被害者の遺族が犯人の死刑を望んでいるといった新聞報道を私は見たことがありません。もしかすると遺族はそう言っているかもしれない。しかし、メディアには被害者遺族を守るという倫理的な拘束があり、被害者遺族がメディアに露出することを防ぐという考え方があります。

遺族に感情的な言動があっても、

そのまま報道するのではなく、落ち着いた報道をすることが被害者家族を守ることだという姿勢があるので、そのような報道を見ないのかもしれない。

もう一つ、ノルウェーのジャーナリズムは、容疑者が犯人であることがどんなに明らかでも、逮捕された時点ではなく、法廷で有罪が確定するまで犯人と見なしません。だから容疑者を責める言動が遺族にあっても、そのまま報道しません。そうしたジャーナリズムの倫理観があつて自主的な報道規制が働いているのだと思います。

一般社会、犯罪学の中では、法廷での公正な裁きが重視されているので、裁判に至る前にいろいろなことを報道して事前の知識や感情を与えることによって裁定にバイアスを与えることを防ぐ目的もあります。

ノルウェー社会の考え方を表すシンボリックな事件が数年前にありました。オスロ市内の市電で、行きずりの若者が1人殺されました。犯人は移民で精神病を患っていました。移民をどう処遇すべきか、精神疾患を持つ人をどうケアすべきか、みんな議論しました。どうしたらそのような人を社会にスムーズに受け入

れ、犯罪を防止できるか、という視点の議論になりました。どのくらい
の刑罰に値するかとか、被害者家族
の気持ちはどうかといったことは一
切、焦点になりませんでした。

——犯罪被害者に対する公的な救済
制度はありますか。

精神的ケアは自治体の責任

◆被害者に対する補償能力が犯罪
者になれば、国家から拠出するた
めの基金があります。精神的なケア
は自治体が責任を持ちます。

——国家の暴力を小さくすること
と死刑廃止は関係があるとお考えにな
りますか。

◆基本的な生きる権利を認めるこ
とが死刑廃止の一番の眼目ですが、
それは同時に国家が行使する暴力を
小さくすることに繋がっている
私だと思います。国家による殺人を認
めてしまうと、何でもありになって
しまふ恐れがあります。国家の権力
を社会がチェックし、抑止すること
が大事です。裁判員制度(注3)も
国家の持つ権力を一般市民が抑止
し、監視することにつながります。

武装しない警察官

ノルウェーが国家の暴力を抑制し

ている社会であることを物語る例に
警察官の姿があります。街頭で見か
ける警察官は銃を持っていません。
もちろん、凶悪な殺人事件や人質を
取った立てこもりのような暴力事件
があれば、警察官は武器を持って駆
けつけます。しかし、普段は武器を
持たないことがノルウェー警察の大
事な原則になっています。

——日本では死刑容認の世論が85%
あります。どう思いますか。

日本の世論について

◆個人的な意見として、少し怖い
数字ではあります。日本国内の議論
を克明に把握しているわけではない
ので、きちんとしたコメントになり
ませんが、基本的人権を大事に考え
るノルウェー人としては驚きです。
同時に死刑廃止に取り組んでいる団
体も日本にはあるので、そうした人
々がどのような難問に直面し、こ
の数字をどうみているのか、知りた
いと思います。

ただ、世論調査の数字はバイアス
がかかることがあります。質問のし
かたによって人々の意見は揺れ動く
ものです。新聞の見出しをそのまま
うのみにすることはできないでしょ
う。

これも個人的な意見ですが、裁判
員制度が日本に導入されたのは良か
ったと思います。市民が裁判員にな
ることでこうした世論が今後、どの
ようになら変わるのか、興味があり
ます。いろいろなことが話題にな
り、法廷内の議論が透明性を持って
くれば、いろいろな変化がこれから
起きてくるのではないのでしょうか。

——犯罪に社会はどのように向き合
うべきですか。

◆繰り返しになりますが、犯罪全
体を考えた時、犯罪者のケア、再犯
の防止が一番大切なポイントです。
犯罪は個人的なことであり、社会的
なものでもあると再犯防止の観点か
ら考えます。

報復を優先しない

刑罰を与える目的は同じ犯罪を繰
り返さないこと、社会の混乱を防ぐ
ことにあり、犯罪者に対する報復を
優先するべきではありません。この
100年間でみられた考え方の変
化です。100年前まではどの
国でも報復が処罰の大きな目的で
した。ノルウェーもこの100年で
再犯防止、社会の混乱の防止とい
う方向にシフトしてきたと言えます。

(注1) NHK・BS1で報道され
た「未来への提言 犯罪学者 ニル
ス・クリステイ」(囚人にやさしい国
からの報告)。ドキュメンタリー
作家の森達也さんがオスロ大学教授
の犯罪学者、ニルス・クリステイ氏
にインタビュー。「修復的司法」をキ
ーワードに厳罰化は犯罪抑止につな
がらないことを検証した(本誌今号
26〜28頁参照)。

(注2) ヴイドクン・クヴィスリン
グ(1887〜1945年)。政治
家、軍人。1940年、ノルウェ
ーに侵攻したナチス・ドイツに協力
し、傀儡政権の首相に就任。ナチス
敗北後の裁判でクヴィスリングを含
む25人が殺人の罪で死刑判決を受け
た。参考文献『北欧現代史』(山川出
版社)

(注3) ノルウェーは市民が一定の
任期を持つて裁判に参加する参審員
制度を導入しており、昨年5月に始
まった日本の裁判員制度はこれをモ
デルにしたとされる。

無実の人を処刑するリスクを避ける

デンマーク大使館

フランツ・ミカエル・スキヨル・メルビン大使に聞く



——デンマークで死刑を廃止した経緯を教えてください。

最後の執行は1892年

◆二つの段階がありました。

1892年の死刑執行を最後にしばらく死刑がなくなり、1930年に軍事関係を除いて1回目の廃止が決まりました。廃止の理由は二つあります。一つは冤罪による死刑執行を防ぐため。もう一つは、一生涯を刑務所で送る方が死刑よりも厳し

いだろうという議論です。死刑執行が40年近くない中で1930年のころは理想論を議論する時期でした。死刑があれば殺人事件は避けられるのか、あまり影響はないのではないかといった意見もありました。デンマークはもともと死刑が少なかったから、廃止はそれほど難しくありませんでした。

戦犯に死刑を復活

しかし、第二次大戦で状況が変わり、1945年から5年間、戦犯のためだけに死刑制度が復活しました。デンマークは大戦中、ドイツに占領されました。ドイツと組んでデンマーク国民を殺害した戦犯たちに死刑が宣告されました(注1)。私の印象では、その時の世論も死刑は間違っていると考えていましたが、一方で戦犯に復讐したい気持ちも強くあり、その気持ちを鎮めるために死刑を適用する必要があったのだと

思います。

1930年以降も軍事関係の犯罪には死刑が存続していましたが、制度としてあっただけで100年間ぐらい使われたことはありません。(死刑廃止の二つ目の段階として)これも1978年になくなりました。現在はいかなる例外もなく、死刑は廃止されています。

このような歴史をたどっているのが、死刑廃止の前後で殺人事件の数がどのように変化したかという統計的な数字は出せません。1930年以前の約40年間、死刑を執行していないし、復活した5年間も戦犯だけが対象だったので比較のしようがありません。

——1978年の完全廃止の時、国内世論の反応はどうでしたか。

◆一般的な世論は「遅すぎる」と思っていました。実はあまり深く考えられていなかったのです。国連の会議が何かで軍事面の死刑制度がま

だ残っているのではないかとまたまた指摘されて見つかつたようなもので、一般の国民は、死刑は既に廃止されているという認識でした。

——1930年に死刑が廃止された際、犯罪者にも生きる権利があるのだという人権の視点は提起されなかつたのでしょうか。

◆そういう議論はありませんでした。社会的制裁として死刑に意味があるのか、という議論です。それよりも、冤罪だつた時にどうするか、という側面の方が大きかつたと言えます。デンマークは宗教的な国なので、そういう議論になつたのだと思います。

——いま、最も重い刑罰は？

◆終身刑です。囚人の両親が亡くなった場合とか、特別なケースで仮釈放が認められる場合もありますが、基本的に仮釈放はなく、死ぬまで出られません。ですから死刑よりも厳しいと考えられています。つい最

近も自分の婚約者と2人の子供を計画的に殺害した殺人犯に仮釈放のない終身刑が言い渡されました。

—— 死刑を復活すべきだと考える世論はどれくらいありますか。

◆そういう世論はありません。残忍な殺人事件があった時に感情的に「死刑を」と言う人はいるかもしれませんが、それに意味があると世論は思いません。圧倒的な世論は冤罪で死刑を執行してしまうリスクを避けられることに死刑廃止の意義を認めています。死刑廃止は憲法の規定ではなく、復活は法律で可能ですが、デンマークの政治家で死刑推進の人は一人もいません。

廃止後に世論が変化

デンマークで興味深いのは、死刑廃止後に世論の気持ちが変わったことです。日本では死刑を容認する人が多いと思いますが、デンマークでは死刑を廃止した後、死刑は間違っていたと考える人が増えました。

—— 殺人事件の被害者の家族が「犯人に死刑を」と訴えることは、デンマークではありませんか。

◆そんな報道を見たり聞いたりしたことはありません。被害者の家族が終身刑を求めることはあっても、

死刑は求めません。デンマークでは復讐殺人が起きたこともないし、犯人を殺したいと家族が言ったという話も聞いたことがありません。

—— 被害者遺族に対する公的な救済システムはありますか。

◆経済的には国の補償制度がありますが、象徴的なもので、支払われる金額は大きくありません。精神的な支援はもちろんあります。神経科にかかったり、コンサルティングを受けたり、という支援は健康保険制度に組み込まれており、国が無料で保障しています。誰の面倒でもみるのがデンマークです。

—— 犯罪と社会はどう向き合い、刑罰はどのような役割を果たすべきでしょうか。

◆三つの重要な観点があります。一つ目は復讐の概念です。罪を償わせることによって、復讐した気持ちになり、復讐心が満足する。二つ目は犯罪防止策。刑罰が犯罪の防止に役立つと思ってもらえれば意味があります。三つ目は社会復帰と更生です。社会復帰できない人もいますが、できる人もいます。ならば、できる方の可能性を選択しないと意味がありません。

デンマークにも死刑に賛成する意

見があるにはあるのです。死刑にしてしまえば殺人犯は二度と社会に戻りません。つまり、二度と殺人を犯すことはない、と主張する死刑賛成派がいることはあります。私は弁護士だったので知っています。実は殺人犯が社会復帰して殺人を再び犯すことはデンマークでは今まで一度もありませんでした。ところが、つい最近、釈放されて再び殺人を犯した人がいて、そこで死刑賛成の声が少し出てきました。

—— 死刑は大きな国家暴力だと思います。人類の進歩のために国家暴力を小さくすべきだ、という考え方は死刑廃止の理由の一つになりませんか。

◆その考えには同感です。そう思う人はたくさんいるでしょう。しかし、そのような議論は私やあなた、弁護士や裁判員はするかもしれませんが、一般の人はほしくないでしょう。

—— 死刑存置国へのメッセージをお願いします。

犯罪抑止の証拠はない

◆死刑は非人間的で不誠実な刑罰だと思えます。死刑の執行は社会的な殺人が状況によっては許されるというシグナルとして受け取られかね

ません。犯罪防止策になるという証拠は一つもありません。死刑を存置しているどの国にも必ず冤罪事件があることも一つのポイントです。

もう一つ、言わせてもらおうと、日本は死刑を廃止してほしいと私は強く思っています。日本には文明的な国であるという自負があり、国際社会でもそのように認識されているにもかかわらず、このような非文明的な制度を推進しているのは間違っていると個人的に思います。日本人は核兵器の廃絶では強い意志を持っているのに、死刑賛成論者が多いことがとても不思議で疑問です。核兵器の拡散防止と死刑制度の存置は整合性がありません。モラルのあり方として私は納得がいきません。

(注1) デンマークは1940年から約5年間、ドイツに占領された。国民はレジスタンスを組織し、サボタージュやゼネストで抵抗。約7000人の死者を出した。解放後、対独協力者など3万4000人が遡及立法である「反逆法」によって戦争犯罪者として裁かれ、46人が死刑となった。参考文献『デンマークの歴史』(創元社)、『北欧現代史』(山川出版社)

特別寄稿

死刑制度について——ヨーロッパの視点から

スウェーデン国立防衛大学・ストックホルム大学名誉教授

オーベ・ブリング

欧州における死刑存廃論議の歴史をまとめたオーベ・ブリング氏の論考をスウェーデン大使館の協力を得て特別寄稿してもらった。

欧州では犯罪者の死刑についての賛否が1700年代末に既に論議されていた。この時期は啓蒙主義の時代であり、リベラルな知性派の潮流が欧州を席捲していた。

死刑反対論の始まり

1764年、モナコにてイタリア人貴族が匿名で拷問と死刑に反対を唱える本を出版した。拷問と死刑はそのころ、国の刑罰制度で通例として行われていた。本の題名は「犯罪と刑罰について」。著者はチェザレ・ベッカリアとされていた。これが一躍ベストセラーとなり、多数の国で出版が重ねられた。この時から欧州では死刑に関する議論が文化的歴史の一部となった。

ベッカリアは犯された犯罪とそれ

に対する刑罰の重さについて広く議論を展開した。死刑については以下のように記している。

民意を表すものであり、殺人を憎み、罰するはずの法律それ自体が、抑止という意味でまさにその犯罪を公然と命じ、犯すというのは私には不合理に思える。

ベッカリアの論旨では終身刑を導入したほうが死刑より実効性のある抑止力となるということだった。ベッカリアが唯一例外と認めたのは、蓋然性としては低いものの、受刑者が生きていれば、他者を煽動して国家の安全保障を脅かすような場合である。ベッカリアの死刑に対する強力な反対意見は広く影響を及ぼした。スウェーデンの国王ゲスタフ3世は12件の死刑執行を停止、しかしその他何件かには適用した。1779年に刑法の改革が達成された。

欧州で高まった廃止論

欧州ではその後ドイツの法学者が

影響力を強め、ハイデルベルグ大学のカール・ミッテルマイアー教授は1830年代に死刑廃止運動を展開し、多くの賛同者を得た。その一人がスウェーデン人法學教授のクヌート・オリヴェクローナ判事だった。

オリヴェクローナ判事は1866年、死刑反対を強く訴えた本を出版。その本は2年後にはフランス語に、その後フィンランド語に翻訳された。スウェーデン語では1891年に新編が出版されている。

このころ、欧州ではリベラル主義が断続的に国内政治の強力な要素となっていた。ポルトガルでは平時における刑罰としての死刑制度は1867年に廃止された。オランダでは1870年、イタリアでは1889年、ノルウェーでは1902年、スウェーデンでは1921年、デンマークでは1930年に廃止された。

しかし、この流れはヨーロッパの大部分が独裁政治に支配された第二次世界大戦によって中断した。戦争

終結後間もなく、戦争犯罪に関する国際裁判・国内裁判がニユルンベルグその他で行われ、多くの戦犯（と反逆者）に死刑判決が言い渡された。こういった状況下ではまともなことであると考えられた。

1945年以降、死刑廃止の潮流に再びはみがつく。ドイツではナチスの支配下で残虐行為が横行し、法制度が悪用された経験から、戦後の死刑制度存置は考えられない状態になった。フランスでは戦時下または戦争の脅威が差し迫っている時のみ死刑が許されることになった。英国では1953年に殺人罪での死刑に疑問が呈され、その後法的措置により段階的に撤廃された。1965年に死刑廃止法が成立している。

冤罪？で執行した英国

英国で死刑が廃止になった経緯には冤罪の可能性があった被疑者が絞首刑になった2件の不幸な事件がある。最もよく知られているのは19

50年のテイモシー・エバンズ元死刑囚の裁判である。

エバンズ元死刑囚の住所ロンドンのノッティングヒル、リントンプレイス10番地は刑事史上誰もが知る場所となった。エバンズ元死刑囚には自分の妻と幼い娘を殺害した容疑がかけられた。当初は容疑を認めなかったものの、後に撤回、隣人のジョン・レジナルド・クリステイが犯人であると主張した。エバンズ元死刑囚の供述は信じてもらえなかったが、英国の法的慣習に則り殺人罪では1件のみの訴追となった。エバンズ元死刑囚の場合は娘の殺害で、有罪となり、死刑が執行された。

3年後、リントンプレイス10番地に警察が出動した。ジョン・レジナルド・クリステイのアパートで4体の女性の遺体が、庭からは2体の白骨化した遺体が発見されたのだ。クリステイは殺人罪で起訴され、自白した。またテイモシー・エバンズの妻の殺害も認めたが、娘については容疑を否認した。

クリステイが1953年に処刑されたときには彼が大量殺人犯であることは明らかだったが、テイモシー・エバンズ元死刑囚の裁判が誤審であったかどうかは分からなかった。

た。今日も判明していないが、冤罪による死刑という可能性が英国の司法制度の自己像に暗い影を落としている。犯罪史に残るこの具体例を紹介したが、欧州各国は第二次大戦前から死刑制度廃止にむけて動き出していたことを再度述べておく。

政治家が民意をリード

死刑廃止は基本的に知識人や議員グループの間での活発な議論により実現した。それが政治的議論へ、ひいては新たな法制度へと発展した。

この過程で国民の意見は限定的な役割を果たしたにすぎない。政治家たちは、死刑存廃問題は「一般の人」の意見を汲み取るにはなじまないものだと考えたのだろう。一般市民はこの問題になると理性的というより感情論に走りがちだからだ。

また、政治家は自分たちが率先して動き、国民の意見がそれに従うようにするべきだという道義的責任を負っていると感じたのだろう。そして実際欧州では、国民の意見がそうした新たな価値観に適應するということが起こっていた。これは死刑廃止にも言えることだが、他の刑法改正にも言えることである。

国連も規範を構築

欧州外では国連の規範を構築しようという大志と冷戦の終結が死刑廃止に寄与した。1989年国連総会で「市民的および政治的権利に関する国際規約」の第2選択議定書が採択された。この議定書の第1条は以下の内容を唱っている。

何人も、この選択議定書の締約国の管轄内にある者は、死刑に処せられない。(さらに)各締約国は、その管内において死刑を廃止するためのあらゆる必要な措置をとらなければならない。

1998年、国際刑事裁判所(ICC)に関するローマ規定が採択された。これは戦争犯罪に関し個人の法的責任を問うべきではあるが、死刑判決を下してはならないという国際的コンセンサスを表した。しかし、自動的に各国の法律に反映されなかった。それでも今日世界の139カ国、現存する国家の3分の2以上が死刑を廃止している。

死刑廃止でまとまった欧州

この過程で欧州各国は誇らしい功績を収めている。1950年に調印された欧州人権条約(人権及び基本的自由の保護のための条約)は死刑

を禁止していないが、この条約により欧州では段階的に死刑廃止が進んだ。1983年の第6議定書は平時における死刑の廃止を締約国に求め、2002年の第13追加議定書は全面的な死刑の廃止を求めている。ストラスブールの欧州人権裁判所は、一例として、(平時における)死刑制度に対する欧州地域としての立場は漸進的進化を遂げたことを挙げている。1989年には22カ国で実質上の廃止であったのが、2003年には(44カ国中)43カ国が法律上廃止している。残る1カ国ロシアは執行停止を実施している。

今日の状況として、欧州人権条約の締約国すべてが第6議定書に署名している。さらに、欧州評議会の方針によると、すべての新規加盟国は欧州評議会の組織への加入条件として死刑制度の廃止を義務づけられている。

こうした経過を経て、欧州評議会の加盟国で囲まれた領域は死刑のない地域となった。このような展開は、既存の法律に基づいたものであれば死刑は許されるとする欧州人権条約の第2条(1)項の実質的修正を示唆するものと言える。新たな法的立場は、平時にはいかなる死刑も

受け入れられないというものだ。

欧州の憲法裁判所は様々なケースでこの立場を確認しており、また欧州外でも特定の憲法裁判所で同様に廃止の立場をとっている。例えば、アジアに関して言えば、2001年カンボジアの憲法評議会はクメール・ルージュの政権下で行われた犯罪に対し、死刑判決を下すことを認める法案を却下した。死刑の遡及的適用を違憲とした見解だ。

◇ ◇

欧州評議会はEU（欧州連合）より加盟国の数で勝っている。しかし欧州連合の方が政治的結束においては強い。EUは統合と共通価値の上に成り立っている。EUは死刑の廃止を加盟条件としており、さらに共通の国際的行動をよしとしている。EUの共通外交安全保障政策には第三国における死刑廃止に向けて的外交的な働きかけ（デマルシユ）をすることが含まれている。

2009年10月、EUは第7回世界死刑廃止デーと第3回欧州死刑廃止デーを祝った。その折、スウェーデンはEU議長国（当時）として、死刑廃止は人権尊重と人間の尊厳を守る上で中心的な役割を果たすものであると宣言した。国家はその領土

内での人権の保証という特別な責任を負っている機関として、何人たりともその命を奪ってはならない。これがEUの立場だ。

この議論は、死刑が撤回できない、取り返しつかないものであるという明白な論拠に立脚している。完璧な司法制度は存在せず、いずれの国も司法の過ちから逃れることはできない。被疑者が殺人罪で死刑に

処せられた後になって真犯人が自白をするというケースが複数ある。さらに、死刑の存置が犯罪の抑止力として付加価値があるということも科学的に立証されてはいない。EUは死刑反対を呼びかけるグローバルな運動に関与しているが、これは特定の国に対して働きかけをするというものではない。2008年1年間でEUは30カ国以上で個々の執行または一般的な死刑廃止を求める外交的働きかけをした。国連加盟国192カ国中今も死刑執行を行っているのは68カ国にすぎないということ、よい兆しであると受け止められている。

死刑廃止が望めそうにない国に關しては、EUは第一歩として執行停止（モラトリアム）を呼びかけている。また国連の死刑に関する最低基

準規則に基づいて外交的働きかけをし、死刑執行を制限しようという試みもある。

この基準によれば、死刑は極めて重大な罪を犯した場合のみ適用される可能性がある。また未成年、妊婦、精神障害のある人物には適用されない可能性もある。死刑判決を下す場合には明白かつ説得力のある証拠がなければならぬ。またそのような場合、上級裁判所に上訴できる可能性がなければならぬ。

日本への国連の勧告

特に日本に関して言えば、EUは国連の人権委員会が2008年に発表した見解に注意を喚起している。これは『世論に左右されることなく』廃止を検討し、必要に応じ廃止が望ましいことを国民に報知することを勧告するものだった。言い換えれば、政治的指導力を求める勧告だった。現代のリベラルな価値の実現に関する指導力である。そのような新たな政府の指導力が現実のものとなれば、間違いなく日本の国際社会での地位向上にプラスとなるだろう。

（暫定翻訳はスウェーデン大使館のアップルヤード和美さん）



山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

【営業部】代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173
東京支店／電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633
苫小牧営業所／電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423
千歳営業所／電話 (0123) 26-3555

死刑とメディア——100年前に死刑を廃止した

北欧から考える

ジャーナリスト
同志社大学教授

浅野 健一

世界的なメディア学の権威である
ロンドン大学のジェイムズ・カラン
教授は「スウェーデンに行くと、ス
トレスを感じなくて済む。社会民主

主義が貫徹していて、社会全体が公
正、寛容でディーセント (decent)
で心地よい」と私によく語ってい
た。カラン教授は約20年前、ストツ
クホルム大学ジャーナリズム学科で
客員教授を務めてから、犯罪報道な
どでの人権侵害を防ぎ、報道被害者
の苦情に対応するメディア責任制度
に着目して、英国へ紹介してきた。

北欧の匿名報道主義

私は1982年に初めてスウェー
デンとフィンランドを訪れた。そし
て、一般市民の犯罪では、一部の例
外を除いて被疑者・被告人の姓名や
写真を掲載しない北欧型の匿名報道
主義(公人の職務上の犯罪嫌疑は頭
名)の導入を提唱した第一作『犯罪
報道の犯罪』(学陽書房、講談社文庫

・新風舎文庫、『裁判員と「犯罪報
道の犯罪」』昭和堂)に所収)を
84年9月に出版した。

「なぜ警察に逮捕された市民が、
犯人として扱われ、姓名、住所、経
歴、顔写真などを報道されなければ
ならないのか」という疑問から出発
し、「報道される側」の人権を無視
していいのかという問い掛けだっ
た。日本を代表する通信社の現役記
者が、自分の仕事が犯罪的だと告発
したのだから、社会に衝撃を与え
た。この本がなければ、私が大学教
員になることもなかったと思う。人
生を変えた著作だった。

私が提唱した匿名報道主義につい
ては、80年代後半から90年代初めを
中心に大きな反響があった。東京に
報道被害者、記者、法律家らで組織
する「人権と報道・連絡会」(山際永
三事務局長、〒168-8691
東京都杉並区郵便局私書箱23号)が
誕生、名古屋、福岡などにも同様の

団体が生まれた。

山口正紀・元読売新聞記者ら志を
同じくする記者仲間と共に、報道被
害をなくしていくためには、(1)
メディア界が守るべき統一報道倫理
綱領を制定する(2)倫理綱領を守
っているかどうかを監視する市民参
加型の報道評議会制度をつくる(と
いうメディア責任制度を日本にも設
立すべきだと訴えてきた。

しかし、日本では、一般市民が凶
悪事件の裁判に参加する裁判員制度
が導入されたにもかかわらず、捜査
段階で被疑者を加害者と断定する実
名報道主義が続いている。放送界に
は1997年、「放送倫理・番組向上
機構」(BPO)が誕生したが、活
字メディアには業界全体のメディア
責任制度はない。

人権と報道を考える旅

ジャーナリズム研究教育で最先端
を行くストックホルム大学から、今

年初め、「人権と犯罪報道と世界各
地のメディア責任制度」をテーマに
したセミナーを開くので参加して発
表してほしいという依頼があった。

3月9日に成田を発ち、11日に同
大学ジャーナリズム学科で、12日に
はソーダーテーン大学で、それぞれ
開かれたセミナーで、「日本にはな
ぜメディア責任制度がないのか」を
テーマに発表した。



3月12日、ソーダーテーン大学で開かれたセミナーで
発表する筆者

会社と組合の両方から強烈でないじめに遭っていた82年5月に、有給休暇を使ってスウェーデンとフィンランドに来たことを思い出しながら、当時とあまり変わっていない街を歩き、あれから28年後、ストックホルム大学で「人権と犯罪報道」をテーマに研究発表をするのは感慨深いことだった。

二つのセミナーには、ジャーナリズム学、犯罪学などの研究者と学生が参加してくれ、多くの質問が出た。現在のプレスオンブズマン（第6代）のイルサ・ステニウスさんも参加し、人権とメディアの最新情報を話してくれた。

日本の死刑制度に驚く市民

今回の調査では北欧諸国が死刑を廃止した経緯を調べ、日本がまだに死刑制度を維持していることについてどう考えているのかも聞いた。死刑のない国の犯罪報道や刑事政策が日本とは全く異なることを知った。日本に死刑が今もあると伝えると、ストックホルムの人たちの多くは「信じられない」（原子物理学者）と口を揃えた。

「民主主義が定着し、平和を希求する経済大国である日本に今も死刑

制度があるのか。中国に死刑があることは大きく報道されるので知っていたが、日本が死刑存置国とは知らなかった」。スウェーデンの男性会社員（42）も驚いた。長野で94年に開かれたオリンピックを観戦したという彼は、「1年間に何人が処刑されるのか」「処刑方法は銃殺、薬物使用、電気椅子か」と聞いてきた。

処刑を待つ死刑囚が100人以上もいて、昨年9月の政権交代で千葉景子法相が就任するまで、1年間に10人前後が処刑された。死刑判決も増えている。処刑は絞首刑で、毎年、10人前後が死刑判決を受けている。光市母子事件のように、未成年者でも死刑判決が出ている。こういう日本の現状を説明すると、彼は「日本は治安のいい国で、人権も守られていると聞いている。なぜ今も死刑が必要なのか」と聞いてきた。

建築家の祖父を日本人に持つジャーナリストのソフィア・タナカさん（28）に「この国の人々はなぜ死刑制度に反対するのか」と聞いた。

現在、スウェーデン放送協会が教育担当の記者をしている彼女はまず、「死刑は野蛮な行為だ。人間として人を殺すことは許されない。国家が人間の生命を奪えるはずがな

い」と言い切った。「先進国で死刑があるのは日本と米国（一部の州）だけだ。日米が死刑を存続しているのはおかしい」とも述べた。

タナカさんは、死刑に反対するのは論理的にも当然だと、次のように話した。

「捜査当局や裁判が無辜の市民を誤って犯人にして処罰してしまうことがある。刑務所に送られた後に真犯人が現れたり、新たな証拠が見つかって無実と判明したりすることがある。死刑を執行すると、無実と分かって取り返しがつかない。誤判、誤審が避けられない以上、死刑を存続することはできないと考えるのが妥当だ」

記者仲間でも友人との間でも、死刑問題が公式に討議されることもないという。「幼い子どもが殺される事件があると、ネットのブログなどで個人的に死刑制度を復活させるべきだという書き込みがいくつもあるが、それがまとまって市民の運動になることは全くない」

日本の犯罪報道は異様

彼女は09年11月から約1カ月半、東京に滞在した。「千葉の英国人講師事件の指名手配被疑者の男性が逮捕

された時、テレビや新聞が男性の姓名、顔写真を大きく報道しているのを見てびっくりした。公共放送のNHKまでが被疑者の護送などを中継しているのは信じられなかった」

確かに、埼玉・鳥取の三千代の女性をめぐる「不審死」や小沢一郎・民主党幹事長、北海道教職員組合にかかわる地検特捜事件報道では、「本件」で逮捕もされていない段階で、捜査官からのリンクで犯人視情報洪水のように流れた。被疑者の両親が謝罪会見を強制され、若い記者たちに、「親としての責任をどう考えるか」などと聞かれる。

メディア記者には、違法な別件逮捕、長期勾留を監視する姿勢が全くない。記事やニュースの中に、「捜査関係者が〇〇の取材で明らかにした（〇〇は報道機関の社名）」というフレーズが入っただけだ。

社会的エリート層に属する日本の新聞・放送記者たちは、意図はしていなくても、結果として、「ペンを持ったお巡りさん」として、社会的処罰欲を強めていると思う。

日本で起きる殺人事件は年間600件前後で過去10年減り続けている。日本は世界で最も凶悪犯罪の少ない国だ。少年犯罪も減っている。

凶悪事件のほとんどが家族、友人の間で起きている。日本の治安が悪くなったというのはメディアが振りまく虚構だ。日本で深刻なのは12年連続で3万人を超えた自殺である。

「人間は変わる」という信念

スウェーデンで最後の死刑執行があったのは1910年。子どもを複数殺害した男性が頭部切断（ギロチン）で死刑になった。絞首刑は1818年が最後だという。平和時の死刑廃止は1921年で、戦争時の死刑も含めて法的に全面廃止されたのが1972年だ。

スウェーデンなど北欧諸国では、死刑がないため、どんな凶悪犯罪の加害者でも、一部の例外を除き、十数年以内に社会復帰する。終身刑でも15年前後で刑を終える。ほとんどの受刑者が刑期の半分の期間で釈放される。「どんな人間でも、人間は変わり得る」という寛容な信念を持ち、刑務所での更生、矯正に税金を投入し、再犯を防ぐ仕組みを整備している。最近では、外国人の急増などで、犯罪者にもっと厳罰で臨むべきだという主張もあるが、全体としては、寛容な社会を志向する刑事政策が支持されている。

約10年前、欧州で有名な作家で演出家のラーシユ・ノレン氏が社会派の芝居を地方の劇場で公演した際、受刑者3人を刑務所から一時的に出して俳優として使ったことがある。そのうちの1人が逃亡して強盗をはたらき、警官と銃撃戦になり、警官2人が死亡した。この公演の企画には法務省とスポンサー企業も絡んでいた。ノレン氏を激しく非難する声があった一方で、結果論で批判するのは不当だとして、主催者側を擁護する市民も多かったという。

犯罪とメディアを研究するストックホルム大学のハカン・リンドフ教授は「犯罪を犯した人に対して、けしからん奴だとバッシングする人もいるが、犯罪者に心を寄せる市民も少なくない。社会に原因があったのではないか。幼児期に暴力や虐待、貧困などが原因で事件を起こすことになったのでは」という分析に力を入れる」と話した。

03年9月にストックホルム市内のデパートで、アンナ・リンド外相が暴漢に刺殺された。私はスウェーデン訪問中で、事件の約2時間前、そのデパートにいた。リンド氏は社民党の幹部で次期首相候補として人気が高かった。数日後、セルビア出身

の二十代の男性が逮捕され、有罪判決を受けたが、「彼が5歳のときに移民として家族と共に、この国に來たが、精神的に追い詰められて犯行に及んだ。なぜこんな悲惨なことになるのか、なぜリンド外相を狙ったのだろうかなどをみんな考えた」（会社経営のボエルさん）という。

スタンド売りのエクスプレッセン、アフトンブラーデットなどの夕刊タブロイド紙などは、被害者を大きく取り上げ、お涙頂戴的な記事を載せることもある。海外のメディアやネット上では、被疑者・被告人の姓名などが流れているので、十年前に比べると、犯罪報道が日本に少し近づいているという指摘もある。

しかし、ダーゲンス・ニヘーテルやスベンスカ・ダーグブラデットなどの朝刊紙は、一般刑事事件では逮捕・起訴されても有罪判決まで匿名が原則だ。被害者についても慎重に報じている。この国では、「プライバシー」という情報、本人が管理できる」という原則があり、夕刊紙でも、被害者や遺族の了解なしに名前や顔写真を載せることはない。遺族の話を書き載せるときは、筆者が必ず「この記事と写真を載せることについて、遺族の承諾を得ている」と明



スウェーデンを代表する朝刊紙、左がダーゲンスニヘーテル、右がスベンスカダーグブラーデット

記している。記者の署名はもちろんのこと、メールアドレスも載せている。

夕刊紙エクスプレッセンの編集長は、ネットのHPに、編集長からというブログを持っており、ほとんど毎日、事件報道などで、名前や写真の扱いについての悩みや、掲載に至った経緯を読者に伝えている。

「日本は当面、執行の停止を」

スウェーデン外務省の「外交政策における人権」と題した広報文書に「スウェーデンから見ると、死刑は極めて非人道的な刑罰である。EU（欧州連合）と共にあらゆる手段で世界各地から死刑がなくなるよう努

力する」と書いている。死刑は国連が禁止している拷問の一種とみなしている。世界各地で死刑廃止に向けてというアプローチをしているかを知るため、外務省で人権を担当しているカミラ・ネーブスタドさんにインタビューした。

ネーブスタドさんは「スウェーデンは人権を外交の柱の一つにしている。世界各地で起きている人権侵害を調査し、何かを言うだけでなく、現実に制度が改善され、人権侵害が減少するよう具体的な結果を生み出すような働きかけをしている」と基本姿勢を説明した。その上で、「死刑復活は政治的確信 (political conviction) の観点からあり得ない。死刑が世界人権宣言にある拷問・虐待に当たり、非人間的であることは議論の余地がない」と述べた。

「死刑制度は約100年前に廃止されたので、死刑を考えることもない。EUは加盟の条件に死刑の廃止を入れているので、死刑を復活する」という選択肢がない。もし政治家が死刑復活を主張すると、政治的に自殺に等しい。だから国会で死刑制度の導入が議論されることは絶対にならない」

廃止を願っている。

「EUとスウェーデンは、日本が死刑に近い将来に法改正で廃止することを望んでいる。日本政府に対しては、死刑執行の停止を要請している。死刑執行を止めて死刑制度について議論を深めてほしい。昨年秋の政権交代で、法相をはじめ死刑に反対する議員が数名、閣僚になったと聞いている。死刑の執行も止まっているので、モラトリアム(停止)が続くように期待している」とネーブスタドさんは述べた。

スウェーデンは昨年EUの議長国だったこともあり、東京の大使館とEU駐日代表部が協力して、日本国内で死刑制度を考えるセミナーなどを開いている。ストックホルム大学のマッツ・ネールクリット教授(ジャーナリズム論)は「世論が死刑存続を支持していることはよく分かるが、誤った世論の場合は、政治家が勇氣を持って国民を正しい方向に導くことも大切だ」と強調した。

報道が誘発する死刑容認

日本では1984年前後に、確定死刑囚4人が相次いで再審無罪を獲得して、拘留所の独房から三十数年ぶりに生還したのに死刑廃止に踏



「スウェーデンは人権を外交の柱の一つにしている。世界各地で起きている人権侵害を調査し、何かを言うだけでなく、現実に制度が改善され、人権侵害が減少するよう具体的な結果を生み出すような働きかけをしている」と基本姿勢を説明した。その上で、「死刑復活は政治的確信 (political conviction) の観点からあり得ない。死刑が世界人権宣言にある拷問・虐待に当たり、非人間的であることは議論の余地がない」と述べた。

み切らなかつた。最近も、氷見事件の柳原浩さん、鹿児島県志布志事件、足利事件の菅家利和さんらの冤罪が明らかになった。

昨年6月に釈放された足利事件の菅家利和さんのケースでは「DNA型鑑定で無罪になった」と強調しているが、DNA型鑑定がなかつたら冤罪を解明できないのかと問い掛けたい。

無実の市民を誤って処刑したら取り返しがつかないという視点での報道や教育がほとんどなされていない。だから、死刑廃止が争点にならない。

内閣府が2月6日、死刑制度に関する世論調査の結果を発表した。死刑を容認する回答は85・6%と過去最高に上り、廃止論は5・7%にとどまった。被害者・家族の気持

ちがおさまらないとの理由が前回調査より増えており、被害感情を考慮した厳罰論が高まっていることが背景にあるとみられる。マスメディアがこうした世論をつくってきた結果だ。

「警察の経験から冤罪を防ぐことは不可能」を死刑廃止論の根拠にしている亀井静香議員は説得力がある。死刑執行後に「真犯人」が出てきて廃止した英国から学びたい。

人を殺しても処罰されないのは戦争と死刑制度だけだ。死刑制度の即時廃止を目指したい。EU諸国を含め世界の130カ国以上が死刑を廃止してきたプロセスから学ぶべきである。

あさの・けんいち 1972年、共同通信社入社。ジャカルタ支局長などを歴任。94年から同志社大学社会学部メディア学科教授。『メディア凶犯』『報道加害』の現場を歩く『社会評論社』、『裁判員と『犯罪報道の犯罪』(昭和堂)、『対論 日本のマスメディアと私たち』(野田正彰氏との共著)など。監修ビデオに『ドキュメント 人権と報道の旅』(発行・現代人文社)がある。

治安が良いのに恐怖が煽られる不思議な国ニッポン

あお

ドキュメンタリー作家
森 達也

昨年8月、NHK-BSのテレビ番組「未来への提言」の取材のため、ノルウェーの首都であるオスロに1週間ほど滞在した。政治や経済、文化や社会学や人類学、さらには遺伝子工学に宇宙物理学など、あらゆる分野における第一人者を訪ね、未来への提言をインタビュ形式で提示することをコンセプトとするこの番組の今回のテーマは厳罰化。そしてインタビュイーは、ノルウェーの犯罪学者として国際的に有名なニルス・クリステイだ。

厳罰化と治安悪化の悪循環

厳罰化とは罰が厳しくなる状況のこと。特に9・11以降、過剰なセキユリティー状態に陥った世界は、強い厳罰化の傾向にある。アメリカで刑務所に拘禁される囚人の総数は、2008年初めで231万9258人を記録した。成人男性の100人に1人が囚人ということになる。低所得者が多い黒人やヒスパニック系

などでは、この割合がさらに上昇し、親戚のうち必ず数人は刑務所にいることが普通になっている。再々犯で起訴されたら無期懲役か死刑という3ストライク制度（娘を殺された遺族の運動がきっかけとなって法制化された）も全米の半分近くの州で採用されている。

刑務所は過剰収容となる。受刑者の更生や矯正どころではない。ただ押し込めるだけ。暴動も頻繁に起きている。だから治安はますます悪化し、不安と恐怖に脅える市民は、更なる厳罰化を行政に求める。完全に負のスパイラルだ。

日本の場合、この15年で受刑者の総数は2倍に増えた。つまりポスト・オウムだ。特に地下鉄サリン事件以降、危機を煽る膨大な報道によって、この国の善悪二元化は急激に促進された。この6年後に「敵か味方か」や「正義と邪悪」の二元論を使うブッシュを批判はできて、自分たちがかつて（あるいは今も）この

状況にあることを、この国の人はなかなか気づかない。

無差別テロとして報道された地下鉄サリン事件は、自分も被害者になったかもしれないとの思いを国民レベルで刺激して、被害者感情共有化を急激に推進した。さらに動機や構造が解明されないこと起因する不安や恐怖は危機管理意識を刺激し、被害者感情と共振しながら犯罪者への応報感情を高揚させた。

「仮想敵」の現出

この類型に北朝鮮拉致問題や光市母子殺害事件などが嵌（はま）り、出口を求める危機管理意識と応報感情は敵の可視化を望み、仮想敵を現出させる。もちろん仮想の敵だ。リアルではない。リアルではないが現出させてしまった以上は、何らかの対策を講じねばならない。特に絶対的な悪ならば、排除では事足りず消滅させなくてはならない。国外における仮想の敵が北朝鮮であり、国内

における仮想の敵が犯罪者（特に殺人犯）だ。

実のところ日本の治安は悪化などしていない。09年に発生した殺人事件の認知件数は、これまで戦後最少だった07年の1199件をさらに下回る1097件。暴行や傷害、恐喝など、粗暴犯も含めての刑法犯全体も前年比6・3%減の約170万3000件だった。7年連続の減少だ。ついでに書けば、殺人事件の検挙率は、前年より2・7ポイント上昇して、98・1%となった。これは戦後3番目に高い記録だ。

世界各国との比較においても日本は圧倒的に治安が良い。イギリスのエコノミスト誌が毎年発表する世界平和度指数によれば、日本はずっとトップ5だった。人口比における殺人事件発生数においてはアメリカのほぼ10分の1、韓国やイギリス、ドイツやフランスのほぼ半分以下だ。でもその認識は広がらない。国民の大多数は、この国の治安はとても

悪化していると思いきこんでいる。なぜならメディアが不安や恐怖を煽るからだ。なぜメディアは不安や恐怖を煽るのか。そのほうが視聴率や部数上がるからだ。だからこそ厳罰化は、アメリカとイギリス、ニュージーランドに日本を筆頭にしながら（日本以外の3国は実際に治安が悪い）、現在の世界全般が抱える傾向であり問題でもある。

厳罰化の逆を行く北欧

ところが北欧は、世界的なこの傾向とまったく逆の方向に進んでいる。厳罰化ではなく寛容化。特にノルウェーにおいては、ニルス・クリステイの存在は大きい。彼の主張を採用する形でさまざまな刑事司法改革が行われ、その帰結として、治安は劇的に良くなったという。

09年のノルウェー全国殺人事件の件数は年間で1件前後。現地で法務省官僚から聞いた数値だ。故殺、つまり計画的殺人事件の場合のようにだが、それにしただけ驚異的な数字だ。往來には監視カメラなどない（さすがにコンビニなど店内にはあるけれど）。「テロ警戒中」とか「不審者のいない明るい街づくり」式の掲げもない。警察官もほとんどいな

い。滞在中に見かけたのは1回だけ。それも交通整理をする女性騎馬警官だ。道行く人もとても優しい。だからふと思いつく。僕にとつては初めての北欧であるスウェーデンで体験した二つのことを。

穏やかな国スウェーデン

地下鉄サリン事件が起きて日本が大きなターニングポイントを迎える95年の1月、テレビ朝日の報道番組「ニューステーション」の特集枠ロケのため、スウェーデンの首都ストックホルムと地方都市のイエテボリに2週間ほど滞在した。

一つめはストックホルムから移動のために乗った列車の中での出来事だ。荷物を網棚や足もとに収めきれず、座席の横の通路にいくつかを置いた。列車がストックホルムを発車して1時間が過ぎる頃、座席で転寝をしていた僕は、大きな金属音で目を覚ました。すぐ横で大きな男が転んでいる。荷物を足を引っかけたようだ。撮影機材などを入れる頑丈なジュラルミンケースだ。中身は問題ない。男の足のほうが心配だ。

苦痛にうめきながら男は立ち上がる。2メートルはありそうな巨漢だ。丸太のように太い二の腕には見事なタト

ウー。しかも髪はモヒカン刈りで顔はピアスだらけ。要するに、見るからに凶暴そうなパンク野郎だ。まずいことになった。もしもこの男が本気で暴れたら、高価な撮影機材に被害が出るかもしれない。そんな事態は絶対に避けなければならぬ。

この寒いのにパンク野郎は短パンだった。ジュラルミンケースの角にぶつけた剥きだしの右足の脛は真青に変色して、微かに血も滲んでいる。パンク野郎はゆっくりと僕を見下ろした。思わず半腰になって身構えたとき、男はグロープのような手で僕の手を握り、「ごめん。きみたちの荷物を蹴飛ばしてしまった」と、申し訳なきように言った。

「……荷物はいいよ。それよりも君の脛が心配だ」

「たいしたことはない。ちゃんと前を見て歩いていなかった自分が悪いんだ。許してほしい。荷物が心配だ。本当に申し訳ない」

大きな身体を縮めるようにして何度も謝ってから、タトゥーでモヒカンでパンクな大男は、足を引きずりながら隣の車両に移動して行った。

列車が到着したイエテボリで、取材対象者の家を訪ねた。道路脇の共同住宅の一室。長く現地に暮らす日

本人女性のコーディネーターは自分のバッグを路上に置いたまま、クルーを先導して階段を上ろうとした。

「バッグ、忘れてますよ」

僕は彼女に言った。

「いいです。置いておきます」

彼女はあつさりと言った。「置いておきます」という言葉の意味がとつさに理解できなくて、僕はほんやりと立ち尽くした。

「……だって、誰かが持って行きますよ」

「大丈夫です。1時間後バッグはこのままここにあります」

彼女は言った。自信たつぷりだと。

「この国には、路上のバッグをこつそり持って行こうなどと考える人は、ひとりもいません」

「本当ですか」

「賭けてもいいですよ」

すごいねこの国は、などと言いつつながら、僕と撮影スタッフたちは共同住宅の階段を駆け上がる。長くコーディネーターの仕事をしている彼女は、この国について誰よりも精通しているはずだ。その断言を疑う理由などどこにもない。

ほぼ1時間後、撮影を終えて路上に降りてくれば、彼女のバッグは消えていた。しばらく呆然としてから

彼女の嘆きと取り乱しようは、傍目にも気の毒になるくらいだった。

「スウェーデンは変わりました」
彼女は何度も言った。

「私がこの国に来た20年ほど前から、バッグは明日の朝でも同じ場所にあるはずです」

多くのスウェーデン人は僕がこの話をすると、「いくらなんでもそれは無用心すぎるよ」と笑う。今にして思えば確かにそうだ。スウェーデン人の男性と結婚した彼女は、この国の人たちがいかに優しくて道徳的であるかを日本のメディアに強調しようとして、少しばかり無理をしたのかも知れない。

でも言い換えれば、そんな要素が確かにあるからこそ、彼女はそれを強調しようとした。ないものを強調はできない。そしてその要素については（短い滞在ではあったけれど）、僕も実感することができた。一言にすれば、とても穏やかで優しい国だった。人々は大人だった。

ノルウェーにおける罪と罰

「なぜノルウェーでは厳罰化が進まないのか。僕のこの質問に、法務省で刑務所の制度設計を担当している高級官僚は言った。

「ほとんどの犯罪者の背景には、幼いころの教育と愛情の不足、そして現在の貧困が、要因となって働いていません。彼らに与えるべきは罰ではない。良好な環境と愛情、そして正しい教育です。とても少数ではあるが、いわゆるサイコパス的な人はいらる。でもそうであるならばなおのこと、彼らに苦痛を与えても意味はない。この場合はできるかぎりの治療をしなければならぬ」

法務省の高級官僚が「罰とは苦しみを与えることではない」と公言するノルウェーでは、最高刑は懲役21年だ。死刑はとくに廃止され、無期懲役や終身刑もない。ところが再犯率はとても低い。懲役を終えた囚人は、住まいと仕事を保障されること、出所の条件になるからだ。この条件が満たされない場合には、国が住まいと仕事を保障する。

出所した元犯罪者に国が提供する住宅も撮影した。大きな共同住宅だった。一般の人も住んでいる。隣には幼稚園もある。子どもを乳母車に乗せて通りかかった若い母親に、「刑務所を出たばかりの人がたくさん住んでいることへの不安はないですか」と訊（たず）ねたら、「だって罪を償った人たちですよ。なん

の不安もありません」との答えが返ってきた。

ロケバスに乗り込んでから僕は考え込む。罪と罰の概念がまったく違う。もしも今の日本でこんな刑事施策を提唱すれば、現実を省みない理想主義者とほとんどの人に嘲笑されるだろう。でもこの刑事施策を実施している国は実際に存在し、そして圧倒的に良い治安を、現実のものにしている。

オスロでのニルス・クリスティへのインタビューは、ほぼ一日かけて行われた。多くの国の刑務所を訪ね、多くの受刑者たちに会ってきたクリスティは、「犯罪者の多くはこれまでの人生で、いろんな意味で苦しみを受けていた人たちだ。そんな彼らには更なる苦しみを与える意味はない」と言ってから、にっこりと微笑んだ。

「私は今まで多くの犯罪者に会ってきた。でもモンスターになど、一人も会ったことがない。どこかにいるのかな。君がもし知っているのなら是非教えてほしい」

最後に補足する。ノルウェーの人口は480万人。日本のほぼ30分の1だ。年間の殺人事件は確かに1件前後だけど、傷害致死や過失致死、

衝動的殺人などを除いた数字であることは前述した。計画的殺人に衝動的殺人も入れれば25〜40件近くになるようだ。そして日本の殺人事件の認知件数は、未遂や予備罪、さらには無理心中も入れているため、実質的な発生件数はこの半分強と言われている。

そのうえでもう一回計算してほしい。実は日本の治安状況は、ノルウェーとほとんど変わらない。やはり世界でもトップクラスの治安の良さだ。ところが体感治安の悪さもトップクラス。とても治安が良いのに、ほとんどの人が、治安が悪いと思ってる（ちなみにこの反対はアイスランドだ）。

だからやっぱりつくづく思う。何と不思議な国に僕は生まれたのだろうか。

もり・たつや 1956年生まれ。98年、オウム真理教の荒木浩を主人公とする映画『A』、01年に続編『A2』を発表。著書に『放送禁止歌（知恵の森文庫）』『悪役レズラーは笑う』（岩波新書）、『死刑』朝日出版社、『死刑のある国ニッポン』（金曜日、藤井誠二氏との共著）、『誰が誰に何言ってるの？』（大和書房）、『首都圏生きもの記』（学研）など。

ニュータイプの朝刊に生まれ変わりました。

毎日新聞の朝刊(北海道支社版)が、時代に合った新しいスタイルに生まれ変わりました。朝夕刊を統合し、内容を充実。これまで夕刊で人気の特集記事やクイズ、小説をとり入れてパワーアップ。ページ数も増えて、地元紙面が充実し、さらにインターネットのニュースサイト「毎日jp」とも緊密に連係。「ページをめくるたびにワクワクする」、「毎朝、新聞が楽しみで早起きする」。そんな新しい毎日新聞にご期待ください。

ページ数も増えてグレードアップ。購読料はグンとお得な3,007円。

※北海道支社版

(税込)



楽しい朝刊、
ください。



青山 夕香／青山 千景

4年連続24回目
編集部門
最多受賞!

2009年度 新聞協会賞受賞
「無保険の子」救済キャンペーン

大阪本社「無保険の子」取材班

購読のお申し込みは、☎0120-468-012 または、毎日jp | <http://mainichi.jp/>

ロンドンで暮らして⑪

英国の薬物問題

日系銀行勤務

由紀子アンダーセン



世界のオピウムの93%を生産するアフガニスタンではオピウムポピーの栽培が2008年に19%下降した。

違法に流通する薬物は世界規模の問題である。国連の薬物と犯罪に関する機関UNODCの昨年の「世界薬物報告書」(*1)によると、コカイン、オピウム、カナビスの世界市場は現状維持あるいは縮小傾向にある



「世界薬物報告書」の主要問題薬物を示す世界地図。カナビスは世界のどこでも生産できるため最も広く消費されており、また、若者が手にする最初の薬物であることが多い。

るが、合成薬物については特に発展途上国において増加している。

(*1) World Drug Report 2009, United Nations Office on Drugs and Crime (UNODC)

英国はヨーロッパの コカインキャピタル

08年に英国政府が発表した「薬物戦略」(*2)によると、イングランドには推定33万2千人もの問題ある薬物使用者がいるという。16〜24歳の若者の約4人に1人、16〜59歳でも10人に1人、11〜15歳の学生の17%が昨年、違法に薬物を使用している。ヨーロッパの中で英国はスペインと並んでコカインの消費量が高く、英国の違法薬物市場は40〜66億ポンド規模と推定される。規制物質



薬物常用は圧倒的に独身男性が多いという。また、先進国でのアンフェタミン、メタンフェタミン、エクスタシーなどの合成薬物使用は大きな変動がないが、発展途上国では増加を示すデータがある。

の中で(後に述べる)クラスA薬物使用は毎年およそ154億ポンドの犯罪・医療費を生み出し、窃盗事件の3分の1から半分は薬物がらみと考えられている。

(*2) Drugs : protecting families and communities - The 2008 drug strategy, HM Government, February 2008

しかし、11〜15歳の若者への調査をまとめた「イングランドでの若者の喫煙・飲酒・薬物使用」(*3)によると、01年の調査に比べて、08年には薬物使用経験者の割合は減少している。過去1年に使用したと回答された中で最も多い(9%)薬物はカナビスで、5%の学生は接着剤、ガスなどの揮発性物質を鼻から

接着剤などの溶剤、エアゾール、揮発性物質などを吸引して死亡する事故も起きている。



週末や深夜のクラブは、酒に酔い羽目を外した若者がパーティードラッグに手を出す最初の場になることが多い。

全体の6%いたが、07/08年では657人(同2%)と減少している。

一方、カナビスの濫用から治療を受けた数は05/06年で全体の55%、07/08年が53%とほとんど変わらず、アルコール常用によって治療を受けた学生の数は05/06年の4886人(30%)から8779人(37%)とほぼ2倍に増えた。

(*3) Smoking, drinking and drug use among young people in England in 2008, NHS Information Centre for Health and Social Care

(*4) National Treatment Agency for Substance Misuse (NTA)

吸い込んだことがあるという。国民医療サービス(NHS)の全国薬物濫用治療機関(*4)が最近発表した数字では、05/06年にはヘロインやクラックの濫用から治療を受けた学生は1081人(治療を受けた



多くの新しい密売人が違法薬物市場に参入し供給が必要を上回るため、30年前に比べて1/5~1/10の安値で取引されている。

安く簡単に手に入る薬物

仕事の後、財布に10ポンドあればパブへ行つて2、3杯のビールを飲んでおつりがくる。しかしロンドン北東に位置するエセックス地域の北部では、同じ10ポンドでクラスAの違法薬物、ヘロイン1グラムをかうことができ、これは個人差はあるが4服分に相当する。一方、薬物と薬物中毒のヨーロッパ監視センター(*5)の調べでは、最近の大陸でのヘロインの平均価格は1グラム25~40ポンド程度と見られている。

BBCのインタビュに答えたエセックスに住む20年のヘロイン常習者は「手近なので常習癖を絶つことができない」と言い、2年半のヘロイン常習者であるその恋人は「皆私が入手できることを知っていて私の所に欲しいとやってくるので、抜けれない」と言う。

どうやら薬物は犯罪組織によりロンドンから持ち込まれているようだ。量がふんだんにあるので売人は初め安い値で売り、人々が中毒になると値段を吊り上げて儲けると言う。この地域だけでなく、国内全体で薬物の密輸価格が下がり取引や入手が簡単になっている傾向がある。

(*5) European Monitoring Centre for Drugs and Drug Addiction

芸能人の薬物使用

2年前、英国人でグラミー賞受賞歌手のエイミー・ワインハウスはビデオで違法薬物使用中と疑われ逮捕されたが、違法薬物とは特定できず釈放された。その数年前にはスーパーモデルのケイト・モスがコカイン吸飲場面をタブロイド紙にとりあげられ、いくつかの国際ブランドは専属契約を破棄したが、そのまま契約を継続した企業もあり彼女は現在でも人気が高い。モスの元恋人の歌手ビート・ドハーティも薬物がらみの報道から縁が切れず、つい最近も飲酒運転で出廷した際に上着のポケットからヘロインの入った袋を落とすとして即刻逮捕され罰金を支払っている。現在薬物を断ち切るための治療を受けているというが、この間抜けた「間違い」はマスコミの注目を集めるための売名行為とも噂された。

薬物に手を染める時期にある十代の若者がテレビや雑誌を通して芸能人から受ける影響は大きい。芸能人の違法薬物使用が若者に「ファッショナブル」なイメージがないという



エクスタシーの錠剤。ロンドンの St George's 病院では520を超えるデザイン
の錠剤が確認されている。



自転車のイラストのついたLSD「スタン
プ」1つに25服分の「トリップ」があり、
このシート一枚で500服分。LSDは他
にも大きな針の先くらいの極小サイズの錠
剤がある。比較のために5ペンスコイン
(1円玉より小さい)が置かれている。

誤ったイメージを与えるのではない
かと危惧されている。

薬物規制法

英国では1971年に制定され



ケタミンの粉末と液体。多くの薬物はアル
コールやエクスタシーなどの薬物と共に
常用されるケースが多く、複合的な危険が
増す。

たMisuse of Drugs Actで規制薬物が
指定され、その薬物の有害度により
3つのカテゴリーに分けて刑罰を定
めている。

(1) クラスA

最も有害なクラスAの規制物質を
不法に所持・取引目的で所持・取引
・あるいは家屋内で使用や取引を許
すことなどが違法とされ、不法所持
は最長7年の服役・罰金、不法取引
は終身刑の厳罰が処される場合もあ
る。これにはエクスタシー、LSD
D、ヘロイン、コカイン、クラッ
ク、マジックマッシュルーム、メチ
ルアンフェタミン(クリスタルメ
チ)、注射用に用意された他のアン

フェタミンなどが含まれる。

(2) クラスB

クラスBにはカナビス、アンフェ
タミン、メチルフェニデート(リタ
リン)、フォルコディンなどがあり、
不法所持は最長刑期5年・罰金、不
法取引は14年・罰金となっている。

(3) クラスC

トランキライザー(鎮静剤)、数
種の鎮痛剤、GHB(ガンマヒドロ
エステル)、ケタミンなどが含ま
れ、刑罰は不法所持で2年・罰金、
不法取引で14年・罰金。

薬物の身体への悪影響と 分類の妥当性

昨年初め、規制薬物の有害度に
応じた分類について専門的な立場から
政府に助言を与える機関(ACMD)
(*6)の会長であったDavid
New教授が「エクスタシーより乗馬
中毒のほうがむしろ危険度が高い」
と個人的な論文で発表した。さらに
「アルコールやタバコのほうがLSD
D、エクスタシー、カナビスより有
害だ」と、カナビスをクラスCから
Bに格上げしなす政府の方針を批
判し、エクスタシーをクラスAから
Bに格下げするよう進言した。結局

政府は彼の意見を聞き入れず、教授
はその後会長職を首になり、物議を
かもした。

科学的な数値や事実に基づいた正
確な分類も重要かもしれない。しか
し、分類の格下げ・刑罰の軽量化を
行うことにより、その薬物が「安全
である」という間違った印象を世間
に与えてしまうのではないかと、現行
の分類・規制制度自体を見なおすべ
きだという意見もある。

(*6) Advisory Council on the Misuse
of Drugs(ACMD)

一方、強力なスカンクカナビスは
通常のハッシュカナビスに比べ7倍
も精神分裂病などの精神病を引き起
こす、という研究結果が発表された
(*7)。スカンクには高レベルの精
神活性物質アルタ9テトラヒドロカ
ンナビノール(THC)が含まれ
る。通常のハッシュのTHC含有量
は4%だが、スカンクでは18%。
しかも過去2年ほどでスカンクはカ
ナビス市場を優占し、価格も1グラ
ム5ポンド以下に下がっている。

また、薬物の影響で精神病になっ
た37歳の男が自らの両親を滅多切り
にして殺害するという痛ましい事件
が起きた。彼は十代からカナビスや

コカインを始め、21歳で自分の両親が本家の家族ではないという幻聴や幻覚を起こす精神分裂症になる。定期的に抗分裂症剤を投与する治療をしていたが、殺害に至る前の8日間に3度、医療機関の人手不足から投与を阻まれ、投与を待っている間、ビールを飲んでスカンクを吸っているうちに犯行に及んだという。こうした事件からもスカンクの影響は極めて強力なので他のカナビスとは別枠にして、クラスAに分類すべきだという専門家の声がある。

(*7) Institute of Psychiatry in London

リーガルハイ・ハーバルハイ

薬物市場には次々と新しい物質が誕生し、「合法的」薬物として店頭あるいはインターネットで入手可能となっている。例えば06年に初めて中国から輸入されたスパイスと呼ばれる一連の商品はアロマポプリでハーブの高揚感を与えると謳っているが、カナビスの作用を真似た合成薬品を含み、偏執症やパニック発作を誘発する危険がある。ACMDはこういういた合成カンナビノイドを規制薬物に加えるべきだとし、昨年末合成パーティドラッグで「エクスタシ

」の「ハーブ版」と呼ばれるGBLとBZPなどと共に、スパイスは規制薬物クラスCに加えられた。

政府の薬物対策

政府は先にあげた「08薬物戦略」で主に違法薬物に焦点をあて、4つの分野・法による規制、予防、治療と社会復帰、情報の伝達を網羅する10年プランを発表した。これには当初3年間で達成を目標とする具体的なアクションプランが加えられており、全体的な実施責任を持つ内務省(Home Office)、NHSを通して治療にあたる保健省(Department of Health)、そして若者の薬物中毒に関わる方策を実行する児童学校家庭省(Department of Children Schools and Families)を始め、他にも国内だけでなく国際的な機関と協力する体制となっている。

中でも鍵となり成果をあげているのが「薬物介入プログラム」(*8)で、これは犯罪を犯した薬物中毒者が司法制度を通して薬物から遠ざかるための治療や社会復帰の支援を行う。このプログラムの毎月の加入者数は4500人を超え、結果として薬物がらみの窃盗事件は開始当初

に比べ32%も減少した。

(*8) Drug Interventions Programme (DIP)

また、全国薬物濫用治療機関では治療対象をアルコール中毒を含めた薬物常用者全般とし、NHSを使って治療を行っているが、治療開始までの待ち時間が以前と比べ飛躍的に短縮した。

もうひとつ、重要な施策となっているのがフランクキャンペーンと呼ばれるものだ。これは薬物に手を染めるのは多くの場合十代であること

から、「フランクに話そう」(*9)

とインターネットの専用ウェブサイトを中心とした様々なPR媒体やメディアを使い、薬物の危険性を理解するよう若者やその保護者に呼びかけている。24時間体制の電話相談やEメールでは極秘で既に問題を抱えている者への直接的な助言や支援を行っている。

(*9) Talk to FRANK

薬物中毒は他の犯罪と違い、不法所持等で逮捕・投獄されてもそのままでは更正するのが困難だ。というのも、出所後、同じ生活環境に戻ることから薬物との繋がりを完全に絶つことが難しく、また「前科者」となり社会復帰に影響するからだ。

法による薬物規制を強化し、警察が違法の売人組織を摘発する一方で、中毒者を犯罪人にする前に積極的な治療や更正プログラムを提供することで、薬物濫用から起こる様々な犯罪や悲劇を減らし、安心して暮らせる社会にしたいと願う。



「ドラッグについて話すことはいけなことはない」というフランクの電話相談は120言語で対応している。Eメールの返答は24時間以内に受け取れる。

ゆきこ・アンダーセン 札幌市出身。藤女子大学英文学部英文学科卒。在札幌デンマーク通商代表事務所、英系会計監査会社などを経て三菱東京UFJ銀行欧州事務部勤務。デンマーク人の夫との間に一男。

ようこそ北方圏センターへ 国際交流サロンを開設 お気軽にお越しください

レンガ色の外壁を持つ北海道庁別館（札幌市中央区北3西7）の12階。エレベーターの扉が開くと、お

役所らしからぬ雰囲気につくはです。高い天井、レンガ張りの壁、少々たがひてはいますが、じゅうたんが敷き詰められたフロアー。

ここに国際会議場を始めとする北方圏センター施設が完成したのは1979年1月。こけら落としとして北方圏ジャーナリスト会議が同年2月、海外13カ国19人、道内18社33人が参加して開かれました。

国際会議場と通路を隔てた向かいにはレセプション会場にもなったプリンスホテル経営のレストランも併設されました。ここは北海道庁が「北方圏構想」の名の下に華やかな国際交流を繰り広げた舞台でした。今は国際会議場もレストランも撤去

され、昔日の面影をとどめるだけになっています。

しかし、北方圏センターは北海道の国際交流の総合的な拠点として、「地域国際化協会」の名前をいただき、今も同じ場所に存在し続けています。ここに人々のにぎわいを少しでも取り戻そうと、国際交流サロンをこのたび開設しました。

テーブルと椅子を置いただけではないかと思われるかもしれませんが、周囲をちょっと見渡してみてください。フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、カナダ、ドイツ、中国、ドイツ、ブラジル、アメリカ（アラスカ州）などの国々の民芸品がずらりと並ぶ棚があります。

日本を代表する札幌出身の彫刻家、本郷新氏（1905～80年）



本人から寄贈されたブロンズ像「エチュード」（61年）や、スウェーデンのガラス工芸作家、Paul Holt氏制作のクリスタルガラス（79年に当時の在札スウェーデン名誉領事、秋山康之進氏より寄贈）といった美術品などを見ることもできます。

ほかにも国際交流団体や国際機関の機関紙や情報誌、留学案内のパンフレット、海外旅行ガイドブックなども豊富に取りそろえています。

昼休みにお弁当を開く場所に使っていただけでも結構です。休憩時間の読書タイム、国際交流の情報収集などにもご利用ください。スタッフにどうぞお気軽に声をおかけください。皆様のお越しをお待ちしています。

（文・写真／北方圏センター出版部長・山田寿彦）

KYOWA PRINTING

質の高い「ビジュアル・コミュニケーション」をささえる商業印刷専門企業——



企業と生活者を結ぶ

協和印刷株式会社

〒063-0834 札幌市西区発寒14条14丁目2番50号
TEL (011)666-1641・FAX (011)669-2332



BGMが流れる国際交流サロン



国際交流団体の機関紙や留学案内などが並ぶラック



世界各国の民芸品の数々



スウェーデンのガラス工芸作家、Paul Hoff氏制作のクリスタルガラス



第32回さっぽろ雪まつりで制作されたカナダ・アルバータ州の議事堂のモデル



本郷新氏制作のブロンズ像

札幌・街なかの野鳥素描

北の自然 90

〈拡大版〉

札幌は大きな都市でありながら、多様な野鳥が住む街でもある。市街地を一步出ると自然いっぱいという場所は市内各地にある。街なかにも緑が多い。川や池も適度に散在している。そういった自然環境に恵まれているから、と思ひ込むのは危険かもしれない。野鳥にとつての本来の生息環境がどんどん減っていく中で、かろうじて生息しているという一面もあるからだ。また鳥の中には、積極的に都市へ進出する種類もいる。

とはいえ、都心や近郊にオオワシ、オジロワシ、ハヤブサ、オシドリなどが姿を見せる都市はないのは。もう少し野鳥のすみ場所に対する配慮があれば、全国に誇れる野鳥都市になるのは間違いない。そんなプランがあってもいいのでは。

写真・足立 栄治
文・小川 巖



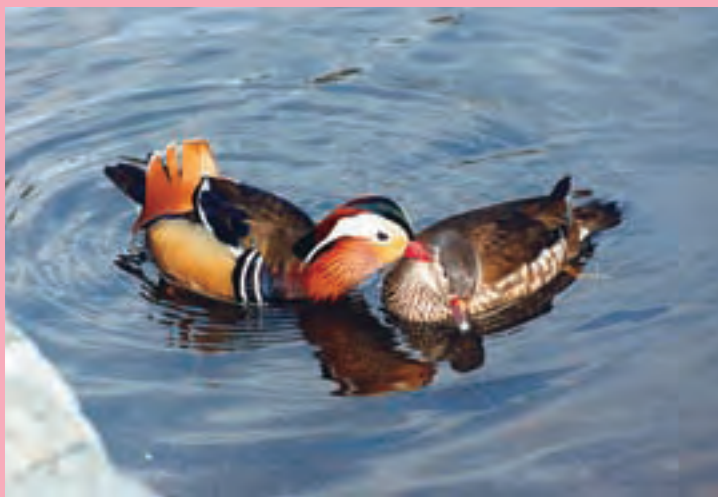
ハヤブサ (JR札幌駅)



シジュウカラ (北区)



ヤマガラ (東区)



オシドリ (道庁前庭)



アオサギ (中島公園)



ゴジュウカラ (北大構内)



セイタカシギ (モエレ沼)



キセキレイ (鴨々川)



オジロワシ (豊平川)



オオセグロカモメ (豊平川)



カワセミ (道庁前庭)



田中 良 (1923年～)
「バス停のある浜辺」
油彩
1983 (昭和58) 年
縦100cm×横100cm

田中 良 「バス停のある浜辺」

今から52年前の1958（昭和33）年2月に『アルプ』と云う、小さな山の雑誌が何の前ぶれもなく静かに発行された。詩人の尾崎喜八氏が名づけ、編集の代表は、哲学者の串田孫一氏であった。山を思索し創造心を研ぎすまされる誌面は、経済発展が最優先の時代に、爽やかで冴えた夜空を仰ぐ思いであった。25年間で300号を発行して1983（昭和58）年の立春の頃終刊したが、今もまだアルプの山脈は汚染されず『山の芸術誌』として輝き、半世紀過ぎてても色褪せてはいない。

私が創刊号を手にしたのは、成人になったばかりの、書店で住み込みで働く丁稚奉公の身の時であった。

創刊号の編集後記・編集室からは串田孫一先生がこう書かれている。

「ここに創刊された『アルプ』の性格については、私どもは何も宣言しない。ただ、雪線近いその草原が、人の住む町の賑わいから遠く静まっているように、『アルプ』もいわゆる雑誌の華やかさや、それに伴う種類の刺激性などからは距たったものだとは言えるし、自ずから願っている方向も決まっている」とある。

この『アルプ』によって人生を変えた私は、『アルプ』が語り残したものを、次の世に伝え継ぐために、『平成4年6月、新緑の眩しい陽光の中』『北のアルプ美術館』を開館した。建物は、三井農林（株）斜里事業所のコンクリート建ての社員寮を改築した。雑誌で見た北欧の建物を

イメージしながら外壁は板張りにし、6本の集合煙突をポイントにして周辺の緑地に白樺を主に植樹し、今は、住宅地の一角にひっそりと佇んでいる。当時は、弱々しかった木々も立派に成長し、20歳になっている。開館の時に串田孫一先生はこんな文章を寄せている。

「北海道の斜里の、この美術館のあるところから、病める地球が見事に癒されていく爽やかな緑が、先ず人びとの心に蘇り、ひろがって行くことを願っている」

展示作品は『アルプ』に掲載した直筆原稿や絵画などが中心ではあるが、この小さな美術館を建てたご縁で、大勢の画家、彫刻家、作家、写真家の方々と知り合い、その方々の作品も多い。

この度は、その中の1人、画家・田中良の作品を紹介いたします。

『バス停のある浜辺』は、昭和58年、二科会・春季展に出品された。

田中良は1923（大正12）年生まれ、1946（昭和21）年東藻琴村（現・大空町東藻琴地区）に移住後画家を決意された。

以来46年間絵を描き続けている。1953（昭和28）年二科会初入選して、現在は同会理事。田中良の心は、いつも北の大地とオホーツクにある。雪に埋もれる砂防ネットを描き枯れ草の色合いに陶醉している姿を嫌と言うほど、私には見た。スケッチブックを抱える田中良の頭上には雪を含んだ雲が垂れ下がる。（北のアルプ美術館 館長 山崎 猛）

Art of the North

北のアルプ美術館
〒099-4114 斜里郡斜里町朝日町11-2
(アルプ通り)
Tel : 0152-23-4000 / Fax : 0152-23-4007
ホームページ
<http://www.alp-museum.org/>
観覧料：無料
開館時間：夏期（6月～10月）10:00～17:00
冬期（11月～5月）10:00～16:00
休館日：毎週月曜日・火曜日・年末年始
交通案内：JR網走駅から車で40分
JR川床斜里駅から車で3分

航空機
女満別空港から60km 車で1時間35分
釧路空港から130km 車で2時間20分
中標津空港から70km 車で1時間30分
概要：北のアルプ美術館の館名は、山の文芸雑誌「アルプ」(昭和33年創文社から創刊)に由来する。アルプは25年間に300号が発行され、昭和58年終刊したが、このアルプが語り、残したものを次の世までも伝えたいと開館された私設の美術館。元横浜美術館学芸部長の武田厚氏は、北のアルプ美術館の葉の中で「この美術館は自然の美しさを伝えようとす

る美術館である」と書いている。
坂本直行、更科源藏、一原有徳など北海道で活躍した作家たち、詩人の尾崎喜八、作家の深田久弥といった執筆者によるアルプ関係の資料・文献と山岳図書のほか、この地にゆかりの深い作家の作品を収蔵、展示している。建物は地元の企業の社員寮を原形を保ちつつ改修したもので、1階は管理室、2階はアルプ資料室、絵画展示室、工芸展示室、版画展示室となっている。
(※アルプとはスイスの高山の雪線に近い豊かな牧草地をいう)

もっとう
北海道
2010

「元気の芽」応援します。



詳しくは



または

北海道新聞

検索



北海道新聞社

新連載 「これから」のひと ① 写真・文 酒井 広司



荻野華子（おぎのはなこ）さん 1988年札幌生まれ、21歳 撮影場所／札幌駅にて
2010年 札幌大谷大学短大部専攻科美術専攻卒
2008年 個展「くるくる」EED（EX-Basement Gallery）
2008年 全道展入選

荻野さんにお会いしたのは大学の卒業式を間近に控えた3月。油絵や版画などを学んできた人だ。

油絵は高校生の時に風景画を始めたのがきっかけ。大学在学中には公募展に出品したり、個展を開いて多くの人に作品を見てもらった。

最近のテーマは「影」で、はつきりしない曖昧なことを形にしようと試みている。絵の中に人影ともつかない不安なものが現れるが、本人はいたって明るい。

毎年過ごす冬の日には散歩が日課で、家の周りの公園を手ぶらでただただ無心に歩く。四季が明確な札幌の、白い雪が好きだという。ただいま就職活動中。

◇
20歳前後の、これから社会に出ていく人たちが登場します。この北海道に暮らす彼女らの「いま」がこの先どこにつながっていくのか。想像する楽しみがあります。

さかい・こうじ 1960年余市町生まれ。写真家。日本写真家協会会員。NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク会員。札幌市在住。

森の国・スウェーデンの現場主義林業

森林・林業研究者

内田 健一

世界屈指の森の国

スカンジナビア半島の東側に位置するスウェーデンは、国土面積に対する森林率66・9%を誇る世界第3位の森の国だ。森林面積の90%以上で木材生産が行われている。主な造林樹木はトウヒとアカマツだが、天然生のシラカバも、間伐して大きく育て、木材として利用する。

林業と、製材・製紙などの関連産業に従事する人口は、金属製造業に次ぐ2番目。木材と木材加工製品は、その輸出額から輸入額を引いた額が全ての産業中最大だ。

つまり、スウェーデンでは、林業と製材・製紙などの木材加工産業は、国内に最大の利益をもたらす基幹産業なのである。

彼らの考え方は面白い。ボルボなどの自動車製造業は、車を輸出してそれなりの収益を上げている。しかし、原材料や部品を輸入している

から、国の収益としてはトントンだ。

けれど、木材や紙に使う樹木は、自然力によつて生長するから原材料が不要で、しかも自国消費より輸出量が圧倒的に多い。おまけに毎年一定量の収穫が見込め、繰り返し再生産が可能である。だから林業は、国に純粋な利益をもたらす優秀な産業、というわけだ。

高効率の機械化林業

スウェーデンの林業を大きく特徴づけているのが、大型の林業機械を使つたきわめて効率性の高い木材収穫スタイルだ。3交代制で機械を24時間稼働させ、間伐や皆伐などの作業をどんどんこなす。1人・8時間あたりの作業効率、日本の効率のよい作業チームの5〜10倍にも達する(写真1)。

伐り出された木材は、建材が主な



写真1：間伐や木材収穫に使う大型機械・ハーベスタ。オペレータは職人的な森林技術者。

用途だが、小径の間伐材や梢端材、枝葉なども紙パルプやバイオマス発電などに無駄なく使う。

昼夜連続の作業スタイルには北欧ならではの事情がある。スカンジナビアでは、夏は昼、冬は夜の時間が非常に長く、もともと昼夜を明確に区別する意味が薄い。また、国土に多い湿地の森では、地面の凍った冬期以外は大型機械で乗り込むことが

難しい。

さらに、樹木を伐採して木材を収穫する作業は、もともと馬そりを利用した冬の仕事だった。ほとんどが平地のスウェーデンでは、重たい木材を移動させるために、機械化以前は雪を利用していたわけだ。つまり、木材収穫の作業は伝統的に夜間も行われていたのである。

大型の作業機械は、そのほとんどが個人や少数の独立した作業チームが自ら所有する。彼らは林業会社や森林組合(いずれも大規模なもの)が主流)と1〜3年の契約を結び、出来高制で木材生産の仕事を請け負っている。

公的機関が個人にでも融資する仕組みがあつて、機械は借金をして買う場合が多い。彼らとしては、毎日1人で作業するより、仲間と3交代で働いた方が、早期に設備投資費を回収でき、利益も得やすいわけだ。

高度な知識を持つ森林技術者

スウェーデン林業のもう一つの大きな特徴が、森で働く作業者たちが皆、高度な専門知識を持つ、優れた森林技術者であるという点だ。

例えば、間伐木の選木に際して、事務系技術者があらかじめマーキングするようなことはしない。個々の樹木の今後の成長や好ましい木材収穫量と量、様々な環境機能の向上までを含む総合的な森のデザインを、現場で機械を操る作業者が主体的に判断する。

もちろん、事業主との間で基本的な方向性の確認は行いが、それを具体的に考えて実行するのは、あくまでも作業者本人の役割なのだ。だからスウェーデンでは、森で働く作業者は、イコール専門的な知識を持った森林技術者だ。

高度に機械化されているから単純作業というわけではまったくなく、彼らはむしろ、職人的な仕事に自信と誇りを持って働いているのである。そんな森林技術者を育成するために中心的な役割を担っているのが、農林高校林学科の存在だ(写真2)。

スウェーデンでは、高校の段階で

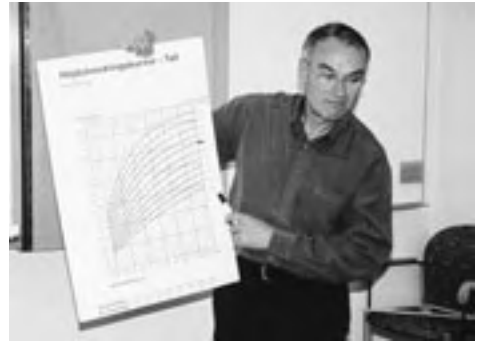


写真2：農林高校林学科で樹高成長曲線図を用いて講義する教官。知識教育のレベルも高い。

様々な種類の専門コースを選べる仕組みで、保育園から大学院まで、授業料や教材費は基本的に無料。農林高校林学科は現場主義・実践重視の姿勢が非常に鮮明だ。実習用チェンソーは1人に1台。目立てや修理などのメンテナンスを含めて、学生個人が管理し、間伐などの徹底した実践実習で使う。

もちろん、大型機械の実習も充実している。学校には実習用の機械が数台あって、専門の教官や現場のプーロが、運転実習に加え、分解修理などを含む実践実習をしつかりと行う。

林学的な理論や、測量測樹などの講義と実習も充実していて、知識教

育のレベルも高い。カラー図版を多用した教科書類も豊富で、専門知識を楽しく学ぶことができる。

そして現在では、森林作業の現場で働く者は、そのほとんどが農林高校林学科の卒業生だ。通常は3年間の課程を1年間に凝縮した社会人コースも用意されている。

さらにスウェーデンでは、農林高校林学科を卒業しなければ大学の林学科に進学できない。だから、大学の研究者や地域の森林官、森林企業や森林組合の職員に至るまで、林業に携わるほとんどの人は農林高校で一定期間濃密な実践実習を受けているわけだ。

高卒者と大卒者、事務職と現場作業者の間で、社会的地位や収入に、明瞭な格差も存在しない。現場作業者も森林技術者として尊敬され、職人的に働きながら十分な収入を得ているのだ。

環境保全への画立

すべての森林はその取り扱いを森林法によって制限されている。ヨーロッパは産業革命以降、かなり森林を乱伐した経歴を持つ。製鉄に大量の木炭を使ったからだ。

そのため、現在、イギリスの森林率は1割程度。良質の鉄鉱石が採れるスウェーデンでも、産業革命以降、森林の乱伐が進行して森が荒れた。

けれどスウェーデン人は、「このままでは大変なことになる」と途中で気づき、森林を維持してゆく道を選択。1903年には、伐採跡地に植林を義務づける法律ができた。

そして現在の森林法も森林環境の保全に一番の注意を払っている。けれど、現在のスウェーデンでは、環境保全と木材生産はお互いに矛盾する要素ではない。

森林面積の90%以上で林業をしているのだから、重要なことは、環境保全に十分配慮しながら木材生産を持続的に行うことなのだ。

森林法には、自然環境を守りながら林業をするための具体的な方法が示されている。例えば、伐採(皆伐・傘伐)や間伐を行うときに、地上2~3mで高伐りした樹木を1畝に3本ほど残す必要がある。これは「鳥のための木」と呼ばれ、キツツキ類の生活を助ける(写真3)。枯れ木や倒木などもむやみに片づけないよう気を遣う。また、実のなる低木類もできるだけ残す。



写真3：鳥のための木。スウェーデンでは豊かな自然環境と林業が共存・共栄している。



写真4：「森の幼稚園」で遊ぶ子供たち。スウェーデン人は大人も子供も森が大好き。

わき水や小川の周囲にも、そこだけに棲む生物がいる。周囲が針葉樹人工林の場合は、部分的に強度間伐して光を入れ、天然生広葉樹の生育を促す。また、山火事も自然現象とみなされ、人家などに危険が及ばなければ消火しない。

さらに、先人達の生活跡である石垣や洞穴などを見つけたら、周囲の樹木を伐り払って遺跡を保護する。スウェーデンの常識では、良好な自然環境と人的な文化遺産は、どちらも同じように大切なのだ。

一般の市民にとっても、森は非常に身近で親しい存在である。キノコ

やブルーベリーの採集、魚釣り、バーベキューやキャンプなどを積極的に楽しむ人が多く、幼稚園や学校でも頻繁に森に行く（写真4）。

こうした森の遊びはこの森でも勝手にしてよい、という不文律がある。ただし無断で樹木を伐ったりすることはルール違反で、森で遊ぶマナーは、小さい頃から自然に身に付く格好だ。

優れた森林官と独立採算

スウェーデンでは、国公有林・民有林を問わず、国の森林庁の下部組

織である地域森林局が、森林法に基づいた管理や指導、助言をする。実際にそれを行うのが、各地域に配属された経験豊富な森林官だ。

森林官は、できるだけ個々の森林所有者の立場に寄り添うよう気を遣い、適切な助言をすることに重点を置いて活動している（写真5）。

そして、きわめて特徴的なことは、地域森林局の業務は「独立採算制」を採っている、という点である。森林管理に必要とする経費は、森林官自らが森林調査の業務を請け負って稼ぐ仕組みになっている。スウェーデンでは「自ら森の中で



写真5：伝統的な炭焼き。森林官が森のイベントでかつての炭焼きを再現していた。

作業することのできない森林官に指導や助言ができるわけがない」という伝統的な考え方が今も健在なのである。

スウェーデンでは、造林や間伐などに対する補助金は基本的でない。しかも森林行政は独立採算制だ。だから、政府が森林のために使う予算は非常に少ないはずだ。

不利な自然条件を克服

北欧では緯度が日本よりも高い分、太陽光線の絶対量が少なく、平均気温も低い。だから、温暖多雨な日本に比べて樹木の成長スピードが遅い。

スウェーデンでは、トウヒやアカマツの一斉林が、皆伐の目安となる樹高20mに達するのに南部で70〜100年。北部では140年もかかる場合がある。これは、日本の針葉樹のおよそ半分の成長スピードである。

単純に単位面積当たりの木材の生産効率を比較すれば、スウェーデンは日本の半分程度の木材生産しかできないわけだ。したがって、スウェーデンは日本に比べて林業に適した地域、というわけではない。

それにもかかわらず、林業が国の基幹産業として十分な収益を上げ、さらに良好な森林の自然環境が維持できているのである。

スウェーデンの森は成長に100年あまりの年月が必要なのだが、1人の人間が1世代で育て、収穫することはまったく不可能。だから、森は、できるだけよく育て、孫子に受け伝えてゆくべき性質の家族共有の財産だ。

日本へ大量に輸出しているスウェーデン材も、斧と鋸の時代から間伐などの手入れを繰り返して、世代を超えて育ててきた樹木なのだ。このような状況が成立している要因には、人々の生活感や考え方も大きく関係しているだろう。

スウェーデンでは、住宅を手入れして100年以上使うことは当たり前。農村部では築200年以上の木造家屋が普通に見られる。つまり、スウェーデンの農村部は、その外観が日本における江戸時代からほとんど変わっていない。

このような、けっして「右肩上がりの経済成長」ばかりを追い求めない人々の価値観も、今日のスウェーデンの林業を支えている大きな要因ではないだろうか。

北海道の林業を変えるために

日本の国土面積はスウェーデンの約9割。森林率は68・2%で、フィンランドに続く世界第2位。

北海道も70・6%の森林率を誇るが、明治以降、広大な天然林は、国が主導して一貫して乱伐されてきた。今日でも、収奪林業に近い作業が普通に見られる。戦後、国や道はそうした伐採跡地に補助金を大量投入し、広大な針葉樹人工林を造成した。

しかし、高度成長期以降、林業は「儲からない産業」の代表格となり、今日では、間伐不足の暗くて荒れた人工林ばかりが目立つ。

北海道では、間伐や木材収穫などの林業技術も全国最低レベル。森の樹木や表土を台無しにする列状間伐やブルドーザ集材が幅をきかせている様子は見るに堪えない。

日本は、国や自治体、森林組合などで働く技術者の数、各種の補助金、大学や研究機関と研究者の数、どれをとっても、スウェーデンを圧倒的に引き離している。

それなのに、日本では林業が衰退して、木材自給率はたった2割。天

然林は乱伐され、荒れた人工林とジヤングル化した天然生林（2次林）ばかりになってしまった。

日本はスウェーデンの倍も樹木の生長がよいのだから、根本的なところから本気で取り組めば、もう少しましな林業が成り立つはずだ。

また、北海道の地形は、スウェーデンで活躍している大型機械で間伐や木材収穫も十分可能だ。笹藪と格闘して作業者が体を壊したり、拙い作業道が山を荒らしたりするくらいなら、北欧の機械をそのまま持ってきた方が、話が早い（写真6）。

何より重要なことは、日本や北海道全体の林業技術をもっと向上さ



写真6：傾斜地で作業するハーベスタ。北欧の林業機械は北海道の地形にも対応できる。

せ、現場で即戦力となる優秀な技術者をしっかりと育てることだ。もちろん、森で働く者の社会的地位や賃金の向上も重要な要素だろう。

日本や北海道の森は、私たちの世代が責任をもって豊かで美しいものにしてゆく義務がある。今こそ日本人は、将来「あのときの世代が森を台無しにしてしまった」と言われないうち、本気で森と向き合うべきなのである。

〈参考・引用文献〉

内田健一「森づくりの明暗―スウェーデン・オーストリアと日本」川辺書林、2006

内田健一「森を育てる技術」川辺書林、2007

内田健一「スウェーデン・オーストリアの森林保全と林業活動」遺伝」61巻4号、2007

内田健一「森林再生―欧州の取り組みに学ぶ日本の課題」都市問題」98巻13号、2007

うちだ・けんいち 1967年神奈川県生まれ。信州大学農学部林学科卒業後、特殊法人職員、大学院生、森林作業員などを経て岐阜県立森林文化アカデミー教官となる。その後退職し、フリーの立場で森林・林業問題を研究・執筆。2009年、北海道黒松内町に移住。

ロシア・サハ共和国の教育と研究

(2) 寒冷地生物問題研究所と野生動物保全における連携

北海道大学大学院文学研究科助教

立澤 史郎

サハはロシア連邦に属する巨大な共和国である。そこには、モスクワからコントロールを受ける一地方としての顔と、強い自立意識を持つサハ（ヤクート）やエベンなど先住諸民族の力学で成り立つ独立国家としての顔がいつも交錯している。近年はモスクワからの干渉が強まっているが、その影響は政治や経済だけでなく、研究や教育にも見られる。

や生物の研究を幅広く行っている寒冷地生物問題研究所など、ヤクーツク市にある約20の研究機関もここに属する。

ところが、2007年から09年にかけてこれらの再編が進み、サハ科学アカデミーの主要研究所はロシア科学アカデミー（シベリア支部）に移管され、また前者の多くの小さな研究所は主要研究所に吸収合併された。

寒冷地生物問題研究所の活動とネットワーク

この3年、筆者らは北方圏交流基金などの支援を受けて、寒冷地生物問題研究所 (Institute for Biological Problems of the Cryolithozone、略称IBPC) と共同研究をすすめている。IBPCは12の研究室と附属植物園からなり、運転手や事務員を含めるとスタッフ数は約150人になる。研究対象は、微生物や物理化学環境から森林景観や野生のホッキョクグマまで幅広く、調査地もシベリア全体にわたっている。

ロシア科学アカデミーは、自然科学だけでなく人文・社会科学も含む、約300と言われるロシア全土の科学研究機関を束ねる巨大組織である。

シベリア地域は自然・人文・社会のどの分野においても独立性が高く、ノヴォシビルスク市に科学アカデミーシベリア支部(RAS)が設置され、凍土展示やマンモス発掘で知られる永久凍土研究所、環境問題

一方、地下資源のおかげで経済に恵まれるサハ共和国には、これまで「サハ科学アカデミー」が別個に存在し、シベリアの文化・社会研究で知られる人文科学研究所、少数民族の地位向上に尽力する少数民族研究所、美術館や博物館、そして農業実践分野の多くの研究所がそこに所属していた。

再編の影響

サハ科学アカデミーのもとで比較的自由に活動できていた研究者たちにとっては予算や活動の縛りが非常に厳しくなってきたからだ。今、彼女らはモスクワやノヴォシビルスクから赴任した所長との関係、白系ロシア人の比率を高めようという圧力、予算の縮小などへの対応に追われながら、動静を見守っている。

私たちのパートナーは、主に鳥獣を扱う山地生態系研究室 (Lab. of Mountain Ecosystems) で、前室長で現研究部長のオクロポコフ氏 (哺乳類生理生態学)、現室長のアルカディ氏 (鳥類保全生態学)、研究員のキリリン氏 (生息地解析) やガブリリエル氏 (狩猟鳥獣管理) と、各



ヤクーツク市内にある寒冷地生物問題研究所。サハはじめ東シベリアの生物や環境の研究を幅広く行っている



山地生態系研究室の面々。それぞれが自分のプロジェクトを持ち野外調査に忙しい

分野のエキスパートが揃っている。

ここにもモスクワの干渉や再編の影響は及んでいるが、IBPCの場合は国内外の機関と幅広く共同研究を進めており、むしろ近年アクティビティを高めてきている。

特に日本とは、環境科学(大気や水循環など)の分野で長く地道な共同研究が進められており、息子が日本の大学に留学しているデシャトキン副所長はじめ、スタッフに親日家が多い。

多様な連携活動

野生動物研究といっても、その生態だけでなく、それを利用している地域住民(特に先住民)とのかわりやその保全政策まで扱う場合、幅広い知見とネットワークが必要になる。親目的であるだけでなく、IBPCはこの点でも素晴らしいパートナーである。

一つには、個々の研究者が基礎研究からその応用や関連政策にまで精通しており、また一方では、サハ共和国政府、狩猟者団体やトナカイ牧畜組合、各種NGOなどと連携して政策にも深く関与しているからだ。

野外調査における自然保護省の支援、動物園での保護や実験、各地の情報収集や地域住民の意見の集約における各団体の協力、NGOとのキャンペーンなど、必要に応じて実によく連携をとり、そして全体をコーディネートしている。日本に多い形だけの連携でないのは、すべきこと(目的意識とゴール)が共有され、しかもそれぞれの役割が明確であるからだろう。

生態学をベースとした自然保護省と自然環境教育

旧ソビエト連邦が解体した91年以降、独立宣言こそロシアにより封じられたものの、初代大統領が指揮して改革されてきた共和国の行政システムは、欧米や日本を反面教師にもしたというだけあって、シンプルかつ実効的である。

その中で、野生動物を含む自然環境の保全を担う自然保護省(Ministry of Nature Protection)は、水資源



自然保護省正面玄関。科学的かつ長期的な観点から保護プロジェクトが進められている

保護管理、放射線安全管理、自然保護区、生物資源管理、生態系管理、生態系調査分析、生態系調査センター、生態学教育・広報の8部門からなる。

人々の暮らしと切り離せない水資源、そして最も深刻な環境問題である放射能汚染問題を扱う部署が独立しているのは、当地ならではの。また、全体が生態学ベースの管理システムになっており、その基盤としてモニタリング調査(実態監視)と生態学教育が重視されている点は非常に特徴的であり、日本も見習うべきだろう。

そもそもロシアの学校基礎教育では、地域の生物相や生態系の教授に力が注がれているが、サハではそこに多様な民族による生物資源利用の理解まで含まれており、外国の動物やアニメしか知らない日本の子供たちとはスタート時点から状況が大

きく異なる。

以前ヤクーツクの小中学生や大学生に授業をした際にも、自然や生物についての知識や経験が豊富なことに驚いたが、そこには生物学と自然教育の伝統に加え、博物館や動物園を頻繁に利用し、手を抜かず本物を子供たちにみせようとする教師たちと、それに応える情報と姿勢を持った自然保護省や研究者の努力があるのだと思う。



熱心に聞き入る子供たち。多様な民族の子供たちが机をならべている



サハ高等音楽院の授業風景。小学校でも生物や生態学の授業があり子供たちは自国の自然に詳しい

野生動物再導入プロジェクトと 機関連係

さて、前記のように地域の生態系の科学的管理とその教育を重視するサハ共和国で、国を挙げて進められているプロジェクトがある。それは野生生物相の再導入であり、現在哺乳類ではジャコウウシ (Muskov) やバイソン (Wood Bison) の再導入 (野生化) がすでに始まっている。

北極圏に特有の大型有蹄類ジャコウウシは、カナダとグリーンランドをのぞいて絶滅したが、70年代からアラスカ、西シベリア、世界遺産で知られる極東のウランゲリ島などに再導入が行われた。サハ共和国でも96年以降、ロシア他地域から百数十頭が移送され、動物園等での繁殖研究が行われて一部はすでに野外に放たれている。



ヤクーツク動物園で生まれたジャコウウシの子供。野生動物の保護増殖および生態学教育の拠点として整備が進む。右はサフォノフ・ルカ園長

バイソンは、06年4月にカナダから30頭の幼獣が空送されて自然放牧場に放され、08年から自然繁殖が始まって個体数が50頭を超え、かつての分布域への再導入 (野生化) も読み段階となつてきている。

困難克服し成功

このように書くのと、あたかも科学的生態系管理の優等生が、動物相の復元をスマートに実現しつつあるように聞こえるが、実際は異なる。バイソンの再導入を進めることが政策として決まったのは97年で、以降費用捻出や基礎研究の努力が続き、ダイヤモンド探掘会社などから空輸資金が調達でき、政府間の調印に達したのは06年のことである。

しかも足かけ10年に渡る多くの人々の努力にもかかわらず、当初は環境変化のためか死亡した個体もあ



バイソン再導入プロジェクトのスタッフたち。左端が責任者の自然保護省生物資源局ボポフ・アンドレ氏

り、08年からようやく繁殖と個体数の増加が始まったのである。長期的視野に立ち、ネットワークを駆使した努力の成果と言えるだろう。

動物園と農業大学

サハでの動物研究においては、01年に設立されたばかりのヤクーツク動物園と、歴史あるヤクーツク農業大学の役割も大きい。

ヤクーツク市郊外にあるヤクーツク動物園は、シベリアと極東の動物を中心とすること、飼育だけでなく研究と教育を活動の柱とすること、北方圏の動物園の連携を積極的に進めること、を理念としている。

筆者が訪れた08年にはまだ拡張工事なども行われていたものの、当時すでに120種以上が飼育されており、「北方圏動物園協会」も立ち上げ、そしてIBPCなどの協力によ



ヤクーツク農業大学の実習農場。学生の実習や実験に活用されている。トナカイそれに敷かれているのはヒグマの毛皮

ってヤクーツク大学生物学科やヤクーツク農業大学の学生の実習や調査、小中学生を対象とした多様な教育活動なども積極的に行われていた。

またヤクーツク農業大学は、農業研究所とともに獣医学・畜産学などの研究教育を行っており、広大な学生用の実習農場、自然保護区 (自然保護省) と連携、前回紹介した北極圏大学への参加など、学生に多様な学ぶ機会を提供している。

特に実習農場は、トナカイとヤクーツク馬の飼育繁殖や研究で有名であり、今回私たちの共同研究でもトナカイに発信機を装着させてもらうなど、研究協力に大変積極的であった。

温暖化と狩猟活動の変容

2010年3月11日、ヤクーツク近郊ナムスキー郡。例年60センチ以上ある積雪が半分ほどしか無く、道路



凍った湖にヤクーツク馬があけた水飲み穴。役畜や食糧としてサハの人々に欠かせないヤクーツク馬は氷結環境に適応した習性を身につけている



湖で切り出され積み上げられた氷柱。清涼な飲料水や生活用水として毎日利用されるが、湖が完全に凍らないと濁って使えなくなる



氷結したレナ川に設置された道路。凍結河川は人や物資の重要な移送路だが、近年凍結期間が短縮している



氷結した湖に設置したマスカラット用の罠。マスカラットはサハの主要毛皮獣だが、厚い氷がないと罠が設置できない



狩猟エコツアーのスタッフたち。伝統的狩猟の教育・観光利用を模索するなど新たな挑戦が始まっている

には土が見え、無数にある湖沿の一部は氷のすぐ下で水が流れていた。

原因はともかく、ここ数年の「温暖化」は急速に進んでおり、十分な氷がないと成立しない冬の淡水魚漁や猟期中の毛皮獣捕獲、そして何より飲料水と道路（凍った川が道路となる）の確保が問題となりつつある。

「近代化」の影

加えて、共和国にも「近代化」の波が押し寄せる中、伝統的な慣習の維持や野生動物の毛皮や肉の利用に消極的な人々が増えているという。

このような状況で、クロテン、ミンク、マスカラットといった、かつてロシアとシベリアの経済を支えてきた毛皮獣の狩猟が急速に規模縮小し、生業から趣味（レジャー狩猟）へと変容してきているそうだ。

これは、単純に考えると狩猟数が

減少して野生動物保全に役立ちそうなものだが、実態は逆である。利用

価値の失われた野生動物は、一部では増殖するだろうが、高密度になりすぎれば逆に繁殖率などが下がるし、マスカラットに代表されるいわゆる外来種が温暖化に乗じて増殖すれば、本来保全の対象となる在来種は生息域を狭めてしまうだろう。

利用することで守られてきた生物相をどう維持するか。日本の里山で議論されている課題が、シベリアにも共通するとは驚いたが、サハではこの現状を受け入れ、打開策も検討されていた。

観光を国土保全に生かす

今回、私たちの狩猟実態調査をコーディネートしてくれた環境保護省と狩猟組合では、共和国外のハンターを対象とした狩猟ツアーを積極

ている。

そこでサハの伝統や現状を紹介し、理解者を増やすとともに、収益を地元の狩猟活動やモニタリング調査の資金源とし、その結果を地元の教育活動にも生かそうという試みである。この活動には、シベリアの森林を安売りさせないという成果も期待されており、その意味では教育・研究調査・観光と国土保全をリンクさせる試みでもある。

伝統の上に立つ経済活動

日本では、ほとんどの人々が野生動物との密接な関係を失って時間がたち、野生動物より先に狩猟者人口が絶滅するとさえいわれ、そして知見豊富な狩猟者に依存した科学的モニタリングの道も絶たれて久しい。

しかし、減ったとはいえ、まだ多くの人がトナカイやウマの肉を食

べ、毛皮や皮革製品を身にまとい

いるこの国では、単なる近代的エコツアーでない「新伝統生活」の基盤となる経済活動が生まれる可能性を感じる。温暖化による環境変化の影響を受けるだけでなく、そこに柔軟に対処・順応して自分たちの文化や伝統を育もうとするサハの人々の今後を見守ってゆきたいと思う。

たつざわ・しろう 1959年生まれ。京都大学大学院理学部博士課程修了。理学博士。専攻は保全生態学、環境学習論。

*今回の共同研究は、北方圏交流基金（準備段階）、総合地球環境学研究所（シベリアプロジェクト）、学術振興会（二国間学術交流事業）により進められている。関係者の方々にお礼申し上げます。

在日の子供たちが朝鮮語を習得するまで

北方圏センター出版部長

山田 寿彦

北海道朝鮮初中高級学校(注1)は札幌市清田区平岡の閑静な住宅街の一角にたえずんでいる。小学校に当たる初級部(6年)、中学校に当たる中級部(3年)、高校に当たる高級部(3年)に在籍するのは、特別永住資格(注2)を持つ「在日コリア

ン」の3世、4世など計113人(今年2月現在)。朝鮮籍と韓国籍ばかりではなく、親の事情で日本籍を持つ子供たちもいる。子供たちは12年間の課程を終えると、見事な朝鮮語を身に付けて卒業していく。ここではいったいどんな言語教育が行われているのだろうか。同校が培ってきた言語教育のノウハウは、日本の公教育が語学教育のレベルを上げるうえで大いに参考になるはずだ。

同校に取材を申し込むと、朝鮮語(国語)を担当する崔悠花さん(23) 山口県出身と崔美滯さん(24) 札幌市出身の2人の先生がインタビューに応じてくれた。

2人とも東京の朝鮮大学卒。ハキハキと明るい悠花さんと、もの静かな美滯さん。好対照の2人だったが、同化圧力の強い日本社会で「在日」



崔美滯先生



崔悠花先生

のアイデンティティーを保ちながら生きていくうえで朝鮮語がいかに大事か、どちらの口からも熱い思いがほとばしり出た。

「在日」にとつての朝鮮語

「言語教育のノウハウ」と書いたが、朝鮮学校における朝鮮語教育は日本の学校における英語教育とは本質的な意味が全く違う。日本人が英語を学ぶのは、多くは受験や就職のため、世界のコミュニケーション言語であるからといった功利的な理由が主だろう。在日の人々にとつては、生きることそのものと深くかかわっており、自ずと学びの気構えが違ってくる。

朝鮮学校で朝鮮語教育はどのような意味を持つているのか。愚問と承知の上で2人に尋ねた。

「ここでは朝鮮語が生活の基本です。日本語と英語の授業以外はすべて朝鮮語です。ウリハッキョ(私たちの学校)の基本の基本。朝鮮語を話し、習っているからこそその朝鮮学校であり、それがなかったら朝鮮学



正門から見た北海道朝鮮初中高級学校=札幌市清田区平岡

北海道朝鮮初中高級学校のカリキュラム

◆初級部

科目	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
国語	9	8	7	7	6	6
社会			1	2	2	2
朝鮮歴史						2
朝鮮地理					2	
算数	4	5	5	5	5	5
理科			3	3	3	3
日本語	4	4	4	4	4	4
保健体育	2	2	2	2	2	2
音楽	2	2	2	2	2	2
図画工作	2	2	2	2	2	2
合計	23	23	26	27	28	28

◆中級部

科目	1 学年	2 学年	3 学年
国語	5	5	5
朝鮮文法			1
社会	2	2	2
朝鮮歴史		2	2
朝鮮地理	2		
数学	4	4	4
理科	4	4	3
日本語	4	4	4
英語	4	4	4
保健体育	2	2	2
音楽	1	1	1
美術	1	1	1
家庭情報	1		
合計	30	30	30

◆高級部

科目	1 学年	2 学年	3 学年
国語	5	5	5
社会	2	2	2
朝鮮歴史			3
現代朝鮮史	2	2	3
世界歴史		3	
世界地理	2		
数学	4	2	2
理科	3	2	2
日本語	4	4	4
英語	4	4	4
保健体育	2	2	1
音楽	1		
情報	1		
(専)数学、物理		*2	*2
(専)生物、化学		*2	*2
(専)上級英語		*4	*4
(専)生活科学		*2	*2
(専)美術		*2	*2
(専)情報商業		*2	*2
(専)簿記		*2	*2
合計	30	30	30

高級部2学年から理数・英語・商業・生活科学の4コースに分かれ、各コースで週4時間の選択科目(*)を履修する。(専)は「高度な」の意味

校ではありません。それぐらい重要で中心的なものです(悠花さん)

「朝鮮語は民族を象徴するものだと思います。日本人と結婚している朝鮮人も多いし、血だけで『朝鮮人だ』と言うのは難しい時代になっています。しかし、『自分は朝鮮人だ』と堂々と言える一つ(の根拠)が言葉です。それがなければ、何をもって自分が朝鮮人だと言えるのか。言葉はそのようにとても大切なもので、単なる学問ではありません

ん」美澄さん)

徐々にレベルアップ

どのように子供たちは朝鮮語を習得していくのか。2人の話を総合してみる。初級部に入ってくる子供は、就学前に週1回の朝鮮民族を味わう集いに参加して基礎的な朝鮮語を学んでいる場合もあるが、通常は挨拶ができたり、単語が分かったりする程度。言葉を文章にして会話することは難しい。

初級部の最初の2年間で朝鮮語での授業がほぼ理解できるようになる。6年生までに慣用句の知識を深め、初級部を卒業するころは生活に不自由しない程度に朝鮮語を使えるようになっていく、というのが到達

目標だ。中級部では朝鮮語の文学作品をより深く学ぶ。高級部ではそのレベルをさらに上げていく。

一般的な傾向としては、話したり聞いたりするより、文字を正確に書くことの方が難しい。朝鮮語文字のハンゲルは意味ではなく音を表すため、どうしても似た音を書いてしまう生徒がいる。

初級部や中級部の途中から編入してくる生徒は朝鮮語による授業は全く理解できないため、特別な対応が用意される。1年間は朝鮮語を別に教える時間を作り、放課後の補習などもある。

中3で学ぶ「朝鮮文法」

ユニークなのは「朝鮮文法」とい

う科目が独立して中級部3学年の1年間だけ設けられていることだ。生徒はここで朝鮮語の文法を集中的に学習する。

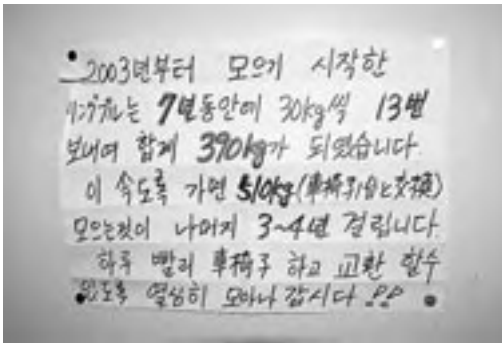
「生活の中で、あるいは国語を習いながら文法を学ぶことはありませんが、一つのけじめとしても一回確認して高級部が上がろう、という意味があります。どうしても日本語と同じ感覚で朝鮮語を使うと、文法を間違えてしまうことが多い(悠花さん)。

「文法は作品を学ぶ過程で自然と扱われています。科目としてまとめて学ぶのが中3であって、知っていることを集中的に再認識するという意味があります。朝鮮語は生活の中で飛び交う言葉で、学問ではない。

だから学問として朝鮮語を学ぶ文法の時間があるわけです(美濃さん)

どの民族であれ、国であれ、子供が言葉を身につけるのは、まず文法ありきではない。耳から自然と覚えていくもの。言語の成立もそのようなもので、言語学者が後から分析してみても一定の法則性や規則性を見つけ、文法として体系的に整理するのだろう。

朝鮮学校の朝鮮語教育はそうした流れに逆らわず、合理的に組み立てられている。文法の集中的な学習時期が中3というのも絶妙だ。自身の経験でいうと、受験目的が優先される日本の英語教育はその点で全く逆立ちしており、「英語嫌い」をわざわざ作っていると思えない。



リングブルを集めようと呼びかける掲示。日本語が混じっている

日本語の影響

朝鮮語を学ぶ環境がこれだけ充実していても、生徒たちは日本語の影響を強く受けてしまう。家庭に戻ると、家族との会話が日本語の生徒は多い。「ここに赴任してからも間違った言葉がいっぱい聞こえます。気づいたら、全部指摘します」(悠花さん)。家庭でも朝鮮語を使ってもらうのが一番いいのだが、そこまでの指導はなかなかできない。

そう言う悠花さんも子供のころ、家族との会話は日本語が多かった。最近、実家の親と電話で話す時、自然と朝鮮語で話している。意識するようになって、そうなったという。

日本語の影響を受けると、本国(朝鮮民主主義人民共和国)で使わ



図書室に掲げられた貸し出し本の返却日

れている朝鮮語と微妙なずれが生じてくる。ずれを埋めることも朝鮮学校の朝鮮語教育の切実な課題になっている。

「朝鮮語は生まれて最初に聞く母語ではない。母国語ではあっても母語ではないという難しさがあります。大幅に間違っているわけではなく、(本国の人に)通じることは通じます。しかし、日本語混じりの朝鮮語になってしまふ。文法が日本語とほぼ同じなので、直訳してしまふ傾向があります」(美濃さん)

例えば日本語で「私は先生になる」と言う時の助詞「〜に」は朝鮮語では「〜へ」と認識されがちになる。ところが、必ずしも日本語の「〜に」すべてに対応して朝鮮語の「〜へ」が使われるわけではない。このあたりが間違いやすい原因になるという。

本国を訪問した時、こちらは敬意を持って話したつもりでも、相手は不愉快に感じる言い回しの場合がある。本国で最上級の敬語を使ったつもりでいたら、「それは軍隊用語だ」と指摘されたり、在日同胞の間では通じる言葉を「何だ、その単語は」と聞き返されたりした経験が悠

花さんにはある。

朝鮮語と日本語の文法が似ているところにも一因があるようだ。「朝鮮文法」の集中的な授業は、普段は気づかなかった言葉の誤用を見つけて良い機会ともなり、高級部に向けて生徒たちは一段、レベルアップする。

「運動」で高い意識を持つ

特に罰則があるわけではないが、学校では日本語を私語でも原則として禁止している(実際は教師に隠れてひそひそ話す生徒もいるらしい)。「日本語を使つてはいけない」というより、朝鮮語で生活しようというプラス志向だと思つてほしい(悠花さん)。校内の掲示物もハンゲルで統一されている。

朝鮮語を正しく使おうという高い意識を持つことの大切さが生徒たちに教え込まれる。そうした伝統的な取り組みに「運動」がある。例えば「運動会まで」と一定の期間を定め、「朝鮮語を正しく使いながら運動会を成功させよう」といったスロガンが掲げられる。

取材した時は、全校生徒が参加する「講演大会」に向けて中級部が運動の期間中だった。早口言葉や演

劇、漫才、詩の朗読などを通して「朝鮮語をもっと流ちょうに」と生徒たちの意識を高める取り組みだ。

言葉は伝統文化

悠花さんも美澄さんも「朝鮮語は単なるコミュニケーションの手段ではない」と語る。言葉には国や民族の伝統的な文化や歴史が詰まっているからだ。悠花さんは言葉の持つ面白さの例として次のように言う。

日本語の「恨みを晴らす」に相当する朝鮮語は「恨みを解く」になる。日本語には復讐をして自分の心が落ち着くというニュアンスがあるが、朝鮮語では恨みの心を解いていくという意味になる。

朝鮮語は自分の強い気持ちを表現する時に「死にそうだ」とよく使う。「寒くて死にそうだ」悲しくて死にそうだ。そんな言い方にも悠花さんは民族の心根を感じる。

国交がないことの壁

日本の学校で英語を学ぶとすると、英語圏の国への短期、長期留学といった選択肢が考えられる。ネイティブスピーカーの教員を採用することも珍しくない。しかし、朝鮮学校ではどちらも今のところは難し

い。本国で語学研修する、もしくは本国の朝鮮語教師を日本に招くという当たり前のプログラムを作れない。日朝関係が正常化されていないために自由に往來できないことが大きな壁になっている。

朝鮮学校では高級部3年の時、修学旅行で本国を訪問する。ただし、語学研修が目的ではなく、「祖国を知ること」に主眼がある。

悠花さんは「在日の朝鮮語は在日同胞が高い意識を持ち、守っていくべきもので、本国に全面的に頼るべきではない」という前提で、「朝鮮から講師を招くことができれば刺激になるし、できるのならやってみよう」と語る。美澄さんも同意見だ。

「そのような交流があれば、教員養成の機会にもなる。生徒たちにより良い教育環境を作るには、教員がより専門的に学ぶ必要があり、朝鮮に行つて学ぶことも大切です。現実にはできませんが」

全国の朝鮮学校の教員同士が集まる研修会はあるが、他言語では当たり前に行われていることが朝鮮語ではできない。そのような環境下で在日の人々は朝鮮学校を運営し、朝鮮語という民族の魂を守り抜いてきた。

その環境は年々厳しくなっている。朝鮮学校よりは日本の学校に子供を通わせて良い就職口を見つけたと考える在日同胞の親もいる。美澄さんは「昔は民族教育を受けたくても受けられない時代があった。それを思うと昔の方がもっと困難な時代だったのでは」と言いながらも、今日の厳しさも否定しない。

悠花さんも言う。「朝鮮学校を維持するのは大変な時代です。でも誰かが頑張らないと消えてしまう。日本の今の状況を考えると、実際に消えていっている。守らなければならぬと思う人たちが守っているんです」

高校無償化の対象から朝鮮学校を外すべきだと主張する声が日本にはある。道端から聞こえるのではなく、閣僚や一部メディアから聞こえることに日本人として怒りと恥ずかしさを感じる。

◇ ◇
今回は初級部の朝鮮語学習の様子を紹介します。

(注1) 北海道朝鮮初中高級学校
在日本朝鮮人総聯合会(朝鮮総連)のホームページによると、全国の朝鮮学校は幼稚園から大学、朝鮮大学、まで計69校ある。民族教育のための学校作りは全国的

は戦後すぐに始まったが、北海道朝鮮初中高級学校の創立は1961年。初中級学校としてスタートした。68年に学校法人「北海道朝鮮学園」として認可。82年に高級部を併設した。寄宿舎もあり、子供たちは道内各地から来ている。中級部、高級部のウエイトリフティング部は全国大会優勝の実績があり、サッカー部も道内の強豪。法律上は各種学校で、学校教育法第1条に定める「学校」ではない。このため、高級部を卒業しても大学入学資格検定試験(大検、現在は廃止)を通らないと、大学受験が認められない時代が長く続いた。現在は各大学が独自の判断で受験資格(高卒程度の学力の認定)を認めることができるようになった。

隔年で夏に催されるアンニョンフェスタ(今回は来年)は地域に開かれた民族色豊かなイベントとして人気があり、「オモニ会」手作りのキムチの販売には毎回長蛇の列ができる。

(注2) 特別永住資格 日本が植民地支配した朝鮮半島などの出身で、戦後も日本に在留した人とその子孫に認められた永住資格。日本の植民地支配によって朝鮮半島出身者は戦後まで日本国籍を有していた。1952年にサンフランシスコ講和条約が発効すると、日本在留の朝鮮半島出身者は日本国籍を失い、朝鮮籍となった。その後、大韓民国(韓国)の国籍を選んだ人は韓国籍となり、選ばなかった人は朝鮮籍のまま現在に至っている。従って朝鮮籍は国籍ではなく、朝鮮半島出身者(またはその子孫)を意味している。法務省の統計によると、日本全国の特別永住資格者は08年12月末現在で42万305人。ほとんどが在日韓国・朝鮮人。道内は3871人で、このうち韓国・朝鮮籍は3848人。

英語教育を考える——日本における課題と教師の役割

北海道工業大学准教授

坂部 俊行

■米国語学研修の現場から

今私は、ここアメリカの地でキーボードを叩いている。カリフォルニア州サンフランシスコのホテルの一室。海外語学研修の引率中である。私が英語を教えている北海道工業大学では毎年2月から3月にかけて、約4週間の海外研修を実施している。参加希望学生は1年間、「英語特別研究」という授業に事前参加して、日常英会話・アメリカ文化・プレゼンテーションスキルなどを学んだ後、この研修に臨む。

ポートランド州立大学(PSU)で実施される本研修は、外国人に対する英語教育に長年携わってきた経験豊かな教師陣によって行われる。内容は本学の希望や要望を考慮し、参加学生の能力に応じてテーラーメイドされている¹⁾写真1。

教室の外においても、ボランティア学生や国際交流担当の方々にいろいろと面倒をみて頂いている。本学

の学生のためだけに組まれたプログラムに沿って、コミュニケーション中心の語学から異文化交流や習慣の違いといった内容まで、できるだけ多くの事柄を短期間で体験・学習できるように配慮して頂いている²⁾写真2。

本研修の授業料は本学が全額負担するため、学生は航空券および宿泊費・課外活動費のみの負担で参加できる。しかし、誰でも何人でも参加できるわけではない。後期が始まってすぐに英語による面接試験などの選考プロセスを経て派遣学生を決定

する。本学の代表として、ポートランドの姉妹都市札幌の代表という心構えで参加してもらわなくてはならないので、事前指導に力が入るのも当然のことである。

サンフランシスコに2泊してからポートランドに移動する。研修最後にはシアトルも訪問する。アメリカを訪れると視線が変わるのだろうか。常日ごろ漠然と考えていることが次々と頭に湧いてくる。ここからはそれらの内容を書き出してみたい。ご意見を頂戴できれば幸いである。

■北海道工業大学の取り組み

本学では各教員が独自の手法を模索し、学生の学習に対するモチベーションの向上、興味の持続といった狙いで授業を組み立てている。英語教育は通常の授業に加え、非常勤講師を含む全英語教員が共通の Learning 教材を導入している。ストーリー性のある内容を利用し、リスニングスキルの向上と主要文法事項の見直しを行うと同時に、自学自習の習慣を身につけて貰うべく努力している。高等教育機関として、学生の英語能力向上のために十分な予算、時間、労力を投入している。

私は、本学の学生には英語に対する基本的なスタンスを変えてもらうことを第一目標としている。専門英語(ESP: English for Specific Purposes)とまでは言わないものの、工学系に関連付けて標準的な英語(EGP: English for General Purposes)の習得に焦点を当てている。



写真1: 英語オリエンテーション



写真2: ポートランド州立大学で

さて、本研修は89年2月に始まり、今回で第22回を迎えた。当初、ワシントン州シアトル周辺での4週間のホームステイという内容で始まったが、英語そのものの研修となると、ホストファミリーは英語教育の専門家ではない。94年からはオレゴン州立大学の英語教育センターの協力のもと、研修内容のさらなる充実が図られた。そして昨年度からはプログラムをリニューアルし、PSUを新たな研修場所とした。

肌で触れる異文化体験

研修プログラムは、午前中はイングリッシュ・コミュニケーションとアメリカ文化理解の2クラスがあり、午後には様々なアクティビティが用意されている。アクティビティでは美術館や博物館の訪問、ホームレスが集まる配給所でランチを共にするボランティア活動、PSUの日本語クラスにTA（指導助手）として参加「Japanese Immersion Program」（日本語を教えるのではなく日本語で教える）を導入しているリッチモンド小学校Ⅱ写真3Ⅱの見学などなど。学生たちは単なる座学だけでなく、書面や話の中だけの異文化理解でもない、実際に肌で触れ・感じ



写真3：リッチモンド小学校

・行動する異文化体験を実践する。今回のプログラムにも組み込まれているImmersion Programは日本でもいくつかの学校で導入され、その成果が注目されている。北海道では、中高一貫教育で07年に開校した登別明日中等教育学校（菅原行彦校長）が記憶に新しい。この試みは英語以外の一部の教科、例えば理数系の授業を英語で行うことにある。前述のリッチモンド小学校は札幌市中央区の宮の森小学校（飯沼晃校長）と去年正式に姉妹校提携をし、今後活発な交流が行われる予定である。この交流については今後機会があれば詳しく紹介したい。

本学の研修プログラムに戻ると、学生の宿泊はホームステイⅡ写真4。1家庭に1学生が原則で、各学生はアメリカの家庭で3週間以上過ごす。教室では他の研修生と日本語



写真4：初対面のホストファミリーと

で話す機会もあるが、1日のかなりの部分で英語のシャワーを浴び続ける状況におかれる。学生のやる気や度合いにもよるが、英会話能力はある程度の進歩をみせる。

■現代学生考

英語への憧れの欠如

ここで読者に喚起しておきたい問題がある。最近の学生に関して、全員ではないが、「やる気」につながる、英語に対する一種の憧れのようものが皆無であるかのように疑いたくなる。もつと言ってしまう、物事を知らなくても引け目や恥ずかしさへとつながる感情を持ち合わせていない若者が増えているのではないか。「道徳観の欠如」の一言では済ませない、さらに根深い何かを感じ恐怖すら覚えるのは私だけだろうか。この惨状に輪をかけるように、

学生を指導する立場にいる者が「学力が落ちているから」「やる気がないから」と学生を全否定してしまい、学生のための授業が実践されていないケースも最近では見受けられるようだ。

私の学生時代はどうだったのか。文法中心学習や訳読の徹底で英文読解力は高かったように思う。文法の習得は極めて重要である。かといって、座学によるインプットばかりの授業では学生のためにならない。インプットとアウトプットのバランス感覚があつて初めて質の高い授業と言えるのではないか。

アメリカの大学では、学生たちが予習・復習にある程度の時間を費やすのは当たり前。奨学金や自己資金で大学に進んでいる学生がほとんどなので、ドルをドブに捨てるようなことは決してしない。一方、日本ではほとんどの場合、授業料や生活費を親が負担している。これを悪いとは言わないまでも、授業に取り組む姿勢が自ずと違ってくるのではないか。真剣味を持ち合わせていない学生たちに対する教員の役割は時代とともに変わってきている。

ネイティブ教員の過信は禁物

英会話・コミュニケーション重視
ということ、今では100%に近い大学が(英語を母語とする)ネイティブの英語教員を雇用している。しかし、それでホッとしている学校はないだろうか。ネイティブの教員による授業は良い点ばかりではない。英語で授業を運営する場合、受ける側の学生にある程度の英語力が要求され、これが前提となつて成果が付いてくる。この条件を満たしていない場合、英語力は伸びるどころか停滞する場合もありうる。結果、極めて非効率になってしまうのである。

「アメリカに來れば」という幻想

昨年度も引率で来ていたときに思ったことである。私も留学経験があり、そのときもやはり同じような学生は多くいた。それは「アメリカに來れば」アメリカに住めば「英語力がつく」というイリュージョン(幻想)を持つ学生がいることだ。

ラスベガスでよく見られるプリンセス・テンコウやデイビッド・カッパフィールドの空中浮遊や胴体切断、はたまた瞬間移動などのように夢のあるものであればいいのだが。

個々人がしっかりと目標を持って將來を見据えていないと、あつという間にこの幻想に飲み込まれてしまう。英語習得に楽な道など存在しない。No pain, no gain. 基本的には自分でやるしかない。

私たちの他にも、短期でポートランド州立大学の一般的な留学プログラムに参加している日本人学生が結構いる。しかしその中には、せっかく「英語を学ぶ」「異文化に触れる」ためにそれなりの金額を支払ってアメリカにきているにもかかわらず、残念ながら日本とそれほど変わらぬような生活を送っている学生たちがいる。

時間を浪費する日本人留学生

日本人同士で固まるくらいであればしょうがないのかもしれないが、皆でニンテンドーDSやPSP(プレイステーション・ポータブル)をしているのだ。周りには現地のアメリカ人学生もいるが、なんとなくそばで話を聞いていると、日本語を学んでいる学生たちで、会話はほとんど日本語だ。

「アメリカに滞在して英語を身につけた人」が何もしなかったと思っ
ているのだろうか。実際には日本で

は経験の出来ないような地獄を味わったケースもあるだろう。特に海外で成功を収めた人は、必ずといっていいほど言語を含めた文化の壁を自力で乗り越えてきている。英語圏に行けば英語が出来るようになるという間違つた考えは捨てるべきだ。

今の国際化社会

すでに国際化という言葉は時代遅れとなった。物理的交通手段の発達はもちろんのこと、インターネットなどの情報メディアや通信技術の発達のはじめざましく、スイッチを入れれば目の前にある画面の中に、または握り締めた携帯端末の向こうに国際化という名の荒野が無限に広がっている。見た目の派手さに誤魔化されてはいるものの、そこには国際共通言語の英語が飛び交っている。

幸か不幸か、今の学生たちが卒業後に羽ばたいていく社会は、このような状況であるが故に英語教育がクローズアップされる。生き抜く、いや、生き残るもしくは生きながらえるためには共通語の習得が実社会で求められる。

確かに周りに目をやると、当然ではあるが、英語なんかできなくても生活していける。だが、人生は一度

である。たまに「私の前世は戦国時代の武将で……」などと言って二度人もいるようだが、それは例外として、やはり人生一度であれば、学生たちには可能性を広げ、世界に羽ばたいてもらいたいと教師の立場から思うのである。

英語はできて当たり前現実

彼らをそういう気持ちにさせる、そして彼らのモチベーションを上げる授業を創意工夫するのが私たち教師のミッションである。そして今の社会では「英語ができるから」という優位さは薄れ、英語はできて当たり前前の時代に突入している現実をどれほどの若者が自覚しているだろうか。これからは「英語で何ができるか」が重要になってくる。そのため
の準備機関としての役割が大学に求められている。

米国人が見た日本の英語教育

今回、本学海外研修で授業を受け持っているGEM先生Ⅱ写真5
Ⅱは東海大学や上智短期大学などで18年間日本の英語教育に携わり、07年に帰国した。OEM先生に日本の英語教育について伺った。以下に



写真5：Gail先生の活気ある授業

Our先生が話してくれた内容を一つ一つみて。

詰め込みすぎのクラス

「選択のクラスはそうでもないが、必修のクラスでは履修学生数は50〜60名。語学の授業でこのサイズはインポッシブル。講義スタイルの授業しかできない。グループ分けをして活動をやらせても学生全員に声をかけるのは難しい。英語の授業で効率よくある程度の成果を出すには20名以内のクラスが理想だ」

「ゆとり教育」が問題？

「日本で英語を教えていた最初のころ、学生の英語レベルはTOEICでスコア600くらいと結構高かった。しかし帰国前の5年間くらいは450前後と著しく下がっていた。今、『ゆとり教育』(の存在)を

知ったが、振り返ってみると「ゆとり教育」と何らかの関係があるかもしれない」

教員の英語力不足

「高校の英語教員の教育がもう一つの理由として考えられる。今では変わってきているかもしれないが、生徒の模範になるべき高校の英語教員が英語でコミュニケーションできないケースが少なくなかったような気がする。文法重視・訳読中心の傾向があり、特に年配の高校の英語教員は、新しいことを受け入れるというOpen mindをあまり持ち合わせていなかったように思う」

「時代に合った教員教育が必要である。中学は中学、高校は高校、大学は大学という考えではなく、これら3つの教育課程を連結させ、必要に応じてできる限り一連のカリキュラムを考える必要がある」

■終り

今の学生たちは、将来社会に出て自分が英語を使っている姿をイメージできない。まず自分自身の将来に対するビジョンを描かせ、将来してみたいことをイメージさせる。その

イメージのなかに英語を関連させることで英語の重要性・必要性を認識させ、学習意欲を増大させるべきである。ただ「英会話力が必要」「コミュニケーション能力が重要」と漠然と押し付けられても、学生たちは納得がいかないだらう。

冬に雪道でふらふらと自転車に乗っている年配者を見るといかなものかと思うが、自転車は一度乗れるようになれば一生乗れる。習得したのではなく体得したからである。

習得よりも体得

よく耳にする話で、日本人は中学校で3年間、高等学校で3年間、そして学部にもよるが大学で2年間くらいと、合計で8年以上も英語を学んでいるが、それにもかかわらず英語を話せるようにならない。これが来年度からは小学校5年生から英語学習が必修科目として導入される。前倒して3年生から英語学習の時間を設けている小学校も少なくない。

これにより今まで以上に「英語ができる」「英語が話せる」ようになれるだろうか。この質問に対してNOと答える人は圧倒的に多いだろう。それは単に教育の過程の中で習得させているのであって、決して体得させて

ていないからである。五感を刺激しながら学習すると体得できる可能性は高くなる。

今の時代、テクノロジーの進歩が、ビジネスの世界だけでなく教育の分野にもあらゆる可能性をもたらしている。英語を体得させるために、テクノロジーと上手に付き合っていくことも、今後の英語教育には必要不可欠である。

時代のニーズ、学生のニーズ、そして社会のニーズに合わせて、英語教員はますます優れたバランス感覚を要求されることになる。課題は山積みだが、学生のことを考えた解決策を見つけて一つ一つクリアしていくのが我々の責務である。

We must become the guide on the side, not the sage on the stage.

(私たち教師は知識を提供する物知りではなく、学生たちが目標を達成するための道しるべになるべきである)

さかべ・としゆき 1964年東京生まれ。90年エンジニアリングフジ入社。アメリカ支店ENG FUJI AMERICA INC配属。道都大学准教授・国際交流室次長などを経て08年4月より現職。大学英语教育学会、英米文化学会、日本大学英文学会所属。著書に「Sports Paradise-English through sports-」(南雲堂)。

私を励ましてくれる国です。



士や有力経済人が就任する。現在の在札幌フィンランド名誉領事は3代目の横山清・アークス社長（74）。就任して15年がたつ。

アークスは「ラルズ」の店名でおなじみの道内地場スーパーの最大手。札幌東急ストア（現東光ストア）を昨年完全子会社化し、グループ全体の年間売上高は3000億円を超えた。

縁遠かった国

横山さんに名誉領事就任の話を持ち込んできたのは、北海道大学の1年先輩に当たる井口光雄さん（現北海道フィンランド協会会長）だ。「フィンランド？どこにある国か」と思ったほど、横山さんには縁もゆかりもなかった。

北海道フィンランド協会会長を務めていた武井正直・北洋銀行頭取（当時）に相談すると、開口一番「いい国だぞ、引き受けなさいよ」。フィンランド旅行をした時に落とし

た財布が翌日ちゃんと届いた、中身は1円たりともなくなっていなかった、という思い出話を武井さんは披露し、「モラルの高い国で、日本の一番いいころの時代が保たれている」と絶賛した。

当時の横山さんにとってフィンランドは、知人はいない、行ったことはない、商売上の取引もない、のらない、尽くし。これではまずかろうと、就任直前の95年8月、一人で初めてフィンランドを旅行した。ラップランド州の知事に会ったり、白夜を初めて体験したり。以来、2、3年に一度は旅している。

知るほどに大好きに

気取らない、素朴な国民性。個々の人々の精神的、人間的な強さ……。旧ソ連の崩壊で経済が悪化していた時も、人々は質素に、しかし一生懸命暮らしていた。風景は森と湖ばかりで、ポプラやシラカバもあって北海道とどこか似ている。友人が

増え、知れば知るほど「いい国だなあ」と思うようになった。「あんたは半分フィンランド人だろう」とからかう関係の井口さんがこの国にほれ込む気持ちが理解できた。

スーパーの事業で、バルト海で養殖されたサケをフィンランドから輸入したことがある。取引相手として「誠実でおっとり、ががつしていない」という印象が残っている。新任の大使が就任挨拶に持参したお土産がフィンランドの民族楽器・カンテレのCDや本だったりする。人の心をつとつかむフィンランド流のコミュニケーションの仕方にも心地良さを感じる。

北海道との関係を今後どう展望するか。大学間の姉妹提携の動きもあり、留学生の行き来は増えている。道内からフィンランドへは芸術系、医学系の留学が多い。留学先の選択肢として「フィンランドは面白い」と今後の広がりを期待する。

貿易の拡大は輸送コストがかか

外国政府の任命により、日本人が就任する名誉領事。道内には現在20カ国の名誉領事館があり、北海道から各国に開かれた窓としての役割を果たしている。どんな人が名誉領事になっているの？ 名誉領事館って何をするといいの？ 素朴な疑問ではないだろうか。今号より道内の名誉領事館を一つずつ訪ね、名誉領事の横顔を紹介する。第1回目は在札幌フィンランド共和国名誉領事館。

【北方圏センター出版部長・山田寿彦】

一般的に名誉領事はその地方の名

り、簡単ではないが、「北海から砕氷船でオホーツク海に入ってくるような航路が開かれ、そこにフィンランドが入ってくると、いろんな可能性がもって生まれてくるのではないか」とも思う。

フィンランドに学ぶ

ビジネスの世界では経営者として本州の大手企業と競い、闘う日々だ。人口530万人のフィンランドがグローバル経済に堅実な地位を築いていることに励まされる。

「名誉領事を引き受けた時、私の会社の年間売り上げは今の3分の1だった。3000億円を超えるところにやつときたが、フィンランドには例えばソコスのような年商5000億円以上の流通企業が二つもある。北海道独立論があるように、フィンランドに学ぶ、地域の企業はもって頑張れる、と思いますね」

よこやま・きよし 1935年芦別市生まれ。北海道大学水産学部卒。61年、大丸スーパー入社。85年、同代表取締役社長。89年、合併によりラルズ代表取締役社長。2002年、企業統合によりアークス代表取締役社長に就任。北海道経済連合会副会長(98年)。社団法人日本セルフサパー協会会長(09年)。受賞(章) 歴に札幌市経済産業功労賞(05年)、藍綬褒章(07年)、フィンランド共和国獅子勳章(07年)など。著書に「好況は自分の手でつくる」(東洋経済新報社)。



横山名誉領事・思い出の一枚
ヘルシンキのスーパーマーケット「ソコス」の前で妻久子さん、長女貴久恵さんと
1996年7月22日撮影

在札幌フィンランド共和国名誉領事館 アラルト

所在地

T064-8610

札幌市中央区南13条西11丁目2の32

(株) アークス内

☎011-530-6012

歴代名誉領事

初代 松坂有佑氏(1973~79年)

2代目 中野正彦氏(79~95年)

3代目 横山 清氏(95年9月~)

【査証・在任許可証(ビザ)発行実績】

2003~08年は年間14~18件で推移。

09年は21件。渡航目的はオウル大

学、ヘルシンキ大学、タンペレ工業大

学、シベリウスアカデミーなどへの留

学、研究。ほかに商用など。

【他のフィンランド名誉領事館所在地】

大阪市(総領事館)、北九州市、名古屋

屋市、長野市

【誕生まで】

日本万国博覧会(大阪万博、

1970年3~9月)に北欧5カ国

(フィンランド、スウェーデン、ノルウ

エー、デンマーク、アイスランド)は

共同で「環境」をテーマにスカンジナ

ビア館を出展した。

万博終了後、同館を払い下げてもら

い、札幌に移設しようという運動が起

きた。払い下げのお願いに各国大使館

を回ったが当時、HBC映画社の映

像ディレクターだった現北海道フィン

ランド協会会長の井口光雄さん(75)

だった。その中で、フィンランド大使

から「札幌に名誉領事館を作りたい」

と人選の依頼があった。

スカンジナビア館の払い下げ交渉は

成立し、石狩町(現石狩市)花畔^{はなべ}に移

設された。この時、2億円の資金を提

供したのが不動産会社を経営していた

松坂有佑氏。松坂氏は初代名誉領事に

就任した。

フィンランド名誉領事館は札幌が大

阪に次いで国内2番目の開設だった。

井口さんは振り返る。「堂垣内知事が推

進した北方圏構想と冬季五輪の誘致成

功で札幌は脚光を浴びていた。フィン

ランド人に聞けば東京の次に有名な都

市が札幌でした」

2代目名誉領事の中野正彦氏は北海道林務部長を務めた道庁OB。

【インフォメーションセンター】

名誉領事館の付属施設として96年、

札幌・狸小路2丁目のラルズプラザ8

階に開設された。フィンランドの歴史

や文化、魅力を楽しみながら早分かり

するのうってつけのスポットだ(左

写真)。

政府観光局などが作製したフィンラ

ンドの紹介ビデオが8本。「水と光と緑

―森と湖の路」ディスプレイ・ヘルシ

ンキ」冬のフィンランド・パラダイ

ス」氷の上のアドベンチャー」などを

自由に観賞できる。名誉領事館と直結

のホットラインもある。



聴覚障害児教育の体制作りをフィリピンで支援

その成果と課題

フィリピン耳の里親会理事長（北海道旭川聾学校教諭）

中泉 貢一

フィリピン耳の里親会（注）は、聴覚を活用した就学前教育の普及に焦点を当てた活動をフィリピンで展開してきました。幼稚部を備える聾学校はフィリピンにもありますが、乳幼児を受け入れられる学校は数校しかないのが現状です。早期発見に続く早期教育（療育）の普及を目的にJICA（国際協力機構）札幌と共同で進めている「聴覚障害教育における聴覚を活用した教育実施体制支援プロジェクト」の一環として今年1月、フィリピン・セブ市で開いたセミナーの意義とこれまでの取り組み、今後の課題を報告します。

3年計画でスタート

プロジェクトは07年12月、3年計画で始まりました。08年1月にはフィリピン中部のイロイロ市で教育セミナーを開催。09年4月には早期教育の担当教員3名をマニラ市、イロ



マルチネス耳鼻科医師(左)と中泉理事長(右)

イロイロ市、セブ市から北海道に招き、専門研修を2カ月間行いました。今年1月、セブ市で教育セミナーを開催しました。この間にプロジェクトマネージャーの中泉が現地を3回訪問し、耳鼻科医師との連携促進や、事業進捗のための活動をしてきました。今回のセブ市でのセミナーは、当会が支援する私立サン・マルチン・デ・ポレス聾学校で早期教育が実施できるように、セブ市教育委

員会や市内の耳鼻科医師、学校教職員、保護者、学校関係者を対象に次の目的で行いました。

セミナーの4つの目的

- ①早期教育の効果や必要性の啓発
- ②早期教育担当者（教員）の専門性を高める
- ③聴力検査室と検査機器の設置
- ④耳鼻科医師と学校の連携強化

セミナー初日は、幼稚部を担当し昨年の道内研修にも参加したタラタヨ先生の授業研究のほか、新設された聴力検査室や検査機器を参加者に公開しました。ほかに3名の耳鼻科医師がフィリピン全域とセブ市内における聴覚障害発見に関する最新情報を報告しました。

2日目は、セブ市教育委員会特殊教育課主事が早期教育をテーマに講演。現地オーディオロジストによる補聴器などの聴覚活用に関する最新情

報の講演会も開きました。聾学校教員でもある中泉が「早期教育の効果」、里親会の沖野副会長が「家庭教育の重要性」についてそれぞれ講演。3日目は初日の授業研究の反省会と、各支援聾学校の早期教育と耳鼻科医師との連携についての活動報告を行いました。

進む耳鼻科医師との連携

現在、当会は5校の聾学校を支援しています。早期教育ではマニラ市



タラタヨ先生の幼稚部での授業



セミナー参加者

とダバオ市の聾学校が耳鼻科医などとの連携を進めており、同時に年齢の低い乳幼児の受け入れも始まっています。

プロジェクトで焦点を当てたイロイロ市の場合、セミナーに参加した教育長が早期教育の効果を理解し、専用の教室（部屋）の建築に着手しており、新学期までに完成の予定です。同時に専任者の1名配置も決まっております。現実的な成果を挙げられました。イロイロ市では耳鼻科医との連携も進みつつありますが、新生児聴覚スクリーニングの検査機器が病院に設置されていない医療サイドの問題が残されています。

必要な貧困層への支援

セブ市には早期教育を手がける教育機関が1校あり、障害が早期発見

された子どもはその学校を紹介されてきました。ただし、授業料が高いことから通い続けられない乳幼児もおり、貧困層の子どもの受け皿として、当会が支援するサン・マルチン・デ・ポレス聾学校で早期教育が開始されることは市民にとっても福音になることが期待されます。

今回のセミナーを通し、市内の耳鼻科医師に当会の存在と早期教育が可能な体制が整ったことを認識してもらうことができ、授業料に困る貧困家庭の場合、当会の里親制度を併用しながら教育を受けられる可能性があることを周知できました。

早期教育、特に乳幼児の教育（療育）に関しては、母親などの養育者の参加が不可欠です。しかし、フィリピンの場合、貧困から母親も働かなければならない家庭が多く、母親が教育に専念できる環境を整えるために里親制度による奨学金の活用が不可欠です。さらに、補聴器の寄贈や教育費を創出するための支援も必要と考えています。

望まれる支援の継続

早期教育の普及には、なんといつでも専任の担当者のカウンセリングの力と乳幼児を扱える幅広い指導力

が要求されます。この点については継続的指導が必要であり、医療機関との連携について日本の先行経験を情報提供していくことも重要な役割と感じています。

教育は短期間に成果が現れにくく、支援は長期に継続することが肝要と考えます。現在までの活動の成果と残されている課題を受け、今後具体的に効果的な支援について、現地の情勢を的確に分析しながら計画し実施することが必要ではな

いかと考えています。

(注) フィリピン耳の里親会

フィリピンの聾教育向上に協力援助することを目的に旭川市と札幌市のカトリック教会関係者、聾学校関係者、聾児を持つ親、耳鼻科専門医らを世話人として92年6月に設立されたNGO（非政府組織）。ホームページは

<http://homepage2.nifty.com/jefp/index.html>

●フィリピンの聴覚障害児対策

新生児の耳に障害があり、聞こえが悪いと言葉を覚えられないため、コミュニケーションや情報の獲得、就学後の学習に深刻な影響を及ぼす。フィピンでは貧困が原因で胎生風疹の予防接種が普及しておらず、中耳炎なども治療されないため、聴覚障害の出現率が日本の5倍近くあるにもかかわらず、早期発見とそれに続く早期教育は遅れていた。

しかし、新生児の聴力検査機器を備える病院がこの数年増え、出産の際に産科の医師などが聴力検査の存在や有効性の説明義務を負う法案が昨年成立。聴覚障害児の早期発見が急速に進むことが期待されている。その一方

で、発見後の受け皿となる教育（療育）の対応が整っていないことが大きな課題になっている。

聾学校では児童・生徒用の教室だけではなく、保護者が乳幼児と遊びながら相談や支援を受けられる部屋やスペースが必要だ。乳幼児の聴力検査ができる施設や設備の整備、早期教育を担当する専任者の養成と実施プログラムの策定も急がれる。

日本では10年ほど前から新生児聴覚スクリーニング検査という障害の発見を目的にした聴力検査が行われるようになった。生後6カ月で聴覚障害の診断が可能になり、早期発見に続く早期教育が浸透している。

フィリピン見聞記—「フィリピン耳の里親会」の

活動の現場から

北方圏センター国際協力部

松居 慶子

フィリピン・イロイロ市で08年に行われた「フィリピン耳の里親会」の現地セミナーから通訳として携りました。聴覚障害児教育の現場もフィリピンも里親会の方との対面も初めて尽くし。緊張していたことを記憶しています。私にとっての大きな収穫は、里親会の地に足を着けた活動を知り、熱意や真心に心を揺り動かされたことです。

2010年がスタートして間もない1月4日に日本を出発し、セブ市で行われた現地セミナーに再び参加しました。会の方ともかなり打ち解けていたこともあり、前回より気持ちに余裕を持って参加できたと思います。その中で経験、発見したことをレポートします。

○食事について

【基本編】

フィリピン料理は日本人の口に比

較的合うものが多く、ご飯に好きなおかずをよそって自分好みのワンプレートを作れます。味付けは、ほとんど辛味はなく、少し甘めが基本(写真1)。おかずは肉が少し多い気がしますが、野菜や魚もあるので、日本と正反対ではありません。

【驚き①】

フィリピンには午前10時と午後3時に「メリエンダ」というおやつ(写真1)の時間があります。「ただのおやつ」と

思っただけではありません。フィリピンのメリエンダはほとんど主食に近い内容なのです(写真2)。

今回のセミナーで講演者が熱弁をふるっている最中でも、メリエンダの時間になるとウエーターが参加者の前にサンドイッチやら焼きそばが載ったお皿をどんどん置いていきます。ホテルでの朝食から数時間しかたっていない日本人参加者はほとんど手をつけません。

【驚き②】

しかし、フィリピン人参加者はスピーカーの話を真剣に聞いた顔をしながらメリエンダへ手を伸ばし、すべて平らげました。その2時間後のランチもしっかり取るのです。中泉理事長によると、メリエンダの内容を貧弱にすると、セミナーの評価を大きく左右するとか。

今回初めて口にしたものに「レチヨン」があります。子豚の丸焼きのことで、フィリピンでは結婚式や祝い事に必ず出てくる料理です(写真3)。子豚の姿に衝撃を受けましたが、「特別な時の「ごちそう」と聞いたからには試さないわけにはいきません。パリパリに焼かれた皮と、詰め物がされた肉を皿に盛ってもらいました。実際に食べてみると、肉はやはり(?!?)新鮮なものでとてもジューシー。皮も香ばしく美味でした。



写真1：お米と好みのおかずをお皿にのせて



写真2：サンドイッチに焼きそば。これでもおやつ!?



写真3：子豚の丸焼き。哀れな子豚の姿が

○フィリピン人は踊りが好き？

フィリピンの方は踊りが好きです。あらゆる機会に伝統的な踊りからラテンの踊りまで多種多様な踊りを見る機会がありました(写真4)。

今回最も驚いたのは、セミナーの短い休憩時間に「アイスブレーキング」の名のもと、参加者全員が踊ることでした。耳鼻科医や役所関係の方がお堅いプレゼンをしていたのに、休憩時間になると、運営担当の聾学校の教師が会場前方に登場。ビートが効いた音楽が流れ、全員で踊ります。周りを見渡すと、セミナーに参加している教師はもちろん、校長などの役職者、聾の子じもや、その両親もニコニコしながら踊るのです。私も楽しく踊りました(写真5)。

これが当たり前ではなく、セブの学校の先生たちのアイデアで行われたのですが、突然の踊りを受け入れるフィリピン人の器を感じました。



写真4：セブ島の有名なお祭り「シヌログ」の踊りを披露する子どもたち

○ボホール島観光

観光の日が1日あり、セブ市から高速船で1時間半ほど移動してピサヤ諸島の中央に位置するボホール島に行きました。円錐形の小丘群が広がる「チョコレートヒル」、世界最小のメガネ猿「ターシャ」の生息地で知られます。

チョコレートヒルは、高さ30〜50mの円錐形の丘が10000個以上も並ぶ、見るも不思議な景勝地です(写真6)。名前の由来は、乾季に丘を覆う草が緑からチョコレートブラウンに変色することにあるそうです。階段をしばらく上ると、チョコレートヒルをぐるりと見渡せる展望台に着きます。高原なので南国とは思えない爽やかな空気に触れられます。フィリピンの暑さに疲れた時に



写真5：セミナーの休憩中に踊る聾学校の教員たち

癒しを感じられる観光地かもしれません。

ボホール島でもう一つ有名な「ターシャ」(写真7)。手乗り猿と言われ、体重100gで本当にかわいのですが、乱獲され、保護が必要



写真6：円錐形の丘が無数に広がるチョコレートヒル



写真7：握りこぶし大の世界最小の猿「ターシャ」

になっていくと思います。一見の価値はありますが、観光資源としてはもう少しあり方を考える必要があるかと思えます。島には美しいビーチもあり、見どころ満載です。

○最後に

今回、心の底で感動を覚えたのは里親と里子の交流でした。里親会は1人の子どもに年間3万6000円の奨学金を送り、就学を援助しています。そこには想像を超えた家族のような繋がりがありました。

里子を親身になって心配する里親の姿と、里親の愛情に涙する子どもをの姿を目の当たりにし、涙を禁じ得ませんでした。私は里親ではありませんが、このように心と心が繋がる交流や支援を側面からでも応援したいと思いました。

一人でも多くのフィリピンの子どもたちが会の方の真心を感じながら聴覚障害を乗り越え、幸せをつかむ姿を楽しみにし、これからも活動に関わっていききたいと思います。

「韓国併合」100年目にあたって

NPO法人さっぽろ自由学校“遊” 共同代表

林 炳澤

今年は「韓国併合」、つまり日本が朝鮮を植民地支配（1910年8月29日～1945年8月15日）した時から100年目にあたる。けれども日本社会の意識は残念ながら極めて低い。近年、歴史学の世界では欧米の研究に刺激されて「植民地」が一つのテーマとして取り上げられていて、そこから「脱植民地化」という用語が生まれている。いかにも翻訳用語然としているが、わかりやすく言い換えれば「帝国主義と植民地支配の清算」ということだ。

朝鮮（韓国も含め）関係では、例えば「軍隊慰安婦」問題の解決などが挙げられるが、この「脱植民地化」という課題は、実は日本の政治・社会自体にとって重要な意味があり、それにもかかわらず、そうした問題意識に乏しいのである。それは「戦後民主主義」の内実の問題であった。

戦後の民主主義国家・日本の出発には“日本帝国（天皇制軍国主義）の解体とアジア侵略の清算”という命題があったはずである。しかし天皇制は象徴天皇制として温存され、戦前勢力は除去しきれなかった。また日本民衆は「帝国意識」（植民地統治を支持し正当化する意識）を解体できず、当然、日本社会はアジア侵略への総括ができなかったのである。そして米国の反共世界戦略の下、米・日為政者の思惑により、一応の軍国主義の解体に止まり、アテガイブチの民主主義制度が導入された。

ここで非常に重要なことは戦前の総括から戦後日本の新しい社会の創出にあたって、日本民衆がその主人公として十分に機能しえな

かったのではないか、という問題である。その結果、日本の「戦後民主主義」は、民主主義制度は著しく変革されたものの、その根本である「主権者意識の弱さ」という課題を抱えることになった、そしてそれが今日まで日本の政治、社会に大きな影響を与えている、というのが私の考えである。

こうした戦前政治の改革の不十分性やアジアへの戦後処理の未清算は、個別的にはすでに指摘され批判されているところであるが、トータルの関連性から認識することはまだ十分とはいえず、そうした問題を包括するキーワードが「脱植民地化」といえる。私なりに言えば、日本の「脱植民地化」とは“アジア民衆の共生と重なり合う民主主義の構築”ではないかと思っているが…

「韓国併合」100年目にあたって、昨年から日本各地の市民運動では、小規模ながら様々な取り組みが行われている。今年一年、どのように問題意識は広がるであろうか？



【編集部から】日本の国際化にとって「多文化共生」は大事な柱です。足元の国際化をおろそかにしないために、林炳澤さんに「在日」の視座から見つめた日本を今号より論評していただきます。

イム・ピョンテク 1946年、在日韓国人二世として札幌に生まれる。70年代から民族運動—韓国民民主化、在日同胞の権益擁護—を始め、指紋押捺廃止運動など、日本の友人たちとも様々な平和、人権運動に取り組む。現在、「日本の戦後責任を清算するため行動する北海道の会」共同代表。

福祉大国スウェーデンを支える鍵とは？

講師 エレーナ・ディング・シユークルンドさん



的に向かつて福祉、雇用、教育などの施策があり、「効率的な官僚機構」が国民の信頼を得て行政運営に当たっている。政府が国民に信頼されず、「社会から落ちこぼれるのは自己責任」という風潮の強い日本との大きな違いがここにあると言える。

【講演要旨】

スウェーデンモデルとは社会主義と資本主義の特長を併せ持つ社会民主主義だ。資産の分配によって社会的貧困と排除をなくす制度であり、旧ソ連型社会主義とは全く違う。このような体制に重要な役割を果たしたのは社民党と労働組合だった。

社民党は1889年に結成された。当時は貧しく長時間労働が当たり前。人々は連帯の重要性に気づき、69の政治団体と労組が社民党結成の基盤になった。労働組合は労使間で対話を大事にして問題解決を導いた。こうした労使関係が福祉や産業の発展、労働環境の向上に役立った。1891年に国民健康保険の枠組みができ、1901年に労災保険制度が始動。1913年に年

金制度、翌年には失業保険の最初のしくみが生まれた。

「国民の家」という思想

1932年の選挙で政権を獲得した社民党を率いていたペール・アルビン・ハンソンは「国民の家」という思想を打ち出す。「国に住む者はみんな社会の一員」という考え方で、これ以降、社民党は例外的な時期はあるものの、ほぼ政権を担い続けた。06年の選挙で敗北したが、勝利した中道右派の主張は「社民党の政策を根本的な形で実行する」というものだった。今秋に大きな選挙があり、社民党の復活が焦点だ。

1850年代は米国にたくさん移民が渡った。ところが、2つの大戦で多くの難民が押し寄せた。第二次大戦後は労働力不足に陥り、イタリヤ、ギリシア、トルコなどから多くの移民を招き入れた。73年の石油ショックを境に移民は歓迎されなくなつたが、94年に旧ユーゴスラビアから10万人以上の亡命者を受け入れた。この人たちの経済的自立が課題になつている。

高い雇用率と所得分配制度

スウェーデンの福祉は効率的な官僚機構が支えている。子供は社会的な存在とみなされ、高齢者にも社会は責任を負う。福祉を経済的に支える前提条件は高い雇用率と所得分配制度にある。伝統的に貧富の格差が小さく、コンセンサスを大事にする文化を持ち、戦争で中立の立場を守つたことが国益を守つた。学生はローンを受けられ、非行少年の更生や障害者への援助も整っている。

社会に必要な一体感

資本主義社会は経済に左右され、人にとって大事なことが置き去りにされがちだ。理想的な社会とは社会に一体感があり、力のある人は力のない人のことを考える。人を排除せず、包み込んで皆が参加できるようにすることが大事だ。排除された人間は自殺か犯罪に向かう。そうさせない方向に社会が向かうかどうかは私たち次第。スウェーデンと北海道は協力して学び合っていきたい。私たちすべてがそのような目標を達成したいと考えているはずだから。

北海道スウェーデン協会と共催（協賛・財団法人スウェーデン交流センター）。シユークルンドさんはストックホルム大学、東北大学の研究員で専門は移民政策など幅広い。「排除しない」という国民合意
スウェーデンはなぜ福祉大国になり得たのか。通訳者を介しての1時間40分という短い講演の中で、シユークルンドさんはスウェーデン社会の深層にある思想に触れた。それは「社会から人間を排除しない」という国民的コンセンサスにある。その目

インドネシア・生物多様性保全事業に携わって

前環境省国立公園課長 元ボゴール駐在JICA専門家

鍛治 哲郎

針を立案し、研究活動をモニタリング・評価する幅広い役割を持っている。特に国内外に知られているのは、その数200万点、古いものは200年以上前のものといわれる膨大な標本類であり、アジアでは最大、世界でも屈指の施設である。

「人類の財産」活用を促進

プロジェクトは①人類の財産であるRCBの標本を保管するだけでなく国内外の研究者が利用できる環境を整える②新しい建物や施設をフル活用する③RCBの研究や生物多様性についてインドネシア国民に周知する――の三つの目的を掲げた。

インドネシアで2007年9月から2年間、私はJICA（国際協力機構）専門家として日本の国際協力事業「生物学研究所の標本管理体制及び生物多様性保全（注1）のための研究機能向上プロジェクト」に携わった。インドネシア科学院（LIPPI）生物学研究所（RCB）と協力して取り組んだプロジェクトが挙げた成果を報告したい。

RCBは動物、植物、微生物の3部門からなり、生物学の基礎研究を担うとともに、国の生物学研究の方



ボゴール植物園は現在、87haの広大な敷地に世界各地から集めた熱帯植物があり、ボゴール市民の憩いの場や観光施設にもなっている。第二次世界大戦中、東大植物園長を務めた中井猛之進博士が園長の時代があった。ジャワ島を当時占領していた日本軍が植物園の樹木を徴発しようとした際、中井園長が軍の要請を拒否して伐採をやめさせた逸話がある。

ボゴール植物園の巨木群は見る者を圧倒する。十分な年月を経て成木となった広葉樹の樹形は、インドネシアと日本、そして樹種の違いがあ

っても同じような姿になるものだと思った。広い芝生に大きな木々があるボゴール植物園は、北大植物園に共通する心地よさがある。

RCBは長らくこのボゴール植物園に隣接していたが、近年は建物の老朽化などにより標本の傷みが目立ち、手狭でもあったため、インドネシア政府は、日本の無償資金協力により、ボゴールから20kmほどジャカルタ寄りのチビノンに移転した（98年に動物棟、07年に植物・微生物棟が移転）。新研究所は空調完備の標本庫や最新の研究施設が導入されて世界でも一級の施設となった。

目的達成に向けて

プロジェクトでは、日本からの長期専門家3人とRCB側の所長ほか5人の研究者からなるチームが目的達成に必要な仕組み（標本管理や建物・施設の利用・維持管理についてのガイドラインやルールなど）を策定。民間を含む研究機関や関係省庁

RCBの歴史は1817年、当時の宗主国オランダが、ジャカルタから60kmほど内陸にあるボゴールに設立した植物園（注2）に始まり、その後、植物園に併設された植物標本庫（Herbarium Bogoriense）と動物博物館（Museum Zoologicum Bo-soriensis）の流れをくむ。



ボゴール植物園



新しくなった生物学研究所植物標本庫

を対象にセミナーなどを開催した。

一般市民、特に地元の中高生を対象にオープンハウスを開催。生物多様性に関するポスターや冊子などを発行し、RCBの研究活動や生物多様性についての理解を深めてもらった。データベースの構築や新たに導入した研究施設の使用および標本の保管については、日本からの短期専門家(計11名)が技術協力したほか、RCBスタッフを日本の大学・研究機関へ研修に派遣した。

プロジェクトに先立つ05年には3回にわたり日本の専門家が短期間派遣され、標本の整理・張り替えと梱包・移送の協力がなされた。

標本DB、世界からアクセス可能に

その結果、標本データベースについては、標本写真や地図情報付きの

新しいフォーマットによるオンライン検索システムが開発・整備され、世界各地からインターネットによるアクセスが可能となった。膨大な標本すべての入力には相当の時間を要し、プロジェクト終了後もRCBスタッフが入力作業を続けている。標本の保管については、新しい建物と施設にあわせて従来のガイドラインを修正した。

過去の援助に助けられて

RCBには研究や調査目的で日常的に日本の研究者が訪れている。その他、日本からは大学生や環境NGO、まれに小学生や中高年も研修旅行などで訪れる。日本からの訪問者に対してはRCB側と協力して館内の案内やプロジェクトの説明に当たった。プロジェクト期間中、ユドヨノ大統領が開所式に出席。副大統領と関係閣僚も視察に訪れた。日本からは若林環境大臣と秋篠宮ご夫妻が、公務でインドネシアを訪問した機会にRCBを視察された。

RCBには日本で学位をとった研究者が多く、日常会話は日本語が通じるが、仕事の話になると、日本語の達人でも英語を使う。ODA(政府開発援助)や留学生の受け入れで

インドネシアに多大な協力と交流の実績がある日本が、文化や教育の土台をなす言語において存在感が薄いのは割が合わない思いがした。語学力不足の私が何とか任務を果たせたのは、聡明で日本に親しみを持つ人が多いRCBが協力相手であったからであり、過去における日本の援助の積み重ねにより、助けられたと思っている。

大らかな国民性

2年間、ジャカルタのアパートから40^分離れたRCBに車で通った。赤道直下のジャカルタは年間を通じて気温は25〜33度くらいで、日本の夏よりはすこしややすい。夜は冷房なしで寝られるから、寝苦しい夜を「熱帯夜」というのは当たらない。アパートの近くに国立競技場があり、休日の朝は散歩に行った。体を動かしている人が大勢いる。着衣はばらばら。太極拳や体操、エアロビックスダンスをやっている人もいる。とにかく楽しんで、心の健康にはよさそうである。

インドネシアは国民の75%がイスラム教徒で、世界最大のイスラム教徒を有する。RCBでも仕事よりお祈りの時間が優先された。しかし、

他の宗教への配慮もなされ、キリスト教、仏教、ヒンズー教の記念日が公平に国民の祝日になっている。私の在任中にイスラム過激派によるテロがあったが、概してインドネシアのイスラム教徒は異教徒に寛容で戒律も緩やかである。インドネシア人の大らかさを見ると、世界平和も夢ではないような気がしてくる。

(注1) インドネシアの生物多様性

インドネシアは東西に長く連なる島々からなり、世界第3位の熱帯林保有国。国土はサンゴの海から、氷河をいたたく標高5000^m以上の高山に及ぶ。生物種が隔離されて進化した島々からなることや、動物地理学上は東洋区とオーストラリア区にまたがるため生物多様性に富み、世界の陸地の1・3%の国土に世界の20%に相当する種の野生生物が生息するといわれ、固有種の割合が高い。しかし、人口増加や経済発展、森林の伐採や火災のため、世界に誇る生物多様性は急速に減少している。

(注2) オランダ領時代の名称は

「ボイテンブルグ(無愛)植物園」。やや高地にあり、風土病が少ないことが理由だったらしい。

かじ・てつろう 富山県黒部市出身、60歳。自然公園財団上高地支部所長。北海道大学農学部卒。環境省で北海道、中部、九州地区の自然環境事務所長、国立公園課長などを歴任し昨年退職。北大在学中はワンダーフォーゲル部で活動。好物は山、旅、北海道、美しいものすべて。夢はF・L・ライトの作品を巡る旅。

ルーツで語る 北海道の人物

第60回



岸本 良信

(苗字研究者)

きしもと・よしのぶ 1964年生まれ。苗字研究者の故丹羽基二博士(米オリエンタル大名誉教授)から系譜学を学ぶ。著書に「道産子のルーツ事典」(中西出版)。

中島みゆきと帯広市の中島公園

札幌市民に親しまれている中島公園は有名だが、帯広市の中島公園をご存じの方は少ない。帯広神社の向かい側にある三角形の小さな公園である。そこには静岡県の伊豆から明治十四(一八八二)年に渡道し、帯広開拓の父と呼ばれた依田勉三の銅像が立っている。

昭和十二(一九三七)年に公園の敷地を買い取り、依田の銅像を立て、市に寄附した人物こそ、帯広商工会の副会頭を務めていた実業家・中島武市である。その名にちなんで「中島公園」と名付けられた。

武市は明治三十(一八九七)年に現在の岐阜県本巢市で生まれた。父は大垣藩主戸田氏に仕える武士だったというが、幼いとき死別し、母の再婚先である中島家の養子となった。中島家は商家だったため武市も岐阜商業学校を卒業後、大阪で呉服屋の丁稚となり、次いで名古屋の株屋で働き、二十一歳のとき大志を懐いて単身、北海道へ渡った。

旭川で書店勤務の後、資金を貯めて帯広へ移り、念願の店を持つ。大正九(一九二〇)

年に開業した古着店「中島商店」である。店名を「みつわ屋」と改めて結婚し、長男の真一郎が生まれた。真一郎は産婦人科医となり札幌に勤務する。昭和二十七(一九五二)年に生まれた長女が北海道を代表するシンガーソングライターの中島みゆきである。みゆきは父の転勤に伴って小学校から高校までを祖父武市が住む帯広市で過ごした。

話を武市に戻そう。武市は帯広市の商工会副会頭から十勝商工会連合会頭になり、昭和十七(一九四二)年に帯広市議会議員に初当選。戦後は帯広市長選挙に立候補したが落選し、再び市会議員となり昭和三十八(一九六三)年から議長を務めた。偉人の銅像を立てるのが道楽だったという。昭和五十三(一九七八)年に死去。自身の銅像も帯広市の東本願寺帯広別院と故郷の本巢市に建てられた。武市の親戚には財界の大物がいる。郷純造である。郷純造は文政八(一八二五)年に岐阜県で生まれた。郷家は平安時代に多くの学者を輩出した大江氏の子孫といわれ、世間が

江家と呼ぶことから郷という苗字を使い始めたという。純造の姉が武市の母親で、郷純造と中島武市は叔父と甥の関係にある。

郷純造は十九歳で江戸に出て武家奉公をし、経済的才能を認められて明治元(一八六八)年には新政府の会計局組頭となり、主税局長や大蔵次官をへて男爵を授けられた。

その子、誠之助も財界で大いに活躍した。誠之助は明治十六(一八八三)年に東京帝国大学へ入学後、ドイツのハイデルベルグ大学へ留学。西洋の哲学や経済学を七年間学び、帰国して役人となったが、すぐに実業界へ身を投じた。日本運輸の社長となった後、東京株式取引所の理事長に就任。厚い人望と抜群の経営手腕を買われ、日本郵船と東洋汽船、帝国製麻と日本製麻の合併、十五銀行や川崎造船所の会社整理、陸上運送業の統合、鉄鋼業の国策化などを手掛け、日本を代表する財界のリーダーとなる。晩年は貴族院議員になり、昭和十七(一九四二)年に亡くなった。郷誠之助と中島武市はイトコ同士である。



〈第1回〉 チップ (Tipping)

【質問】お正月休みにアメリカへ行ってきましたが、チップには迷いました。チップを渡す場合、ルールのようなものがあるのですか？(会社員 20代)

【ターノフ先生からの返事】私も日本で暮らして長いのでチップの出し方について忘れていた部分もあります。チップは北米や欧州では生活の一部なのですが、レストランでウェイターに幾らチップを渡したらよいか悩みます。伝票どおりの額だけ払えばよい日本の方法に慣れてしまった私には実にやっかいなことです。

日本にはその煩雑さがなくて楽ですが、かわりにチップよりも高い額が代金に含まれているのではないですか？例えば、宅配ピザです。それもラージサイズとなるとアメリカの値段の3倍はします。ピザの配達人にはチップはいりません。アメリカでは渡さなければなりません、チップ分を足してもアメリカの宅配ピザは日本より安いのです。

欧米のレストランのウェイターたちの給料は安いので、チップは彼らの収入に欠かせないのです。昨年、合衆国国税庁に申告されただけでアメリカ人はチップに140億ドルを使ったそうですが、もっと多いと思いますよ。

それでもテイクアウトのコーヒーショップなど、カウンターにチップ入れの缶が置いてあるだけの所もあってアメリカでもチップの習慣はすたれつつあるようです。

どんな人がチップを出すか、という調査によれば神経質な人と外向的な人がチップをはずむらしいです。アメリカ人はまさに

この両方で、結果、一番たくさんチップを払っています。つまり、支配的な人は外向的なので、その人にしっかりサービスすれば間違いなく大枚のチップが入るでしょう。神経質な人というのは、チップを渡す人ともらう人の立場の違いを悪いと思うのか、チップをたくさん渡します。チップの原点はここにあるというんですね。この習慣は飲酒に由来し、自分だけが飲んで妬みを買いたくないお客の気持ちから始まったらしい。つまりウェイターにおごる、ということですよ。

チップ (TIP) というのは TO INSURE PROMPTNESS (速くサービスしてもらうために) の頭文字ではないかと思うのですが、議論のあるところでしょう。この困った習慣が、太平洋を越えて日本に入ってくることを願います。と同時に宅配ピザの値段がもう少し安くなればいいなとも思っています。

アメリカに行く人は、レストランのウェイターには15-20ドル、タクシーには10-15ドル、そして荷物を運ぶポーターには荷物1個について1ドルか2ドルを基準にされたら良いと思いますよ。

本名 ハワード・N・ターノフ
北海道医療大学教授(英語、国際比較文化論)。1952年、米国ニューヨーク市生まれ。ニューヨーク州立バッファロー大学大学院修了。著書に英語版「札幌ガイドブック」など。

これまでの「Mr. ターノフのちょっと…」を模様替えて、日米の習慣や考え方のちょっとした違いについて答えていただく相談コーナーとして再スタートします。「？」と感じていることをお寄せ下さい。ターノフ先生にお聞きして掲載します。

質問は、E-mail address : pbl@nrc.or.jp またはファクス011-221-7845まで【出版部宛】

スペインで教えられた ホスピタリティー

奥貫 一之 (70歳)

札幌市、社会福祉法人役員

私の住む清田区には札幌国際大学があり、社会人教養楽部が創設から3年目を迎えようとしている。何よりも魅力的なのは、多くの講座を社会人が大学生と机を並べて勉強できることだ。「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を云う」とサムエル・ウルマンは云っている。道内の大学ではどこもやっていない試みを見事に成功させ、地域住民との結びつきもより強固になった。

ここに参加している私が一番印象に残っている授業は、ポーランドを故国に持つE先生の「芸術の歴史」だった。中世建築史がロマネスクからバロックに移ってゆく中で、世界遺産にも登録されている建造物が多く存在するのが北スペイン「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」と説明された。

先生も訪問したことがなく、何人かの社会人受講生に「どなたが行かれた方は？」と問いかけられた。前年に一人旅をしていた私はすかさず手を挙げた。「パソコンを使って映像も交えて学生に語ってもらえませんか」と頼まれ、翌週の授業で聖地巡礼の旅を発表した。

投稿規定

600～700字。郵便、ファクス(011・211・7845)、メール(pbl@nrc.or.jp)で受け付けます。住所・氏名・年齢・職業・電話番号(メールアドレス)を明記。北方圏センター出版部・北方圏係まで。採用分には薄謝を進呈します。

70人ほどの学生たちの感想文が出席簿の代わりに提出された。それを読んで驚き、うれしく思ったのは各地の大聖堂やマリア聖堂等建物の美しさへの感嘆もさることながら、一人旅を十分に楽しませてくれるスペイン人のホスピタリティーに関心が集まったことだった。

バル(スペイン風居酒屋)で同席した家族と目が合って乾杯。その時からアミーゴ(友達)扱いしてくれる。地元の美味しいものを薦め、日本のことを聞いてくる。「コンニチハ」の一言だけだったが、日本語で最初に語りかけてくれた。巡礼路と一緒に歩いた女子大生風のステキな巡礼者も「コンニチハ」だけは日本語。旅が一挙に楽しくなった。

後日、学生食堂で雑談した学生たちは、北海道にもたくさん来ている外国人観光客に「ニイハオ」「アンニョンハセヨ」くらいの挨拶をするだけでも大変喜んでもらえるのだとよく分かったと私に言った。この時はうれしくてたまらなかった。私たち道民がごぞってこのようなホスピタリティーを持てたら、ステキですね。



営業ご案内

ご結婚内祝、お中元、ご出産内祝、ゴルフコンペ賞品、御祝、お歳暮、セールキャンペーン用品、快気祝、芸事発表会、訪販用品、社内の運動会、誕生日、展示会ご来場記念品、ごあいさつ用品、ご新築内祝、ご進学内祝、ご婚約記念、落成記念、永年勤続、忌明志、年末あいさつ用品、お買い上げ記念品、ご来店記念、誕生日、ご拡売感謝

Gift Plaza ギフトプラザ 記念品の総合商社 株式会社美因園
Premium & World Goods
札幌市中央区大通東7丁目水野ビル TEL011-231-6612 FAX011-271-1132

「北方圏センター」の名を捨てるな

墨谷 和則 (61歳)

札幌市、会社役員、北方圏センター個人会員

バンクーバー五輪の放送を横目で見ながらこれを書いている。北海道の選手はもちろん、北方圏諸国の選手も大活躍している。冬季五輪はスピード感、スリル感にあふれ、寒さを感じさせない。カーリングに手に汗を握り応援している人は日本中に大勢いるに違いない。カーリングの普及は、北海道の北方圏交流の一つの成果と聞いたことがある。交流の成果はスポーツだけではなくことを忘れてはいけない。

住宅の気密断熱、認知症患者のケア、福祉、産業クラスター、ライフスタイル、自然環境の保全、学術研究等々枚挙にいとまがない。しかし、これで十分か。民主主義の在り方、政治制度、平等のあり方、産業経済の国際競争力の要因、教育制度など、地域主権を構築していくために欠かせない基本的な事柄をまだまだ学ぶ必要があるように思われる。

20世紀は「物の豊かさ」、21世紀は「心の豊かさ」と言われて久しい。現実はどうか。経済格差は拡大し、心も貧しさだけが見え隠れする。日本の各地が北欧に熱い目を向けている。北海道は北方圏交流の財産を生かし、北欧を中心とする交流を活性化すべきである。

北海道には歴史がないと言われるが、北方圏交流があるではないか。その中核の役割を果たしてきた「北方圏センター」は道民が作り上げた世界に誇れるブランドである。このブランドを本当に捨てるのか。そして何処にでもある特色のない国際交流団体に衣替えするのだろうか。今こそこのブランド名を最大限に生かし、北方圏各国に開かれた窓となり、同時に世界各国との交流に邁進してほしい。そして北海道自律の大きな原動力になることを期待する。

メキシコとスウェーデンに学ぶ

梶川 裕史 (46歳)

札幌市、社会福祉法人職員

私はロータリー財団奨学金で2001年に1年間メキシコに留学した関係で在札幌メキシコ名誉領事館に関わっています。ロータリークラブには職業人交換プログラムがあり、奨学生OBで組織する学友会員として、スウェーデンに職業人を今年派遣する活動にも関わっています。

メキシコとスウェーデンから学ぶべきところは非常に多いと感じます。経済開発協力機構(OECD)が発表する国民生活満足度によると、06年は25カ国中、メキシコは8位、スウェーデンは9位。日本は21位です。この差はどこにあるのでしょうか。

メキシコは貧富の差が激しく、治安も良いとはいえません。ただ、国民のメンタリティーがとても豊かです。新型インフルエンザの発祥の地はメキシコでしたが、殆ど国民生活に影響しなかったと聞いています。「悪いことは良いことのためにやってくる」という諺があり、物事を悲観しない感性があります。

スウェーデンの消費税は25%。しかし、社会保障として確実に戻ってくる実感があります。教育費は大学まで無料で、所得格差が教育格差につながりません。

医療、介護、雇用等の社会保障も同様で、社会の安心形成のために税金が手厚く使われます。安心感があると国民は消費を抑える必要がないため、内需型経済が強くなります。スウェーデンでは政党が減税を訴えると選挙に勝てないといえます。日本ではアメリカ型の競争社会ばかりが取り上げられますが、日本の中で北方圏に位置する私たち北海道人は道州制を見据え、特に違った視点を持つても良いのではないのでしょうか。

臨時理事会の報告



北方圏センターの臨時理事会が1月27日開かれ、社団法人北太平洋地域研究センター（NORPAC、南山英雄会長）の解散に伴う事業承継を承認しました。2011年度をめぐり新公益法人への移行を目指す基本方針についても承しました。当面の組織拡大策として、学生会員等の創設や北方圏交流基金の助成対象事業の拡大を盛り込んだ定款変更案も確認されました。5月20日の2010（平成22）年度通常総会に提案します。

【NORPACの事業承継～10年度から】

NORPACは2月10日の理事会

・臨時総会で3月31日で解散することを正式決定。これにより、NORPACの研究員2人と事務局職員1人の計3人を北方圏センターが4月1日付で採用します。北方圏センターとしては調査研究部門の充実が図られます。

NORPACは1986年、旧社団法人フレッチャー北海道プログラムセンターとして設立され、91年に名称変更しました。米国、カナダ、ロシア、中国、モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国、韓国、日本の研究機関と協力関係にあります。中国・北海道経済交流会議や北太平洋学術交流会議の開催などを通して北太平洋地域における社会科学系分野の調査研究に実績を

持っています。

【新公益法人への移行～11年度目標】

道知事認可の公益社団法人化（公益目的事業比率が全体の50%以上であることが条件）を目指します。全面的な定款変更が必要になり、組織の名称、目的、事業などを検討します。定款変更案は来年5月の2011年度通常総会に諮り、同6月の移行申請を目指します。

【学生会員等の創設～10年度から（認可後）】

個人会員の現行年会費は1口5,000円ですが、学生・主婦・パートタイマーなど独立して生計を立てていない人を対象に1口2,000円の新会員制度を設けます。法人・団体会員（1口1万円）についての変更はありません。

【北方圏交流基金の助成対象を拡大～10年度から（認可後）】

北方圏交流基金の助成対象は現在、北方圏諸国との交流事業に限定されています。これを北方圏以外の国との交流も助成対象とできるように改めます。

「未来」への貢献を目指し、



新たな分野に挑戦しています。

RYUBUNDO CO.,LTD.
株式会社 龍文堂

本社 / 〒006-0832 札幌市手稲区曙2条5丁目2番54号

TEL 011-682-1451 FAX 011-694-4406

営業所 / 〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町10番10号 久松ビル4F

TEL 03-5847-8330 FAX 03-5847-8331

URL:<http://www.ryubundo.co.jp>

元職員、太田勇さんを特別功労表彰 12月24日(木)

北方圏センターで長く活躍し、昨年12月に退職した太田勇さん(63)が南山英雄会長から特別功労表彰を受けた＝写真。

太田さんは約33年間、センターに勤務。80年代にはカナダ・アルバータ州からカーリングの指導者を招いて道内各地で講習会を開く仕事に携わり、カーリングが日本に普及する礎作りに貢献した。ロシア極東やシベリアなどの資源事情を調査するため、外務省の委託で

ロシア、中国、北朝鮮なども走り回った。退職に当たって整理した名刺は約7000枚。幅広い人脈を物語る。

情熱を傾けた北方圏交流の基になった北方圏構想に道庁の関心が今や薄いことが寂しい。「厳しい気候条件のもとで暮らしてきた人々の知恵を日本人は今最も必要としている時ではありませんか」。力を込めてそう言い残した。



JICA研修員と新春文化塾 1月30日(土)

独立行政法人国際協力機構札幌国際センター(JICA札幌)に滞在している研修員が日本の伝統文化に親しむ恒例の新春文化塾が札幌市白石区の同センターで開かれた。研修員約70人とスタッフ、ボランティアなど計約100人が参加。南京玉すだれの実演や和太鼓の演奏体験、日本の昔遊びなどを楽しんだ。

昼食の鮓は、アフリカなど多くの研修員の母国の食文化にはない生食とあって、参加者はおっかなびっくり。黒い食べ物が珍しいら

しく、海苔を見て「これは食べられるのか」とげげんそうに尋ねる

研修員もいた。生の牛肉を食べる習慣があるというエチオピア人の研修員だけは「平気、平気」と言いながら生鮓をおいしそうに味わっていた。鮓職人がマグロをおろす包丁さばきを披

露すると、参加者は争うようにカメラを向けていた＝写真。



倶知安町で国際交流地域懇談会 2月18日(木)

北方圏センターが主催する国際交流地域懇談会が倶知安町で開かれた＝写真。同町ではオーストラリア資本を中心とした外資によるリゾート開発が進み、施設従業員や観光客として長期滞在する外国人が増えている。そうした外国人との共生を考えるため、全国市町村国際研修所(JIAM)より講師を招き、多文化共生の環境づくり

について話を聞いた。

2009年度の懇談会はほかに札幌市(11月16日)▽室蘭市(2月17日)▽名寄市(3月4日)でも開いた。自治体や国際交流団体が取り組んでいる国際交流や国際協力の活動についての情報交換や、団体同士のネットワークづくりが目的。10年度も継続する。





省外国貿易局室長、外務省対外経済関係局次長などを務めた。前職は欧州復興開発銀行（在ロンドン）理事。通商政策に明るく、フィンランド企業の日本市場への参入に意欲を燃やす。教育や医療、健康管理といった分野でもフィンランドのノウハウを紹介したいという。北海道との関係について「さまざまなことを共有し、密接な関係を深めたい。より良い関係を築くためにお役に立てることがあれば、いつでもご連絡を」と語った。

2月4日（木）

パラグアイ青年交流団

表敬訪問

横田清美団長（66）▽土田マリアナさん（40）▽下真美さん（36）▽大石未来さん（25）▽森貝和久さん（23）▽山下真弥さん（20）の6人。北海道から南米に移住した日本人やその子孫を対象にした北海道外国訪問団受入事業（北方圏センター所管）で来道し、約1週間滞在した。今年度が14回目、真冬の実施は初めて。参加者にとっては真夏から季節が一気に逆転した。



24歳まで札幌に住んでいた横田さん＝写真右から3人目＝は「冬の北海道と雪を久しぶりにかみしめています」。下さん＝左から3人目＝が「パラグアイで生まれ育ったのに、暑さに対応できない。寒い方が好きです」と話すと、迎えた関係者からは「北海道人のDNAを持っているからだよ」。一行は札幌市内で観光やさっぽろ雪まつりの見物を楽しんだ。

2月4日（木）

駐日南アフリカ共和国特命全権大使

ガート J・グロブラーさん（62）

表敬訪問



初めての来道で、「北海道と協力する可能性を模索したい」と目的を語った。大学卒業後、外交官となり、欧米勤務が長い。在スペイン大使（2002～06年）、外務省米州・欧州担当副次官代行を経て08年11月から現職。南アフリカは日本を「戦略的パートナー」と位置づけ、日本との関係をさらに深く広くしようとして、大使自ら東京の外を回っている。「北海道の強みは農業とツーリズム、観光にあり、協力関係を強めたい。文化・学術交流も重要だ。南アフリカと日本の大学フォーラム（東京とケープタウンで相互開催）が3年目になり、日本の大学に参加を呼びかけている。北海道大学との関係も深めたい」

南アでは6月、サッカー・ワールドカップが開かれる。「南アフリカを世界に発信できる格好の機会。決勝は南アフリカ対日本になるといい」とリップサービスを忘れなかった。

11月24日（火）

ブラジル北海道協会副会長
平野オストンさん（38）

表敬訪問

北海道日伯協会設立20周年記念式典（11月26日）に出席するために来日した。旧樺太出身の祖父の代にブラジルに移住した日系3世。ブラジルは2014年のサッカー・ワールドカップに続き、2016年夏季五輪の開催地にも決定。「世界中の目がこれからブラジルに引きつけられるでしょうね」。南米初の五輪が決まった当初、国内は喜びに沸いたが、今は「本当にできるのかという心配の声も出ています」。一番の心配の種は治安。もともと治安の良好な国だったが、1970～85年に続いた不景気で悪化した治安がなかなか回復しない。

話題は安平町から2008年2月、真夏のサンパウロに贈られた雪だるまに及んだ。ブラジル北海道協会会館に31個展示され、1万人近い市民が押し寄せた。「北海道の地名がブラジル人の記憶に刻み付けられた。北海道の素晴らしい宣伝になりました」

12月10日（木）

ブラジル北海道協会会長
木下利雄さん（73）

表敬訪問

「ブラジル北海道協会は世代交代の時期を迎えている。日本文化を継承し、ブラジル文化を日本にも紹介する真の交流人を育ててほしい」。北海道日伯協会設立20周年式典で現地の協会を代表して挨拶した。

積丹町出身。1961年にブラジルに渡り、理髪業を15年間営んだ。その後、日本食レストランを起業して成功した。「20周年式典が盛大に開かれたのはよかった。高橋はるみ知事からプレゼントをいただくなど歓迎してもらい、来た甲斐がありました」と語った。



12月28日（月）

韓国人留学生

金其垣(キム・キウォン)さん(24)＝写真左端
徐民鎬(ソ・ミンホ)さん(24)＝左から2人目

日本語を勉強するため、2009年4月から1年間、札幌国際大学に留学。同大の社会人教養楽部に在学する社会福祉法人北海道リハビリ理事長の奥貫一之さん（70）＝写真右端＝の案内で、徐さんの友人の留学生（在東京）を加えた4人で札幌市内を散策中に北方圏センターに立ち寄った。韓国を含む国際交流に北方圏センターが果たしている役割を聞かされた2人は感心しきりだった。

2人とも留学を終えて3月に帰国した。奥貫さんによると、「寮と大学を往復するばかりの生活で、日本人と接触する機会が少なかった」と残念がっていたという。彼らのホームビジットを大学から依頼された奥貫さんは「そのような機会を多く作ってあげることがこれからの課題ですね」と話した。



1月18日（月）

駐日フィンランド国特命全権大使夫妻

ヤリ・グスタフソンさん（51）、アンナさん
表敬訪問

2009年9月に就任。今回の来道は雪深い一日と重なり、「フィンランドも今、雪の中にあり、自分の国にいるような気持ちです」と北海道への親近感を示した。

通産官僚の出身で、これまで通商とEU（欧州連合）統合の仕事に従事したほか、同

北方圏センター掲示板

●フィンランド語入門講座、受講者募集～4月開講

北海道フィンランド協会（井口光雄会長）は初心者を対象にしたフィンランド語入門講座の受講者を募集しています。講座は同協会（札幌市中央区南9西3、パークビル4階）を会場に4月10日（土）から毎週土曜日の午後7時～8時半。授業料は1期10回で1万5,000円（テキスト代込み）。来年3月まで全40回行います。会員には割引特典があります。講師は同協会の片瀬康勝さん。途中からの参加もできます。問い合わせ・申し込みは同協会（☎011・788・2011）。

●米国マサチューセッツ州より高校生ら102人來道～札幌で吹奏樂の合同演奏会（4月15日）、国際交流会（同16日）

北海道と米国マサチューセッツ州の姉妹提携20周年を記念し、同州コンコード町のコンコードカーライル高校プラスバンドの一行102人が4月13日（火）～22日（木）、北海道を訪れます。

一行は生徒88人と引率者14人。15日（木）午後6時半から札幌市民ホール（中央区北1西1）で道立札幌白石高校吹奏樂部と合同演奏会を開きます。両校は98年から互いに往来し

て合同演奏会を重ね、今回は6回目。両校とも吹奏樂の名門で知られます。

カーライル高校の一行は16日（金）午後6時半から同市社会福祉総合センター（中央区大通西19）で開かれる「高校生を中心とした国際交流会」に参加します。17日（土）からコンコード町と姉妹提携している七飯町を訪問し、道立七飯高校との姉妹校提携調印を予定しています。

合同演奏会と国際交流会は事前申し込みが必要です。問い合わせ・申し込みは北海道・マサチューセッツ協会（☎011・231・3392、FAX011・231・3666）。

●平成22年度北方圏センター通常総会、5月20日開催

北方圏センターの通常総会が5月20日（木）午後2時半から京王プラザホテル札幌（札幌市中央区北5西7）で開かれます。新年度予算案や事業計画案のほか、学生会員制度の創設、北方圏交流基金の助成対象拡大に伴う定款変更案などが議題となります。

総会終了後、V・I・サープリン在札幌ロシア連邦総領事が「ロシア社会の現状と課題～ロシア人の日本に対する見方」をテーマに講演します。講演会に続き、会員交流パーティー（会費3,000円）も予定しています。

「Hoppoken」誌定価、28年ぶり値上げのお知らせ

2010年春季号（151号）から本体定価を100円値上げし、600円（消費税込み630円）とさせていただきます。旧定価の500円（同525円）は1982年春季号（39号）以来、据え置いてきましたので、28年ぶりの改定となります。

定期購読の年間購読料はこれまでの2,100

円（送料別）から2,520円（同）になります。旧定価で年間購読のお申し込みを既に行っている読者の方については、契約更新時より新定価を適用します。

読者各位におかれては諸般の事情をご賢察いただき、ご了承をお願いいたします。

編集後記

◇大学生だった1980年代。参加したデモでジグザグをしたら、隊列の端にいた私の右足の甲を目掛けて機動隊員が盾を打ち下ろしてきた。間一髪で足を引っ込めた。別のデモで、デモ指揮をしていた後輩が逮捕され、救援活動に奔走した。新宿バス放火殺人事件の被告に「あなたの生い立ちに同情する」という趣旨の手紙を出したら公安警察に尾行され、親元まで調べられた。

私が体験したささやかな国家暴力である。暴力性をもっとむき出しにしている国ならば、こんな生ぬるいことでは済まない。命がけの覚悟が必要になる。

国家とはそもそも暴力的な存在だ。国家暴力が発動される最たるものに（侵略）戦争がある。国家をいかにして凶暴化させないかに

民主主義の成熟度が問われる。

歴史を振り返れば、死刑という刃物を国家権力に持たせると、ろくなことがない。日本では悪名高い「大逆事件」があった。治安維持法の最高刑は死刑だった。死刑を最高刑とする治安立法を求める政治勢力が今もある。

死刑廃止の潮流に背を向け続ける日本政府。圧倒的多数の民意に依拠し、民主主義の名の下に死刑制度を手放したくない暗黙の国家意思がそこに働いている。

死刑存廃に論点が多々あるのは分かる。一つ確かに言えるのは、死刑廃止は死刑存置を克服した社会の姿であり、その逆では決していないことだ。北欧諸国などが死刑を克服した歴史を知ること、日本を再び凶暴な国にしない一つの視座になると信じている。（寿）

◇この国はどうしてこうなのか、とつくづく思う。高校無償化の対象に朝鮮学校を含めるかどうか、政府の決定が先送りされた。拉致問題など日朝間の政治問題が背景にある。朝鮮学校の生徒たちは両国政府間の対立とは何の関係もない。それはそれ、これはこれという対応になぜならないのか。

戦後60年以上も北方領土を日本政府の立場からすれば「不法に」占拠しているロシアに対し、「制裁しろ」という国民世論は今やどこにもない。「それはそれ」として日露間の交流は幅広い分野で行われている。何もかも政治問題と絡めるところから建設的な対話や交流は生まれえない。国際交流や多文化共生を標榜する団体が声を上げるべき時ではないのか。（寿）



第151号

定価630円(送料70円)

(消費税込)

会員無料配布・禁無断転載

発行所 二〇一〇年四月六日発行(年4回・季刊)
社 札幌市中央区北三西七(道庁別館)
北方圏センター ☎221-7840
印刷者 (株)笠田能央
製作者 (株)山藤三陽印刷株式会社
購読希望の方は郵便振替で。
一年二、五二〇円(送料別)
郵便振替口座 〇二七八〇二二二四二二一

会員募集

お知り合いに入会をお誘いください。

北方圏センター(会長・南山英雄)は会員の会費で運営されています。

●年会費は法人・団体が1口1万円、個人が1口5千円

(会員特典) バッジ、季刊誌「Hoppoken」、年報を無料配布。季刊誌データベースを無料検索できます。契約宿泊施設の優待割引券を進呈します。

●季刊誌「Hoppoken」の定期購読のみもできます。年間購読料2,520円(送料別)

北方圏センターについて

昭和46(1971)年にスタートした「第三期北海道総合開発計画」に北方圏構想が盛り込まれました。気候風土を同じくする北米、カナダ、北欧などとの交流を通じて産業経済や生活、文化の向上を図り、北国の風土に根ざした地域づくりを進めることが目的でした。開拓以来の南方志向の発想を北方志向へと劇的に転換するものもありました。推進母体の「北方圏調査会」を前身に昭和53(78)年、現在の社団法人北方圏センターが発足しました。

北海道は北米や欧州諸国に国内で最も近く、北方圏諸国とアジア太平洋地域との結節点に位置するため、世界との交流をさらに広げようと平成8(96)年、国際協力機構(JICA)が設置した「国際センター」(札幌、帯広)の管理運営を受託。平成10(98)年には自治大臣(現総務大臣)から「地域国際化協会」に認定されました。設立30周年の平成20(08)年には今後の方向性を検討する「あり方検討委員会」を設置。北海道の中核の国際交流団体として一層の役割発揮をめざしています。

社団法人 **北方圏センター** ☎060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目(道庁別館)
☎(011)221-7840 FAX(011)221-7845
ホームページ <http://www.nrc.or.jp> E-mail gjpn@nrc.or.jp (総務部)

ニシン

『鯨』と書く。が、『春告魚』
とも書く。

こちらの方が北国の寒く、雪に
囲まれる地にとっても相応しく、春
が待ち遠しい心に光が差し込むよ
うな良い魚名である。

最近、スーパーマーケットに行
くと魚売り場に鱈がキラキラと輝
くニシンが数多く並べられてい
る。小樽市の船浜町でも2月上旬
に今年初の『群来』が確認されたと
報じられていた。これは産卵の
ためニシンの群れが浅瀬の海藻に
集まり、オスの『白子』と呼ばれ
る精子の放出により海面が白くな
ることである。なんとそれが、幅
100〜300メートル、長さ1キロ以
上にも及ぶという。それだけ大量
のニシンが目の前に現れ、大漁に
結びついている証である。

実は私の曾祖父が『ニシン場
(ニシン漁業)』を営んでいた。後
志支庁の日本海に面した寿都町の
さらに奥の『島牧村軽臼』であ
る。島牧村史によると、明治14
(1881)年、『阿部松之助
永豊より軽臼に移り鯨漁業を営
む。(のち雇人漁夫一四〇人、漁船
二八隻を有し、建網七か統を経
営)』とある。

私は札幌市の生まれであるが、
(曾祖父が軽臼に建てた家に疎開し
た。昭和19年の初冬、小学校入学
前から中学校1年1学期までの腕
白の時代であった。目の前は海、
後ろは山。クネクネとした細い山

道を登ると小さい畑がある典型的
な田舎であった。当時はすでにニ
シンは幻の魚になっていて、一度
も漁獲が有ったと聞いたことがな
かった。しかしニシン以外の魚は
いろいろと獲れた。村の殆どの家
が漁師で、少しの農家が川の近く
に有った。私の父はロシアの捕虜
になって抑留されていた。兄と共
に小さい畑の手伝いをする、後
は2人で前浜での魚釣りであつ
た。特に夏休みは毎日、朝から薄
暗くなるまで、一日中海に潜り、
アワビ、ガンゼ、(バフノウニ、
ノナ(ムラサキウニ)で腹を満た
して遊んでいた。

こんな少年時代を過ごした経験
からか、魚を買う時は頭の付いて
いる一匹まを買うことにしてい
る。その姿をほのぼのと眺めてか
ら描くことにしている。こんなこ
とを始めてすでに十五、六年は経
っている。魚の種類は北海道産と
決めていて、すでに40種を超える
数になっている。それからやおら
料理にとりかかるのであるが、頭
はもちろん、肝臓、胃袋など殆ど
平らげることになっている。ニシン
で一番ピュラーな食べ方は、一
匹まま焼いて大根おろしと醤油で
いただくのが旨い。

ニシンを描きながらこんなこと
を思い出した。かなり昔のことに
なるが、家の周りで一斉にニシン
焼きが始まった。殆どの家が小路
に七輪を出し、網渡しを載せ、そ
の上で焼くのであるが、火事にな
りもなっているように煙がモウモウ

と上がり小路の先が霞んでいたの
を懐かしく思い出す。今のように
排煙装置の付いた台所など無かつ
たのである。

ニシンは煮付けても美味しい
し、最近は新鮮なものを刺身にし
て出してくれる店も多くなった。
これがまた絶品で酒の量が増える
のである。さらにこの魚はほとん
どにいろいろと加工され、多くの
食材として利用されている魚の優
等生だ。魚卵は正月料理に欠かせ
ない数の子として、さらに結納品
の一つとして子孫繁昌を表す象徴
として珍重されている。何と言っ
ても頭と尾を取って二枚におろし
て乾燥させた『身欠きニシン』は
日本の全ての人が食していて、こ
の呼び名を知らない人はいないと
思うほど名が売れている。

昆布巻きに、ニシン漬けに、あ
るいは味噌を付けそのままじつ
ても美味しい。北欧、カナダに行
くとマリネとして、豊富に加工さ
れた土産品として街の中でもよく
見かける。

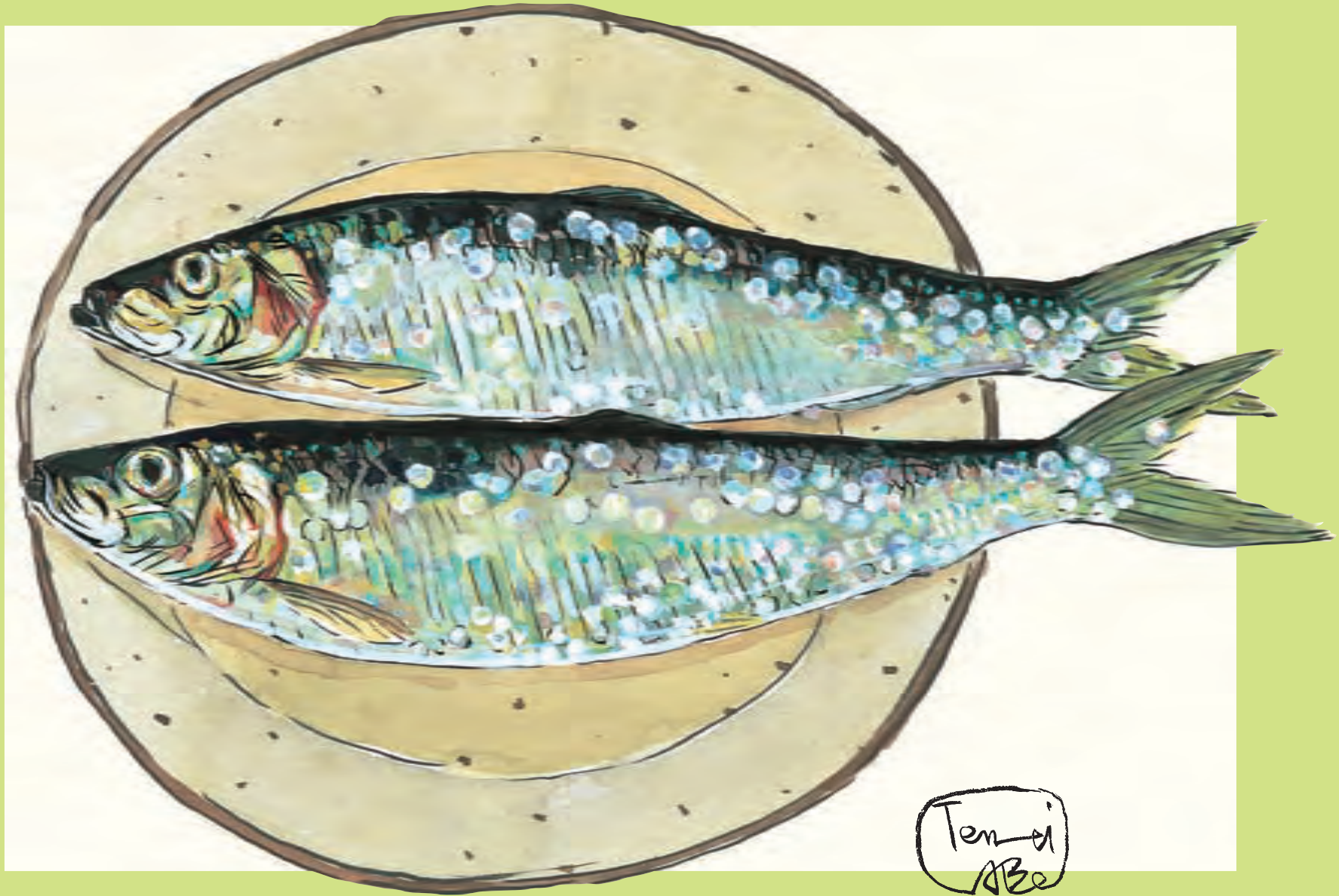
そうです。この『春告魚』は北
海道、日本はもちろんのこと世界
で愛されている魚のベスト・テン
に入ると考えている。マグロのよ
うに高級魚ではないが、人間はこ
の魚に大変お世話になっている。
さまざまなお文化を生み出す恵み
の宝魚なのだ。

また来年も、北海道の海で多く
の『群来』の朗報を念じ、感謝し、
今夜も又、酒の友としている。
(美術家 阿部 典英)

あへ・てんえい 1939年、札幌市生まれ。集団「12枚
空間」として北海道芸術新賞(73年)、「TODAY」作家集
団として第1回北海道国際文化交流賞(86年)、「北の造形・
旭川大賞展」優秀賞(96年)、札幌市民芸術賞(造形)(00年)、
洞爺村国際彫刻ビエンナーレ・小田賞(07年)など受賞。
作品の主な収蔵先は韓国国立現代美術館、道立近代美術館、
道立旭川美術館など。現在、北海道文化団体協議会会長。

【編集部から】道内美術界の重鎮、阿部
典英さんが「さかな」にまつわるエッセ
ーをイラスト付きでお届けします。

北のさかな



Tenji
ABe

HOKKAIDO BANK MONEY EXCHANGE PLAZA

道銀 外貨両替プラザ

〈米ドル・ユーロ〉両替プラザ限定レートにて取扱中!

米ドル 道銀本支店窓口レートより**30銭引**

(円から外貨現金への両替のみ適用)

※ステップDo対象者にも適用いたします。

ユーロ 道銀本支店窓口レートより**2円50銭引**

(円から外貨現金・外貨現金から円、どちらの両替も適用)

平日は午後7時まで、
土曜日にも営業。



●平日 / 午前10:00～午後7:00 ●土曜日 / 午前10:00～午後5:00

※日曜・祝日・年末年始はお休みとさせていただきます。

お問い合わせは ☎(011)233-1167 道銀外貨両替プラザまで

 北海道銀行
<http://www.hokkaidobank.co.jp/>